

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9

輸送管理

PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
輸送管理 PeopleBook
SKU SCM89JTR0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為(過失および故意を含む)のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

概要	1
業務の概要.....	1
輸送管理業務について.....	1
Idea to Action: 競争上の優位性.....	5
輸送管理システムの概要.....	7
システム・インテグレーション.....	8
輸送管理システムの機能.....	8
用語と概念.....	10
テーブル.....	12
システム・セットアップ	15
輸送管理システムの有効化.....	15
ハブの設定.....	15
AAI(自動仕訳)の設定.....	16
処理オプション: <流通AAI>プログラム(P40950).....	19
作業日カレンダーの設定.....	19
処理オプション: 作業日カレンダー(P00071).....	24
ユーザー定義コードの理解.....	24
輸送管理固定情報の設定.....	25
積荷固定情報の設定.....	32
積荷タイプの設定.....	32
積荷用自動採番の設定.....	34
輸送モード固定情報の設定.....	35
品目の設定	38
共存不可品目の設定.....	38
品目出荷情報の設定.....	39
処理オプション: 品目マスター(P4101).....	42
出荷トラッキング番号設定	49
出荷トラッキング番号の設定.....	49
運送業者の設定	55
運送業者の設定.....	55

運送業者マスター情報の設定.....	55
ライセンスと登録情報の設定.....	57
レートの設定	59
レートと定義の設定.....	60
レート・タイプの理解.....	60
レート・レベルの理解.....	61
料金コードの設定.....	61
レート定義の設定.....	62
検索タイプの設定.....	66
料金表の設定.....	68
付帯料金の設定.....	69
レート・パラメータの設定.....	70
レート表の設定.....	73
レートの更新.....	74
複数のレートの更新.....	74
配送経路レートの更新.....	75
配送経路の設定	77
配送経路の設定.....	78
配送経路階層の設定.....	78
配送経路入力の設定.....	79
配送経路制約の設定.....	83
運送業者区域の設定.....	85
オプションおよび設備規則の設定.....	86
複合輸送配送経路の設定.....	86
輸送優先情報	89
優先情報の使用方法.....	89
例: 優先情報の適用.....	90
優先タイプとは.....	90
優先マスターと優先階層の処理.....	91
優先マスター情報の設定.....	91
優先階層の作成.....	93
顧客と品目のグループへの割当て.....	94
顧客のグループへの割当て.....	95
品目のグループへの割当て.....	104
基本優先情報の設定.....	106
標準優先情報の入力.....	106
詳細優先情報.....	107
カスタム優先タイプ.....	112
伝票制御の設定	115
伝票の設定.....	115

伝票自動採番の設定.....	115
伝票印刷プログラムの設定.....	119
伝票セットの設定.....	123
伝票デポ情報の設定.....	124

車両の設定 127

車両情報の設定.....	127
車両タイプの設定.....	127
車両寸法の設定.....	131
車両コンパートメントの設定.....	132
車両設備の設定.....	133
車両管理情報の設定.....	134
車両マスター情報の設定.....	134
車両ライセンスの設定.....	136
車両の使用不可日の設定.....	137
接続車両の設定.....	138

担当者の設定 140

デポ/車両担当者の設定.....	140
------------------	-----

輸送計画 142

輸送プロセス・フローの理解.....	143
輸送出荷の計画.....	144
オーダー入力時の出荷作成.....	145
オンライン請求書による運賃の見積り.....	146
出荷情報の改訂.....	146
出荷貨物の定義.....	150
出荷へのオプションおよび設備の割当て.....	153
配送経路オプションの検討.....	154
出荷の承認.....	155
積荷の処理.....	164
積荷の作成.....	165
出荷品目の手入力による追加.....	171
積荷へのオプションおよび設備の割当て.....	172
積荷の中継点順序の検討.....	173
集中配送の作成.....	174
コンパートメントへの積荷の割当て.....	175
積荷の検討.....	176
積荷の承認.....	176
積荷の未承認への状況変更.....	177
積荷生成履歴の処理.....	184
一時的な料金設定の処理.....	186
配送処理.....	187
配送処理.....	188

出荷の確認	188
トラック番号の入力.....	198
配送伝票の印刷	198
配送証明の記録	203
積荷の確認	204
封印の処理	215
配送の確認	216
計画外配送の作成	217
処分の記録	218
積送中在庫情報の検討.....	220
出荷トラック	221
出荷のトラック	222
出荷状況の検討	222
出荷トラック.....	224
出荷状況の記録	225
運賃の更新	227
運賃の更新.....	227
運賃の更新	228
運賃請求書の突合せ.....	237
運賃更新の検討	249
運賃監査履歴テーブルの調整	250

概要

輸送管理システムは、商品や資材の移動を管理するサプライチェーン管理プロセスの構成要素です。原材料、構成品、完成品が仕入先から製造業者、流通センター、顧客へと輸送される際のコストが製品の最終的なコストの中で大きな比率を占めるようになっていきます。積送中の状況を把握することは、納期遵守による顧客サービスの向上や顧客からの出荷状況問合せに迅速に対応する際の重要な要素になります。

このセクションでは、輸送管理システムに関する情報の他に輸送業界についての概要を説明します。

業務の概要

輸送業界では、書類の翌日配達から木材輸送まで、さまざまな出荷を取り扱います。概要では、さまざまなパッケージ、出荷、および積載量の例を挙げ、輸送業界で見られる問題を輸送管理システムがどのように処理していくかを説明します。

輸送管理業務について

輸送業界では、さまざまな出荷を取り扱います。目的に応じて、輸送のシナリオを設定する必要があります。出荷タイプが異なるとスコープも変わります。重量、輸送距離、および最適な納入時間などは、出荷タイプを決定する要因となります。

小荷物の出荷

小荷物の出荷で取り扱う重量は、1 個あたり 1 ポンドから 150 ポンドまでで、封筒サイズから 1 人で持ち運び可能な箱や木枠などがあります。小荷物運送業者は、翌日着の空輸便や署名の受取りなど、さまざまなサービスを取り扱います。運送業者によって輸送時間、配送、サービスの内容は異なります。

小荷物運送業者の場合、運賃は通常、区域別に請求され、請求の基準は重量です。運送業者は、サービスに応じて異なる価格レベルを設定することがあります。翌日配送サービスは、標準の配送よりも高価で、当然、翌々日配送よりも料金が高く設定されます。小荷物出荷は、最終配送地までにさまざま輸送モードを活用します。各出荷は空輸または陸輸、あるいはこの両方を使って輸送され、受取人の署名を必要とするなどのサービスもあります。

次の例は一般的な小荷物出荷を表しています。

- コロラド州デンバーにある XYZ 社は、緊急の書類をワシントン D.C.に翌日に届けなければなりません。
- コロラド州デンバーにある XYZ 社は、マサチューセッツ州ボストンへ送る 3 個口の荷物が あります。重さは 1 個目が 50 ポンド、2 個目が 125 ポンド、3 個目が 145 ポンドです。配送には 2 日かかります。荷物がそれぞれ 150 ポンドを超えないので、小荷物運送業者を使って配送できます。

LTL(トラック1台分未満)出荷

LTL 出荷は、アメリカ合衆国のみで使用されている出荷方法です。他の国では、150 ポンドから 30,000 ポンドの荷物を運ぶ運送業者もあります。アメリカの LTL 業界は、政府による規制を受けています。

業務の概要

1980 年以前には、トラック運送業には次のような規制がありました。政府がすべてのトラック運送業者に対して標準料金と配送経路を設定していました。各トラック運送業者は、配送経路を獲得するために、政府の承認を得なければなりません。政府により決められた配送経路以外にマーケット・シェアがあるとわかっている場合は、そのサービス拡張のために政府に申請する必要がありました。規制により競争が抑制され、各運送業者はビジネスやマーケット・シェアを一定の数に制限されていました。また、料金は政府により設定されていたため、顧客は料金以外の輸送時間と全体の業務内容のみを頼りに運送業者を選びました。

1980 年に政府が運送業に対する規制を緩和しました。輸送業界への参入を妨げていた障壁や、すべての運送業者に強いられていた基本料金が取り除かれました。誰でも運送業を始めることができるようになり、配送経路も選べるようになりました。

料金の規制がなくなったため、基本料金も自由に設定できるようになりました。これにより、運送業界が配送経路に設定する価格が大きく変わりました。各運送業者は、同一の割引レベル、配送経路で、同一の品目を輸送する場合でも異なる料金を設定できるようになりました。運送業者の輸送する貨物量は各地域により異なるため、価格を調整することによって高コストの分野をカバーしたり、新しい顧客の獲得のために価格を下げたりできます。このようにコストの相違が生じた場合、輸送部門管理者は、各出荷にかかる実際の運送費用を調査するために、割引レベルの他に分析する要素が必要となってきました。

政府の規制がなくなったことにより、運送業界では共通の基準料金が必要となりました。南部自動車運送業会(Southern Motor Carrier board)では業界共通の基準料金を設定しました。この料金は CzarLite と呼ばれ、すべての運送業者の平均的な料金となっています。多くの輸送部門管理者は、運送業者に対してこの基準料金から料金を割引くよう要求します。多数の輸送を依頼する会社は、運送業者にこのような要求をすることがよくあります。次の例では、同じような配送経路に対して異なる需要のある運送業者を説明します。

ある運送業者では B 地点からよりも多くの輸送を A 地点から扱っています。マーケット・シェアを維持したいので、A 地点から配送する場合に競合会社と同じ料金にすることに決めました。B 地点から輸送した場合に関しては、設備と数量のバランスを調整するために、次のいずれかを行うことができます。

- 競合相手よりも料金を 10%安くする。
- B 地点からの料金を競合相手よりも高く設定して、A 地点からの輸送で下がっている総利益率を上げる。

LTL 業界では、今日のように競争が激化したことがありませんでした。市場には新しい運送業者が次々と参入しています。小規模のパッケージを扱う運送業者は取り扱う出荷サイズを拡張し、トラック運送業者は LTL 業界で競合するために料金を下げています。輸送管理システムは、LTL で必要とされているあらゆる料金設定に対応することができます。

運送業者の概要

アメリカでは LTL を使って出荷する場合、小荷物運送業者の最大重量 150 ポンドとトラック積荷運送業者の最大重量 30,000 ポンドの範囲の積荷が取り扱われます。LTL 輸送モードは通常、陸送または鉄道いずれかです。LTL 出荷では、1 つの箱、木枠、パレット、またはドラムに梱包された品目を扱います。寸法は 28 フィート×8 フィート×8.5 フィートに納まるものを扱います。

LTL 運送業者の輸送モードは通常、28 フィートのトレーラーが標準使用となっています。これらの規格は、町の中で集荷したり配送するのに便利です。LTL 運送業者は、さまざまな都市や州への積荷を取り扱います。これらの積荷は運送業者の配送センターに集められます。積荷は、配送中にその他の取扱いが生じないように、倉庫または配送センターの保管場所に基づいて作成されます。積荷が作成されると、結合され、2 つまたは 3 つのグループに分けられて輸送されます。積荷は、中間点で停止することも配送先まで直接配送することもあります。LTL の一般的な 2 つの例を次に説明します。

- 例 1: ワシントン州シアトルにある ABC 社に異なる 3 つの受注オーダーがあり、各積荷は 2500 ポンドです。LTL 運送業者は、コロラド州デンバー、テネシー州メンフィス、ジョージア州アトランタに出荷を手配します。これらの都市に配送予定の他の積荷も同じトレーラーに積載されます。これらのトレーラーは連結され、まずデンバーに輸送されます。デンバーでは、トレーラーのうち 1 つが荷下しされ、市内に配送されます。他の 2 つのトレーラーは、メンフィスに輸送を続けます。メンフィスではこのトレーラーの連結を解除し、アトランタまで輸送を予定されているトレーラーが残ります。デンバーとメンフィスでの停止は短く、納入時刻に影響はありません。
- 例 2: 上と同じ保管場所で、メンフィス行きのトレーラーを完全に充当できない場合を考えます。シアトルにある運送業者の事業所で、メンフィスを目的地として出荷の半分を作成し、後の半分はニューオーリンズまでを目的地として作成します。トラックは、これらの 3 つのトレーラーを連結し、最初の停止点のデンバーを目指してシアトルを出発します。デンバーでは、メンフィス行きのトレーラーの連結が解除され、ニューオーリンズまでの出荷が荷下しされます。ここで、メンフィスに配送する他の積荷をメンフィス行きのトレーラーに積載します。このトレーラーはアトランタ行きのトレーラーに連結され、配送が続けられます。デンバーに残されたニューオーリンズに配送する積荷は、別のニューオーリンズ向けのトレーラーに積載されます。デンバーで荷下しを行ったため、輸送時間が長くなります。品物に傷がつく可能性も高まります。

レート

LTL のレートは通常、輸送距離、積荷の重量、および品目分類コードに基づきます。これらの要素により基準料金またはおおよび関税が決まります。

距離は、配送元および配送先の郵便番号を基に計算されます。

重量は、100 ポンドあたりの基準で決定されます(CWT)。

NMFC によってさまざまな貨物タイプが分類されています。クラス 50 から 600 までの分類コードが各品目に割り当てられます。密度やサイズ、価格、梱包により、品目の分類コードが決まります。たとえば、自転車の分類コードは、完全に組み立ててから出荷するか部分品として出荷するかでは異なります。

TL(トラック積荷)による出荷

TL(トラック積荷)による出荷とは、トレーラー・トラックでの陸送方法を指します。この輸送では、液体製品または固体製品の両方が取り扱われます。固体製品には、コンテナに多くのスペースを必要としたり、LTL で取り扱うには重過ぎる製品があります。液体製品の場合、輸送にはコンパートメントが設定されたトラックが必要となります。

会社は、自社で輸送設備を購入するか、リースまたは外注します。自社で輸送部門を所有すると費用は高くなりますが、設備や運転手をすぐに利用できます。リースは便利ですが、製品を輸送する運転手が常駐している場合に限りです。外注は最も費用がかかりませんが、必要なときに設備が整わない可能性があります。

TL 輸送は、国内で大量の製品を最も安く輸送できる方法です。TL 運送業者の基本料金はマイルまたはキロあたりで、州なぞの地理的境界ごとに算出されます。輸送した合計距離数にレートを掛けます。計算プログラムは、距離の計算に輸送業界で標準とされているマイルまたはキロを使用します。これらの計算プログラムでは、配送元から配送先までの距離に、主なハイウェイなどを使った場合の最短距離を使用します。距離計算プログラムでは、配送経路を計画する段階で危険区域が考慮されます。

TL には次のような設備タイプがあります。

固体輸送バン	壁が3つ、天井が1つ、およびドアが1つあるトレーラー。食料品、化学ドラム、およびコンピュータなどの乾燥した製品を運びます。
フラットベッド	床デッキはあるが壁や天井がないトレーラー。鉄ロッド、建築機械、または木材などを運びます。
バルク輸送車	牛乳やガス、肥料などの液体を運びます。
特別車	車および船舶などの特別な製品や品目を運びます。

TL 輸送業界には、次の2つの出荷方法があります。

直接配送	出荷元または配送元、配送先が1カ所の場合、1つの顧客による単一または複数の受注オーダー。
混載配送	1つ以上の顧客による複数の配送元または配送先。計画外配送とも呼ばれます。

次の例では、一般的なトラック積荷による出荷を説明しています。

- 同じ顧客に対して3つの受注オーダーがある場合。出荷は1つのトラック積荷で作成されます。3つの出荷は1つの積荷にまとめられます。
- 3つの州に3つの顧客が存在する場合。すべての受注オーダーが1つのトラック積荷により作成されます。オーダーを個別にではなく、まとめて出荷して効率を上げます。輸送部門管理者が積荷を作成して最も直接的な配送経路で出荷します。運送業者は、最終目的地までに経由した中継点にかかる料金も請求します。
- 1回の積荷を満たす顧客からの受注オーダーが1件ある場合。この顧客には同じ地域に3つの異なるガス給油所があります。出荷を3つに分けずに1つの積荷を作成し、各3つの給油所に停止して製品を配送します。

鉄道による出荷

いくつかの例外を除いて、鉄道による出荷はトラック積荷(TL)と似ています。鉄道による出荷は、1マイルあたりの費用がトラック輸送よりも安く済みますが、配送に時間がかかります。鉄道により出荷を行う会社は、鉄道会社と直接または鉄道サービス提供者と契約し、配送元から配送先までトレーラー・トラックを輸送します。鉄道による出荷は、トラックの場合と比べて設備のサイズの選択肢が豊富です。複数の中継点を經由できますが、配送元または配送先から特定の距離内に限られます。配送がこの許容距離内であれば、計画外配送を行うこともできます。

Idea to Action: 競争上の優位性

次の表では、輸送業界で見られる一般的な問題、問題の解決方法(ビジネス・アクティベータ)、および利点について説明しています。

**時間をかけずに最適な料金の
運送業者を探したい。**

解決方法:システムには運送業者の運賃と配送経路が保管され、特定の配送経路での各料金を表示できます。有効なすべての運送業者の運賃が自動的に計算されるため、料金を検索する必要がありません。料金を表示するだけでなく、積送時間とパフォーマンス評価も表示されます。

利点:運賃を削減できます。輸送モードに関係なく、同じ出荷に対してすべての運送業者を表示して、コストが低く積送時間が短く、パフォーマンスのよい運送業者を選ぶことができます。

**複数の運送業者の料金を
手作業で比較したくない。**

解決方法:システムにはすべての運送業者の運賃を保管できます。また、外部リンクから料金を検索することもできます。基準料金や割引レベルの違いに関係なくすべての運送業者を比べて評価し、顧客の配送経路選択の優先情報に基づいてオプションに順番を付けます。特定の配送経路についてすべての運送業者の料金を検討できるため、比較する時間を削減できます。

利点:輸送モードに関係なく、コストの低い方から高い方へ順に、すべての運送業者が同じフォームに表示されるため、比較する時間が少なくて済みます。

**保留オーダーを出荷するなどの
問題を発生させずに出荷状況を
確認したい。**

解決方法:関係するユーザーはシステムで出荷状況を表示できます。保留オーダーには特定の状況が割り当てられ、オーダーがリリースされるまで輸送プロセスで状況を変更することができません。このため、誤って保留オーダーが出荷されることはありません。

利点:常に出荷状況を照会することで、効率を上げ、より質の高いカスタマー・サービスを提供することができます。

**安全に出荷するために、共存不可
品目を同じ積荷に載せないようにし
たい。**

解決方法:共存不可品目を3つのレベルでグループ化します。品目レベル、配送レベル、商品クラスの3つです。システムでは、同じ出荷、積荷順序、および同じコンパートメントには共存不可の積荷を作成できないようになっています。共存不可品目は、安全性を保つために異なるレベルに分けて積荷を作成するようになっています。

利点:製品を規制に基づいて安全に出荷できます。

付帯料金をトラッキングしたい。

解決方法:付帯料金も郵送業者の基準料金に保管されます。これらの料金は運送業者に関連付けられており、手入力を含める必要はありません。顧客、運送業者、輸送モードに基づき、料金の適用はケース・バイ・ケースか、すべての出荷に行われます。必要に応じて自動的に付帯料金が出荷に適用されます。付帯料金を個別に請求する必要はありません。

利点:運賃請求書の監査費用を削減できます。エラーの生じた請求書を訂正して再送したり、未請求の料金を請求するなどの手間が省けます。

顧客、運送業者、輸送モードに基づいて配送経路制約を維持し、出荷配送経路について顧客が何を必要としているかを把握したい。

解決方法: 輸送管理システムでは、顧客や品目別に運送業者を優先したり除外して設定できます。運送業者や輸送モードごとに制限を設定することもできます。これにより、顧客の目的や条件に応じた配送経路を持つ運送業者のみを選ぶことができます。

利点: 配送経路を取捨選択することにより、出荷の効率が上がります。また、顧客の目的や条件に合わせた輸送を行うことにより、顧客との関係や取引も促進されます。

出荷および車両情報を使って積荷を効果的に作成したい。

解決方法: 車両の積載量を正しく把握すると同時に、品目の重量と容量に関する情報を設定することで、運送部門は積荷をより効率良く作成でき、運賃コストを下げるができます。積荷情報はソートされて表示されるので、積荷の作成や出荷を個別に行うのが適切かどうかを判断できます。

利点: 可能な場合は積荷を作成して各積荷に対する車両の積載量を最大化することで、費用を節約できます。

出荷を手入力でトラッキングせずに他の方法で短時間でやりたい。

解決方法: 輸送管理システムでは、インターネット、電話、またはファックスで出荷のトラッキングができます。インターネット・トラッキング機能を提供する運送業者を選べば、リアルタイムでのトラッキングが可能です。

利点: 電話での応対時に出荷をトラッキングできます。これにより効率とサービスの質が向上します。

運送業者の現在の料金変更を最新のものに更新し続けたい。

解決方法: バッチ・プログラム使用すると、パーセント、変更金額、または新しい金額を使って、運送業者の料金を更新できます。これにより、テーブルまたは配送経路内に保管される料金を更新できます。

利点: 1つのプログラムですべての料金を更新できるため、維持費と時間を節約できます。

運送業者や自社の輸送部門に対し、変化する配送経路や輸送時間などの情報を最新のものにしておきたい。

解決方法: 各配送経路にかかる所要時間も含め、システムで保管されているすべての配送経路をトラッキングできます。トラッキングとレポートを目的として、運送業者のパフォーマンスを評価することもできます。

利点: 輸送管理システムを使用すると最適な輸送時間とパフォーマンスから運送業者を選択できるので、配送経路に対する顧客の満足度を保証できます。

顧客や運送業者の作業日カレンダーをトラッキングしたい。

解決方法: 各顧客および運送業者の作業日、週末、祝日、シャットダウン期間のカレンダーを設定できます。

利点: 顧客と運送業者の作業日を把握しておくことで、効率のよい出荷システムを維持できます。集荷日と出荷日を把握することにより、顧客に質のよいサービスを提供できます。輸送時間も短縮できます。

輸送管理システムの概要

輸送管理システムは、商品や資材の移動を管理するサプライチェーン管理プロセスの構成要素です。仕入先から製造業者、流通センター、顧客に至るまでの原材料、構成品、完成品の輸送コストは、製品の最終的な原価のうち大きな比率を占めます。これらの商品について積送中の状況を把握することは、納期の遵守による顧客サービスの増大や顧客からの出荷状況問合せに迅速に対応する際の重要な要素になります。輸送管理システムには、コストの大幅な節減を図るための各種機能が用意されています。

輸送管理は、製品の製造と流通に関係する業務には不可欠の要素です。輸送を必要とするビジネスの場合、次の点を考慮する必要があります。

- 適切な運賃サービスの選択
- 運賃の計算
- 原価の削減と確実な納期対応に向けた積荷の作成
- 出荷スケジュールに基づく倉庫業務の計画
- 出荷の場所と状況の確認

輸送管理システムには次の機能があります。

- 製品の流通に対応した単一のソリューションを提供する
- 出荷の手配とトラッキングを効率的に自動化する
- 受注オーダーと購買オーダーの入力を統合してカスタマー・サービスの向上を図る

輸送管理では、配送手配担当者はデポで使用可能な資源に基づいて、出荷と積荷を作成できます。資源を効果的に管理するには、すべての資源の正確なレコードが必要になります。輸送管理システムでは、次のような各種の情報が記録および管理されます。

- ライセンス、保守記録、車両タイプなどの車両情報
- 出荷の配送経路
- 出荷の輸送にかかる料金
- ガソリン、自転車、牛乳、またはその他の腐食しやすい食料などの品目情報
- 船荷証券などの出荷明細情報を含む請求書
- 積荷の準備に関する情報や積荷メモなどの伝票を含む積荷伝票

システム・インテグレーション

輸送管理システムは、他の J.D. Edwards システムと統合されており、輸送の要件を満たす総合的なソリューションを提供します。次に、輸送管理が他のシステムとどのように連動するかを説明します。

一般会計	一般会計システムはインテグレーションの中心であり、AAI(自動仕訳)を使用しながら出荷運賃や諸掛のトラッキングを行うことができます。
住所録	住所録システムには、顧客、運送業者、親請求先、および倉庫の住所に関する最新の情報が保管されます。
受注管理	受注管理システムは、受注オーダーを通して輸送管理システムと連動しています。受注オーダーを作成すると、出荷の作成、在庫の調整、およびオーダーの管理が行われます。出荷は受注オーダーに基づいて作成されます。また、何らかの理由によって受注オーダーが保留になったり、バックオーダーされた場合でも、出荷情報が受注管理システムに記録されます。
在庫管理	在庫管理システムには、あらゆる製造システムと流通システムに対応する品目情報が保管されます。品目情報には、保管場所別の売上原価と仕入原価、および引当可能数量が含まれます。
調達管理	調達管理システムは、購買オーダーを通して輸送管理システムと連動しています。購買オーダーを作成すると、出荷の作成、在庫の調整、およびオーダーの管理が行われます。出荷は購買オーダーに基づいて作成されます。何らかの理由によって受注オーダーが保留になったり、バックオーダーされた場合でも、出荷情報が受注管理システムに記録されます。
品質管理	品質管理システムは輸送管理システムと連動し、次のようなプロセスでチェックを行って品質を保証します。 <ul style="list-style-type: none">● 受注オーダーまたは購買オーダーの優先情報● 積荷の確認と積荷の配送● 出荷の割当先のタイプ
倉庫管理	倉庫管理システムは輸送管理システムと連動し、レポート、出荷ピッキング、複数出荷/入荷場所、および倉庫設定の機能を利用できます。

輸送管理システムの機能

輸送管理システムには出荷計画機能が備わっており、出荷を編成、トラッキング、カスタマイズ、更新できます。輸送管理システムには次の機能があります。

出荷の輸送計画	受注管理システムを通してオーダーを作成すると、出荷が作成されます。1つの出荷に複数のオーダーを組み込むことも、個別の出荷ごとにオーダーを1つずつ対応させることもできます。輸送管理システムで扱う中心となる出荷は、料金を設定後、特定の配送経路で出荷されます。出荷は、積載品目、実際の出荷日付と時刻、および重量を検証した上で確認する必要があります。また、出荷を結合して積荷を作成し、運賃と配送時間を節約できます。
出荷の配送経路	出荷の配送経路の設定とは、出荷を配送する運送業者や輸送モードを選択するプロセスです。配送経路の入力時には、出荷元と出荷先を定義します。出荷の配送経路が設定されると、出荷に対して料金が計算されます。

出荷の料金設定	出荷の料金設定により、出荷元から出荷先まで商品を輸送する際に発生する輸送コスト情報を参照できます。出荷料金は、配送経路と顧客に請求する輸送コストに基づいて計算、請求されます。料金は、検索タイプ、レート単位、および配分レートによって柔軟に設定できます。
積荷作成	積荷作成を使用して複数の出荷を混載すると、輸送業務を効率よく行えます。出荷を混載することにより、請求運賃および支払運賃を減らすことができます。パッケージ製品またはバルク製品のどちらにでも、出荷から積荷を作成することが可能です。
出荷と配送の確認	出荷確認(または積荷確認)によって、最終的に出荷先に到着する前に出荷や積荷の品目数量を検証できます。配送確認により、当初のオーダーに記録された数に対して、顧客に実際に配送された品目数を確認します。配送確認により、在庫の減少を記録したり、積送中の在庫をトラッキングしたりできます。インバウンド出荷の場合には、出荷および配送の確認時に購買オーダーの入荷処理も行われます。
出荷伝票	出荷伝票には、船荷証券、積荷目録、および出荷ラベルがあります。
出荷トラッキング	輸送管理システムには運送業者による出荷のトラッキング方法があります。J.D. Edwards では、運送業者がインターネットによるトラッキング機能を提供している場合に出荷をオンラインでトラッキングできる標準ビジネス関数を提供しています。
運賃の更新	<p>運賃を更新する間、さまざまな勘定科目に対して出荷運賃および諸掛が作成されます。輸送管理システムには次の機能があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 出荷運賃および諸掛に対して総勘定元帳にレコードを作成する • 買掛管理システムで買掛伝票を作成する • 請求可能な運賃のレコードが受注オーダー・テーブルを作成する
貨物監査履歴	運賃監査履歴テーブル(F4981)を使って、運賃を検討または改訂できます。このテーブルには、顧客に請求する運賃情報が格納されます。
環境設定	<p>優先情報により、業務目的に合わせて出荷プロセスをカスタマイズできます。優先情報は一般に、輸送管理システムのデフォルト値が適用できない顧客独自の取引がある場合に作成します。たとえば、次のような必要性に応じて作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 顧客の要求 • 仕入先からの(インバウンド出荷に対する)要求 • 会社の方針 • 監督官庁の規則 • 品目固有の要求
インバウンド出荷	購買オーダーや返品などのインバウンド出荷は、標準的なアウトバウンド出荷と同じ特徴を多く持っています。たとえば、インバウンド出荷は、ある出荷元(購買オーダーの場合は仕入先)からある出荷先(購買者)への製品の移動を表します。

用語と概念

輸送管理システムを使用するにあたって、次のような用語と概念を理解しておく必要があります。

付帯料金	実際の輸送商品以外にかかるサービス料金。保険、特殊取扱、または冷蔵サービスなどが含まれます。
常温	車両に積荷する際の液体製品の温度。この温度は、車両に積荷された製品の容量に影響します。「標準温度」を参照してください。
請求運賃	運賃条件が前払いである際に出荷元から顧客に請求される運賃請求額。
バルク製品	バルク・コンテナまたはコンパートメントで出荷されるガソリンなどの製品。
運送業者区域	地域を指定するために運送業者が使用するコード。通常は出荷料金の設定に使用します。
接続車両	物理的に接続された2つ以上の車両(トレーラーなど)。
納入	1件の顧客に対して、1件または複数の出荷を1回の配送で納品。出荷料金を設定するために、複数の出荷に同じ配送番号を割り当てます。出荷は同じ顧客に対して同じ積荷目録、積荷、および船荷証券などで表されます。
配送確認	オーダーが顧客に配送されたどうかの確認。出荷される製品と出荷数量についての情報が含まれています。
FAK	すべての積荷。これは、貨物分類コードに関係なくすべての積荷が受け入れられ、同じように料金設定される運送業者、配送経路、および料金表の属性です。
運賃カテゴリ	品目レベルで割り当てられる、運賃を決定するために使用するユーザー定義コード。
貨物分類コード	輸送コストに影響する製品の密度、梱包、その他の特徴により運賃を分類するコード。たとえば、完全に組み立てられた自転車と、完成していない自転車とではコードが異なります。米国での共通規格はNMFCコードです。
増/減	標準温度と常温が異なると、積載する在庫の量が増減する場合があります。在庫に関するその他の勘定科目として、この増/減が記録されます。
リードタイム	輸送資源を確保するために必要な日数。オーダー日付とリードタイムを足した時間に基づいて出荷日が計算されます。
積荷	積荷は、配送用に混載され、必ずしも同じ顧客へ輸送されるとは限りません。
積荷確認	製品が出荷車両に積載されたことを示す確認。出荷する製品と出荷数量、車両内の特定の保管場所またはコンパートメントについての情報が含まれています。
積込限度ライン	バルク・トレーラーの場合は、限度ラインは製品の密度や温度の差異も考慮しており、積荷時にこの限度を超えないようにします。
LTL(積合せ)	トラック積荷全体を必要としない出荷または積荷。LTL出荷は通常、20,000ポンド以下ですが、

	小荷物運送業者の最大重量を超えるものを輸送します。
輸送モード	出荷積荷を輸送する方法。空輸、鉄道、小荷物などがあります。
複数配送積荷	複数の納入先に配送する出荷を含む積荷。
NMFC(貨物輸送分類)	すべての品目のコードを設定する米国の組織。運送業者はこれらのコードを使用して積荷を設定します。
オプション	内部配送などの、出荷に関する追加サービスまたは要件。オプションは追加料金に関連付けられています。
支払運賃	運賃条件が前払いである際に運送業者から出荷元に請求される金額、または運賃条件が回収である際に顧客に請求される金額。
集中配送	複数の顧客に配送するために積荷に混載された複数の出荷。
前払	出荷側が運送業者に支払う際の運賃条件。出荷側は、顧客に請求する運賃を査定します。
配送経路入力	配送経路入力テーブル(F4950)のレコード。配送元と配送先を指定します。どちらも特定の運送業者および輸送モードが使用されます。また、配送経路入力は、必要なリードタイムと積送時間の他に、計算するレート表も指定します。
出荷	ある場所から別の場所へ商品が移動すること。
出荷確認	顧客に配送されたオーダーの確認。出荷される製品と出荷数量について確認します。
出荷コンテナ	1つ以上の出荷貨物を出荷するのに使用するコンテナ。
出荷貨物	出荷の一部分。通常、小荷物またはカートンがあります。
出荷経路ステップ	ある場所から別の場所へ商品が移動するまでの経路。複合輸送ステップには、複数の出荷経路ステップが含まれます。
標準温度	液体製品の場合、デポに標準温度を設定し、温度の差異により生じる在庫の変化に備えます。「常温」を参照してください。
積送時間	日数で表される、最終目的地への配送にかかる時間。約束出荷日付は、約束配送日付から積送時間を引いて計算されます。
トリップ	特定の車両で予定された出荷輸送。
区域	顧客に割り当てられたコード。通常、実際の場所に関連付けられます。

テーブル

輸送管理システムには次のテーブルがあります。

F4215 - 出荷見出し	作成する各出荷に関する基本情報。オーダー番号、事業所、および顧客の住所録情報などがあります。
F49002 - 輸送管理固定情報	これらの固定情報には、ビジネスユニットに対する出荷状況情報と貨物の要件が含まれています。
F49003 - 積荷タイプ固定情報	積送中情報およびデフォルト・トラッキング情報など、積荷に特有なデフォルト情報
F49004 - 輸送モード固定情報	特定のモードで輸送する品目のデフォルト情報。車両情報や積荷タイプなどがあります。
F49020 - 車両/担当者ライセンス情報	特定の車両または担当者スタッフのライセンス情報。
F49041 - デポ/車両担当者	シフトで車両を運転するのに必要な従業員リスト。
F4906 - 運送業者マスター	各運送業者の次のような基本情報を含みます。 <ul style="list-style-type: none">• 運送業者番号• SCAC (Standard Carrier Alpha Code/標準運送業者名称コード)• 寸法上の重量要素• パフォーマンス・レート• 出荷のトラッキング・タイプ• 参照番号• インターネットを介して出荷をトラッキングするためのビジネス関数
F49075 - 製品混合	品目を同じ積荷に作成しないか、積荷順序に規制があるかなどを決定するために使われる情報。
F4908 - 品目出荷情報	出荷時に使用されるその他の品目条件。商品コードや貨物分類などがあります。
F4930 - 車両マスター	次のような車両情報を含みます。 <ul style="list-style-type: none">• 車両 ID• 車両タイプ• ビジネスユニット• 車両シリアル番号• 重量計量単位• キューブ計量単位
F49301 - 車両コンパートメント	許容重量や容量など、各車両に定義されるコンパートメントの積載量情報。
F49302 - 車両設備	特定の車両に関連付けられるホースなどの定義された設備。
F4931 - 車両タイプ	システムで設定する各車両の種類の情報。車両の種類にはトレーラー、フラットベッド、またはバルク製品用車両などがあります。

F4941 - 出荷経路ステップ	各出荷の配送区間またはステップのレコード。
F4942 - 出荷明細	システムで作成する各出荷の特定の情報。約束された出荷日付、運送業者番号、および輸送モードなどがあります。
F4943 - 出荷貨物	出荷貨物の情報。重量や寸法などがあります。
F4944 - 出荷/積荷オプションおよび設備	オーダー、配送、または積荷レベルのいずれかに割り当てるオプションまたは設備情報。
F4945 - 出荷料金	すべての運賃情報。運賃を更新するまで有効です。
F4947 - 出荷状況コード	輸送プロセスに伴う出荷状況コードのレコード。
F4950 - 配送経路入力	各運送業者または車両に作成する配送経路の情報。郵便番号、事業所、および輸送モードなどがあります。配送経路階層を設定すると、このテーブルから出荷先情報を検索する方法を確定できます。
F49501 - 複合輸送詳細配送経路の入力	各配送区間や配送経路ステップを定義し、配送経路入力テーブル(F4950)で定義される親配送経路を作成します。このテーブルには、各配送区間の配送元、配送先、輸送モード、運送業者、および料金設定情報が含まれます。
F4951 - 運送業者区域定義	システムで作成する各運送業者区域の配送先情報。
F4952 - 配送経路制約	最大重量など、各配送経路の特定情報。
F4953 - 配送経路階層	検索基準リストを含みます。リストの順序は通常、特定のものから一般のものとなります。各出荷や積荷の配送経路入力テーブル(F4950)で配送経路を検索するのに使用されます。
F4956 - オプションおよび設備の組込/除外規則	配送経路、輸送モード、または運送業者によってサポートされるオプションと設備、またはそうでないものがリストされます。
F4960 - 積荷見出し	次のような積荷情報を含みます。 <ul style="list-style-type: none"> • 計画デポ • 車両 ID • 輸送モード • 出荷先 • 出荷元
F4961 - 積荷配送区間	各積荷地点のレコード。積荷地点は、デポ、事業所、または顧客を指定することができます。
F49611 - 積荷中継点順序	運送業者が各出荷で停止する順序。順序は変更することができます。
F49612 - 積荷車両	積荷に設定する特定の車両情報。ID タイプや事業所タイプなどがあります。
F4962 - 積荷コンパートメント	車両の特定のコンパートメントに製品を割り当てる、積荷のコンパートメント情報。

F49621 - 積荷コンパートメント明細	積荷のコンパートメントに割り当てられる、各オーダー行の製品数量。
F4963 - 積送中積荷	積送中の在庫を含むように指定されている積荷の情報。配送プロセス中にトラッキングすることができます。
F49631 - 積送中積荷元帳	積送中の在庫として指定されているすべての積荷の履歴。
F49632 - 積送中積荷	積置きされ、次の積荷に使用される製品の情報。
F4970 - 運賃レート表	運賃を計算するのに使用される料金名のリスト。
F4971 - 運賃レート定義	運賃を訂正するのに使用される料金定義。
F4972 - レート明細	次のような基本的料金情報を含みます。 <ul style="list-style-type: none"> • 料金名 • 料金基準 • 詳細レベル • 検索処理オプション • 料金構造 • オプションおよび設備
F49721 - 暫定見積の明細	運送業者が積荷の積載を提供したときに使用される、運送業者からの1度だけの見積りに関する情報
F4977 - レート・パラメータ	最低/最高料金および最小/最大重量など、運送業者やレートによってさらに詳しく査定方法を定義する情報。
F4978 - 料金コード定義	設定する各料金コードの定義。料金コードには請求または支払料金の両方を作成できます。
F4981 - 運賃監査履歴	出荷または積荷ごとに記録された請求料金または支払料金の履歴。

システム・セットアップ

輸送管理システムを使用する前に、システム処理に使用される特定の情報を定義する必要があります。この情報により、ビジネス・ニーズに合わせてシステムを変更することができます。

輸送管理システムの有効化

輸送管理システムを使用する前に、OneWorld でシステムを有効にする必要があります。輸送管理システムを有効にすると、受注管理システム、調達管理システム、輸送管理システムとの間にリンクが作成されます。具体的には、受注オーダーまたは購買オーダーを作成すると出荷が自動作成されます。

▶ **輸送管理システムを有効にするには**

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈輸送システムの有効化〉を選びます。

1. 〈J.D. Edwards ERP システム制御の処理〉で、データ項目 SY49 のローを選び[選択]をクリックします。
2. 〈J.D. Edwards ERP システム制御 - 改訂〉で、次のオプションを選び[OK]をクリックします。
 - はい

ハブの設定

ハブは、運送業者が出荷を各地に配送する際に使用する中央流通センターです。集中配送には、このハブ(流通センター)が使用されます。ハブは、住所録レコードとして設定します。この後、配送経路の出荷元としてこの住所番号が使用されます。

ハブ情報用に検索タイプの値を追加できます。ハブの親住所でハブの所有者が示されます。ただし、この情報は参照用です。また、特殊なハブの値にカテゴリ・コードを使用することもできますが、この情報は輸送管理システムでは直接使用されません。

参照

- ハブの検索タイプ値を設定する方法については『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コードのカスタマイズ」
- 住所録レコードの入力方法については、『住所録』ガイドの「住所録レコードの作成および更新」



3. 〈勘定科目の改訂〉で、最初のブランクのローの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 会社
- 伝票タイプ
- 元帳クラス
- 事業所
- 主科目
- 補助科目

フィールド記述

記述 会社

用語解説

特定の企業、組織、団体などを識別するコード。会社コードが会社固定情報テーブル(F0010)に設定され、完全な貸借対照表を持つ財務報告対象を指定する必要があります。このレベルでは、会社間取引を持つことができます。

注：日付や AAI などのデフォルト値に会社 00000 を使用できます。取引入力には会社 00000 を使用できません。

伝票タイプ

取引の発生元と目的を示すユーザー定義コード(00/DT)。請求書や伝票、入金や勤怠管理表など、いくつかの伝票タイプ用プレフィックスがあらかじめ定義されています。事前定義されているプレフィックスは次のとおりです。

P = 買掛伝票
R = 売掛伝票
T = 時間および給与支払伝票
I = 在庫伝票
O = 購買伝票
S = 受注伝票

元帳クラス

使用する勘定科目を検索するためのユーザー定義コード(41/9)。元帳クラスを指定しない場合は、このフィールドにアスタリスクを4つ(****)入力してください。

元帳クラスとしてここで定義できるのは、在庫管理システム、調達管理システム、受注管理システムで使用する勘定科目です。たとえば、次のような元帳クラスを定義することができます。

IN20 直送オーダー
IN60 転送オーダー
IN80 在庫販売

取引の入力時に適切な元帳クラスを指定することにより、仕訳が正しい勘定科目に生成されます。たとえば、在庫品目を販売した場合、次のような仕訳が生成されます。

(借)売掛金 xxxxx.xx (貸)売上 xxxxx.xx
元帳クラス: IN80
(借)在庫の売上原価 xxxxx.xx (貸)在庫 xxxxx.xx

使用される勘定科目は元帳クラスと伝票タイプの指定に基づいて決まります。

事業所

会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。

--- フォーム固有 ---

このフィールドをブランクにすると、[請求先ビジネスユニット]フィールドで作業オーダーに入力したビジネスユニットが使用されます。

主科目 勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分。原価コードは、たとえば労務費を通常時間、割増し時間、間接費に分類するのに使用します。

注:任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁にした場合は、6桁すべてを使用することをお勧めします。たとえば、“000456”と入力するのと“456”と入力するのでは、後者の場合、スペースが3つ追加されるので結果が異なります。

補助科目 主科目の下の科目区分。補助科目は、取引レコードを主科目の下でさらに細分化します。

--- フォーム固有 ---

このフィールドを空白にすると、作業オーダーの[原価コード]フィールドに入力した値が使用されます。

処理オプション:〈流通AAI〉プログラム(P40950)

デフォルト

AAI テーブル番号

次の流通 AAI テーブルに対して、[原価タイプ]フィールドを使用可能にするには、“1”を入力してください。

4122, 4124, 4134, 4136, 4220, 4240, 4310

作業日カレンダーの設定

作業日カレンダーはカレンダー・タイプ別に設定して管理します。カレンダーは、デポ、事業所、経路コード、運送業者、または顧客について設定できます。約束の出荷および配送日を計算する際にこのカレンダーが使用されます。

約束の出荷日付を計算するため、配送経路、運送業者、事業所の作業日(営業日)カレンダーを参照して共通の営業日を探します。約束の配送日付を計算するため、顧客、運送業者、事業所の作業日(営業日)カレンダーを参照して共通の営業日を探します。

たとえば、あるデポに特定のカレンダーを設定して、週末や祭日、定休日などのデポの休業日を記録できます。配送手配担当者が出荷と積荷を作成すると、作業日カレンダーに設定した情報によって有効な営業日がトラッキングされます。配送日が週末になった場合は、週明けの最初の営業日が配送予定日になります。

▶ 作業日カレンダーを追加するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

売掛/買掛管理システムでは、〈支払条件の改訂〉メニュー(G00141)から〈営業日カレンダー〉を選択します。

保有資産管理システムでは、〈計画のセットアップ〉メニュー(G1346)から〈作業日カレンダー〉を選択します。

輸送管理システムでは、〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈作業日カレンダー〉を選択します。

製造現場管理システムでは、〈製造現場管理セットアップ〉メニュー(G3141)から〈製造現場カレンダー〉を選択します。

製造データ管理システムでは、〈製造データ管理セットアップ〉メニュー(G3041)から〈製造現場カレンダー〉を選択します。

〈作業日カレンダーの処理〉フォームで、設定されているすべてのカレンダーが表示されます。

事業所	記述	月	年	西暦上之桁	シフトコード	作業日カレンダー・タイプ	カレンダー名
<input checked="" type="checkbox"/>	10 Western Distribution Center	6	5	20			
<input type="checkbox"/>	27 Eastern Area DC	1	98	19			
<input type="checkbox"/>	27 Eastern Area DC	2	98	19			
<input type="checkbox"/>	27 Eastern Area DC	3	98	19			
<input type="checkbox"/>	27 Eastern Area DC	4	98	19			
<input type="checkbox"/>	27 Eastern Area DC	5	98	19			
<input type="checkbox"/>	27 Eastern Area DC	6	98	19			
<input type="checkbox"/>	27 Eastern Area DC	7	98	19			
<input type="checkbox"/>	27 Eastern Area DC	8	98	19			
<input type="checkbox"/>	27 Eastern Area DC	9	98	19			

1. 新しいカレンダーを追加するには、〈作業日カレンダーの処理〉で次の必須のフィールドに値を入力します。

- 事業所

プログラム用にハードコード化された値の ALL 以外は、割り当てた事業所はビジネスユニット・マスター(F0006)に存在していなければなりません。

- カレンダー年
- カレンダー月

2. 次の任意フィールドに値を入力して、同じ事業所に特定のカレンダーを指定します。

- 作業日カレンダー・タイプ
- カレンダー名
- シフト・コード

[カレンダー名]フィールドに値を入力する場合、シフト・コードを入力する必要があります。

3. [追加]をクリックします。

月と年の2つのカレンダーを示す、〈作業日カレンダーの改訂〉フォームが表示されます。右のカレンダーには作業日と非作業日が表示されます。

PeopleSoft
作業日カレンダーの改訂

OK キャンセル フォーム ツール

事業所 1

作業日カレンダー・タイプ
カレンダー名
カレンダー月 6 カレンダー年 5 西暦上2桁 20 シフト・コード

2005		6月					2005	
日	月	火	水	木	金	土		
			1	2	3	4		
5	6	7	8	9	10	11		
12	13	14	15	16	17	18		
19	20	21	22	23	24	25		
26	27	28	29	30				

2005		6月					2005	
日	月	火	水	木	金	土		
E	W	W	W	W	W	E		
E	W	W	W	W	W	E		
E	W	W	W	W	W	E		
E	W	W	W	W	W	E		

4. 〈作業日カレンダーの改訂〉で、必要に応じて週のそれぞれの日のデフォルト値を変更し、[OK]をクリックします。

指定する日付タイプは、ユーザー定義コード 00/TD にあります。作業日としてハードコード化されたW以外の指定された値はすべて非作業日です。次の例は、カレンダーで指定できる日付タイプです。

- W (作業日)
- E (週末)
- H (祝日)
- S (休業日)

フィールド記述

記述	用語解説
事業所	<p>上位レベルのビジネスユニットを表すコード。下位レベルのビジネスユニットを表す部署または職務のある事業所を参照する際に使用します。たとえば、次のように設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所 (MMCU) ○ 部署 A (MCU) ○ 部署 B (MCU) ○ 職務 123 (MCU) <p>ビジネスユニットセキュリティは上位レベルのビジネスユニットに基づきます。</p>
作業日カレンダー・タイプ	<p>カレンダーの使用方法を指定するユーザー定義コード(42/WD)。 たとえば、銀行業のような業界ではカレンダーは特定のものになる場合もあり、またある配送経路での配達要員を決めるためにカレンダーが使われるような場合もあるでしょう。</p> <p>注： デフォルト値の*を使用した場合、UDC テーブルで空白が有効値として設定されていなくてもその値は空白へ更新されます。</p>
カレンダー月 カレンダー年	<p>カレンダー一年の月に対応する値。 このカレンダーのカレンダー年</p>
シフト・コード	<p>日次作業のシフトを識別するユーザー定義コード(00/SH)。給与計算システムでは、シフト・コードを使用すると、パーセントまたは金額がタイムカードの時給に追加されます。</p> <p>給与計算と時間入力の場合： シフト・レート差異が適用できるシフトで従業員が作業する場合、[従業員マスター]レコードシフト・コードを入力します。[従業員マスター]レコードにシフト・コードを入力する場合、時間を入力する際にタイムカードにコードを入力する必要はありません。従業員がデフォルトとは異なるシフトで作業する場合は、各タイムカード上に正しいシフト・コードを入力します。</p>

▶ 作業日カレンダーをコピーするには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

売掛/買掛管理システムでは、〈支払条件の改訂〉メニュー(G00141)から〈営業日カレンダー〉を選択します。

保有資産管理システムでは、〈計画のセットアップ〉メニュー(G1346)から〈作業日カレンダー〉を選択します。

保有資産管理システムでは、〈計画のセットアップ〉メニュー(G4941)から〈作業日カレンダー〉を選択します。

製造現場管理システムでは、〈製造現場管理セットアップ〉メニュー(G3141)から〈製造現場カレンダー〉を選択します。

製造データ管理システムでは、〈製造データ管理セットアップ〉メニュー(G3041)から〈製造現場カレンダー〉を選択します。

〈作業日カレンダーの処理〉フォームで、設定されているすべてのカレンダーが表示されます。

1. 〈作業日カレンダーの処理〉で、コピーするカレンダーを選択して[選択]をクリックします。
2. 〈作業日カレンダーの改訂〉で、ツールバーの[コピー]をクリックします。
3. 次の必須フィールドに値を入力して、新しいカレンダーを作成します。

- 事業所

プログラム用にハードコード化された値の ALL 以外は、割り当てた事業所はビジネスユニット・マスター(F0006)に存在していなければなりません。

4. 次の任意フィールドに値を入力して、同じ事業所に特定のカレンダーを指定します。

- カレンダー名
- 作業日カレンダー・タイプ
- シフト・コード

[カレンダー名]フィールドに値を入力する場合、シフト・コードを入力する必要があります。

5. 必要に応じて週のそれぞれの日のデフォルト値を変更し、[OK]をクリックします。

指定する日付タイプは、ユーザー定義コード 00/TD にあります。作業日としてハードコード化されたW以外の指定された値はすべて非作業日です。次の例は、カレンダーで指定できる日付タイプです。

- W (作業日)
- E (週末)
- H (祝日)
- S (休業日)

処理オプション: 作業日カレンダー(P00071)

インタオペラビリティ

1. インタオペラビリティ・トランザクション用のトランザクション・タイプを入力してください。空白の場合、送信インタオペラビリティ処理は実行されません。

タイプ - トランザクション

2. 送信変更トランザクション用に変更前トランザクションを書き込むには、“1”を入力してください。空白の場合、変更後トランザクションのみが書き込まれます。

変更前トランザクション処理

ユーザー定義コードの理解

輸送管理システムの多くのフィールドでユーザー定義コードが必要とされます。ユーザー定義コードを業務に合わせて設定することにより、各フィールドをカスタマイズできます。

ユーザー定義コードにより、さまざまな情報に対して有効なコードを定義するテーブルを設定して管理することができます。ユーザー定義コードは、システムとコード・タイプごとに分類されます。

輸送管理システムでは、次のユーザー定義コードを使用します。

出荷状況(41/SS)	輸送管理システムで出荷状況として使用する値を定義します。
出荷伝票/行タイプ(49/SD)	出荷が作成される受注管理など、他のシステムからの伝票タイプを定義します。
貨物分類(49/BE)	NMFC によって定義されているさまざまな貨物タイプ进行分类します。
貨物商品コード(49/BF)	NMFC 商品コードで指定された品目または商品の属性进行分类します。
オプション/設備(49/BG)	土曜日の配送やトラックに必要なホースなど、出荷と積荷に使用するすべてのオプションと設備を定義します。
出荷状況コード(49/BH)	出荷のトラッキング要件を定義します。特に、積送中の出荷状況が記録されます。
出荷状況理由(49/BJ)	出荷状況コードの理由を定義します。
運賃レート表(49/BK)	配送経路で使用される運賃レート表を定義し、特定のレートにリンクします。
運賃コード(49/BL)	運送業者または自社の輸送部門の運賃の種類を決定する料金コードをリスト表示します。
出荷トラッキング・タイプ(49/BS)	特定の運送業者または自社の輸送部門に使用する出荷のトラッキング・タイプを定義します。このコードは、このシステムの他のフィールドには影響しません。これは情報のみです。
優先基準(49/BU)	輸出入で特別に使用される海外出荷情報を定義します。このコードは情報のみです。
商品生産者(49/BV)	輸出入で特別に使用される危険物以外の商品の海外出荷情報を定義します。このコードは情報のみです。

国内/外国商品(49/BW)	国内商品と海外商品を定義します。
危険物クラスまたは部門(49/BX)	品目輸送に使用されるさまざまな危険物クラスを定義します。
梱包グループ(49/BY)	梱包された品目が危険物かどうかを定義します。
二次リスク(49/BZ)	出荷または積荷に含まれるガソリンや腐食剤など、明記する必要のある危険物に関連して発生する可能性のあるリスクを定義します。
梱包指示(49/CB)	危険な液体または腐食剤に関する梱包指示を定義します。
危険物ラベル(49/CC)	輸送上の危険物に使用するカラー・ラベルをリストします。
配送経路規則(49/CL)	配送経路階層に使用する配送経路規則を定義します。

さらに、ユーザー定義コード(00/DT)にさまざまな伝票タイプを、ユーザー定義コード定義(00/TD)にシステムで使用される作業日を定義する必要があります。

参照

- 『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コードのカスタマイズ」

輸送管理固定情報の設定

輸送管理固定情報を使用して、会社の事業所をデポとして指定したり、システム全体のデフォルト情報を設定できます。また、運賃分類と出荷状況コードから混載オプションと計量単位までのカテゴリで各デポのデフォルト情報を設定できます。これらの固定情報により、出荷および積荷の作成と処理に必要な情報が提供されます。

▶ 輸送管理固定情報を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈輸送管理固定情報の処理〉を選びます。

1. 〈輸送管理固定情報の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft.

輸送管理固定情報の改訂

OK キャンセル ツール

固定情報 計算単位デフォルト状況コード

出荷デポ <input type="text"/>	出荷 カテゴリ 1 エイリアス <input type="text"/> カテゴリ 2 エイリアス <input type="text"/> カテゴリ 3 エイリアス <input type="text"/> トラッキング評価タイプ <input type="text"/>
事業所 <input type="text"/> 貨物分類 <input type="text"/> 最小郵便番号サイズ <input type="text"/> 最大重量差異 % <input type="text"/> 請求書の関連住所 No. <input type="text"/> 明細レベル <input type="text"/> 距離のソース <input type="text"/>	その他 <input type="checkbox"/> 固定資産インターフェイス <input type="checkbox"/> 品目共存性チェック <input type="checkbox"/> 配送手配グループ共存性チェック <input type="checkbox"/> 商品クラス共存性チェック <input type="checkbox"/> 配送指示のコピー
出荷集計モード <input checked="" type="radio"/> 複数オーダー集計 <input type="radio"/> 単一オーダー集計 <input type="radio"/> トランザクションの集計 <input type="radio"/> 集計なし	

2. <輸送管理固定情報の改訂>で、[固定情報]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。

- 出荷デポ

特定のデポがデフォルトとして定義されていない場合は、デポ ALL のデフォルト情報が取り込まれます。

- 事業所
- 貨物分類
- 最小郵便番号サイズ
- 最大重量差異 %
- 請求書の関連住所 No.
- 明細レベル
- 距離のソース

3. 出荷セクションで次のフィールドに値を入力します。
 - カテゴリ 1 エイリアス
 - カテゴリ 2 エイリアス
 - カテゴリ 3 エイリアス
 - トラッキング評価タイプ

4. 混載モード・セクションで、次のオプションのいずれかを選びます。
 - 複数オーダー集計
 - 単一オーダー集計
 - トランザクションの集計
 - 集計なし

5. その他セクションで、次のオプションのいずれかを選びます。
 - 固定資産インターフェイス
 - 品目共存性チェック
 - 配送手配グループ共存性チェック
 - 商品クラス共存性チェック
 - 配送指示のコピー

6. [計量単位デフォルト/状況コード]タブで、次の任意フィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 重量
 - 容積
 - 寸法
 - 容量
 - 1個当り最大重量
 - 1個当り最大容量
 - 一時保留出荷状況
 - 承認済み出荷状況
 - 確認済み出荷状況
 - 保留出荷状況
 - 承認済み積荷状況
 - 確認済み積荷状況

フィールド記述

記述	用語解説
事業所	品目と原価をトラッキングする業務の実体を個別に識別するコード。この実体は、倉庫の所在地、作業、プロジェクト、作業場、事業所などです。事業所フィールドには、英数字を入力します。
貨物分類	NATIONAL MOTOR FREIGHT CLASSIFICATION (NMFC)。貨物商品コードに基づいて割り当てます。 --- フォーム固有 --- 貨物分類に属さない品目のデフォルト情報
最小郵便番号サイズ	配送経路入力郵便番号部分に使用する最小文字数
最大重量差異 %	出荷の確認重量が出荷確認時に出荷に積載された実際重量と異なってもよいパーセント。差異がこれを超過すると、出荷確認時に警告またはエラーメッセージが表示されます。
請求書の関連住所 No.	このフィールドは、運賃請求先住所の関連住所番号を指定するのに使用します。関連住所番号がない場合、そのデポの住所番号が請求先住所としてとりこまれます。
明細レベル	料金が出荷明細レベルで適用される際にレートを確定する出荷明細フィールドを識別するフラグ。 次のいずれか 1 つのフィールドを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">○ 貨物分類コード○ 配送手配グループ○ 貨物分類 1○ 貨物分類 2
距離のソース	配送距離のソース。優先情報、運送業者契約、ユーザー入力などの場合や、走行距離システムから取り込まれる場合があります。
カテゴリ 1 エイリアス	出荷カテゴリ 1 カラムに保管されている住所録テーブルからのエイリアス
トラッキング評価タイプ	このカラムでは、インターネットでの出荷トラッキング機能を提供している運送業者の URL のテキストタイプを指定します。

複数オーダー集計

出荷の組み合わせ方法を指定します。
有効な値は次のとおりです。

ブランクまたは 0

トランザクションによる組み合わせ。入力または変更されたオーダー行を同じ出荷にまとめる。

1

複数オーダー出荷。複数のオーダーからのオーダー行を 1 つの出荷にまとめる。

2

単一オーダー出荷。オーダー行をそのオーダーからの行をすでに含む出荷にのみまとめる。

3

組み合わせなし。各オーダー行は、それぞれ個別の出荷に仕立てられる。

単一オーダー集計

出荷の組み合わせ方法を指定します。
有効な値は次のとおりです。

ブランクまたは 0

トランザクションによる組み合わせ。入力または変更されたオーダー行を同じ出荷にまとめる。

1

複数オーダー出荷。複数のオーダーからのオーダー行を 1 つの出荷にまとめる。

2

単一オーダー出荷。オーダー行をそのオーダーからの行をすでに含む出荷にのみまとめる。

3

組み合わせなし。各オーダー行は、それぞれ個別の出荷に仕立てられる。

トランザクションの集計

出荷の組み合わせ方法を指定します。
有効な値は次のとおりです。

ブランクまたは 0

トランザクションによる組み合わせ。入力または変更されたオーダー行を同じ出荷にまとめる。

1

複数オーダー出荷。複数のオーダーからのオーダー行を 1 つの出荷にまとめる。

2

単一オーダー出荷。オーダー行をそのオーダーからの行をすでに含む出荷にのみまとめる。

3

組み合わせなし。各オーダー行は、それぞれ個別の出荷に仕立てられる。

<p>集計なし</p>	<p>出荷の組み合わせ方法を指定します。 有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランクまたは 0 トランザクションによる組み合わせ。入力または変更されたオーダー行を同じ出荷にまとめる。</p> <p>1 複数オーダー出荷。複数のオーダーからのオーダー行を 1 つの出荷にまとめる。</p> <p>2 単一オーダー出荷。オーダー行をそのオーダーからの行をすでに含む出荷にのみまとめる。</p> <p>3 組み合わせなし。各オーダー行は、それぞれ個別の出荷に仕立てられる。</p>
<p>固定資産インターフェイス</p>	<p>このフラグは、積荷および配送確認管理車両またはバルク在庫タンク用に固定資産インターフェイスが使用可能となっているかどうかを示します。</p> <p>Y または 1 - インターフェイス使用可能</p> <p>N または 0 - インターフェイス使用不可</p>
<p>品目共存性チェック</p>	<p>品目レベルでの共存性チェックを実行するかどうかを示すフラグ。チェックする場合、共存性のない品目は同じ出荷に含めることはできません。</p>
<p>配送手配グループ共存性チェック</p>	<p>品目の共存性が配送手配グループを基準としているかどうかを指定するコード。 そうである場合、配送グループの異なる 2 つの品目は、同じ積荷または出荷には入りません。</p>
<p>商品クラス共存性チェック</p>	<p>品目の共存性が商品クラスを基準としているかどうかを指定するコード。そうである場合、商品クラスの異なる 2 つの品目は同じ積荷または出荷に入りません。</p>
<p>配送指示のコピー</p>	<p>[YES または NO の入力] フィールドには、プロンプト画面で「はい」または「いいえ」を選択する際に、“Y”または“N”を入力します。</p>
<p>重量</p>	<p>個別品目の重量を示すために使用される単位。 代表的な重量の単位は次のとおりです。</p> <p>GM グラム OZ オンス LB ポンド KG キログラム CW 100 ポンド TN トン</p> <p>重量単位に対するユーザー定義コード設定時に、ユーザー定義コードの特殊取扱コードに、“W”を指定してください。</p>

容積	この品目の容量に使用される計量単位を識別するユーザー定義コード(00/UM)。容量基準としては立方センチ、リットル、ガロンなどを指定できます。品目にこの計量単位を使用することも、個別の品目またはコンテナに対して計量単位を一時変更することもできます。
寸法	車両の幅、高さ、または長さの計量単位。
容量	在庫品目の容量の計量単位を示します。 代表的な容量単位は次のとおりです。 ML ミリリットル CF 立方フィート CY 立方ヤード CM 立方メートル PT パイント LY リットル 容量単位ユーザー定義コード設定時に、ユーザー定義コードの特殊取扱コードを“V”と指定してください。
1個当り最大重量	出荷貨物の最大重量
1個当り最大容量	出荷貨物の最大容積
一時保留出荷状況	出荷の承認が一時保留されているときの出荷状況
承認済み出荷状況	出荷にオーダー行が自動追加されなくなり、出荷の配送経路再設定が自動的に行われなくなる時点の状況。
確認済み出荷状況	出荷を確認したとみなされる時点およびそれ以降の状況。元のオーダーの数量を変更しても、確認済みの出荷は調整されません。
保留出荷状況	出荷が保留になっているときの出荷状況。
承認済み積荷状況	積荷が承認済みであることを示す積荷状況を識別します。
確認済み積荷状況	積荷の確認済み状況を示すコード。

積荷固定情報の設定

積荷固定情報によって、積荷タイプと積荷の自動採番に使用するデフォルト情報を定義します。これらの固定情報には、システムが積荷を処理するときに使用する各種の制御コードが含まれます。

積荷タイプの設定

積荷タイプを設定して、日次処理に使用する各積荷タイプの具体的な特性を定義します。たとえば、特定の積荷タイプが次の処理を必要とするかどうかなどを定義できます。

- 積送中在庫のトラッキング
- コンパートメント(バルク製品)
- 複数の積荷点

▶ 積荷タイプを設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈積荷タイプの処理〉を選びます。

1. 〈積荷タイプの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈積荷タイプの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 積荷タイプ
 - 配送手配タイプ
3. 次のうち該当するオプションをすべて選択して[OK]をクリックします。
 - コンパートメント・レベル割当て
 - 積荷確認-実際
 - 受オーダー行の調整
 - 積送中在庫のトラッキング
 - 積送中在庫の処分
 - 積置処分許可
 - 事前積荷数量の許可
 - 複数の集荷が可能

フィールド記述

記述	用語解説
積荷タイプ	積荷作成および確認処理で積荷がどのように取り扱われるかを制御するコード。 積荷タイプは、積荷タイプテーブルで定義されます。
配送手配タイプ	この車両がコンパートメントへの製品の積荷を制御および測定する際に、重量 または容量デバイスのどちらを使用するかを指示します。 有効な値は次のとおりです。 V 容量による測定方法を指示 W 重量による測定方法を指示 T 測定方法はトランザクションに基づく(ONEWORLDのみ) S 標準容量による測定方法を指示。バルク積荷および配送確認中またはバルク積荷および配送確認が1つのステップで実行される際に使用されます。 バルク車両に対しては、“V”または“W”の配送手配タイプを入力することができます。パッケージ車両には、“W”の配送手配タイプのみを入力することができます。
コンパートメント・レベル割当て	1 = 積荷にコンパートメントレベル割当てが必要 ブランク = コンパートメントレベル割当ては不可
積荷確認-実際	ブランク = 積荷を予定通り確認する必要がある 1 = 許容量に関わりなく実際数量を使用してバルク品目の積荷確認の必要がある
受オーダー行の調整	このフィールドは、[実際積荷確認]フィールドがブランク以外の場合のみ、バルク品目にのみ適用されます。 ブランク = 実際数量の積荷確認の際にオーダー行がシステムにより調整されない 1 = 実際の積荷数量が予定と異なるとき、積荷確認時にオーダー行を調整する必要がある
積送中在庫のトラッキング	積送中在庫が上級輸送管理システムでトラッキングされているかどうかを識別するコード。有効なコードは次のとおりです。 0 積荷確認で積送中在庫はトラッキングされない 1 積荷確認で積送中在庫がトラッキングされる
積送中在庫の処分	1 = 車両の積荷が確認される前に、その車両の前の積荷が完全に配送確認されており、車両に残っている製品があれば処理が必要 ブランク = 前の積荷の積送中在庫が処理済みかどうかにかかわらず積荷確認が可能

積置処分許可	1 = 配送完了後に車両に残っている製品が、次の積荷の使用のために残すものとして処分(処理)される ブランク = 車両に残っている製品が在庫に戻されるか、他の得意先に請求されるか、または増分として記録される必要がある
事前積荷数量の許可	1 = 前の積荷の製品が残っている場合も積荷確認できる ブランク = 積荷確認前に車両が空である必要がある
複数の集荷が可能	ブランク = 積荷の全出荷工程で単一の集荷点を使用する必要がある 1 = 複数の集荷点が積荷に使用可能

積荷用自動採番の設定

積荷の自動採番は、計画デポ・レベルで保管されます。計画デポは、中央の計画/スケジュール部門、または積荷の出荷元デポのいずれかを設定できます。

▶ 積荷用自動採番を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈積荷自動採番の処理〉を選びます。

1. 〈積荷用自動採番の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈積荷用自動採番の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 計画デポ
 - 次の番号

フィールド記述

記述	用語解説
計画デポ	トリップの開始地点となるデポ。トリップデポとトリップ番号フィールドで、車両、登録番号、積荷日付、シフトの固有の組合せを識別します。
次の番号	システムによって自動的に割り当てられる番号。自動採番は伝票番号や請求書番号、仕訳番号、従業員番号、住所番号、契約番号など、さまざまな番号に使用できます。カスタム・プログラミングが提供されていないかぎり、すでに設定されている自動採番を使用する必要があります。

輸送モード固定情報の設定

〈輸送モード固定情報〉プログラム(P49004)を使用して、使用する輸送モードのデフォルト情報をすべて定義します。輸送モード固定情報はデポごとに変更できます。デフォルトの車両タイプやデフォルトの積荷タイプを含むデポの情報を設定できます。

〈輸送モード固定情報〉を使用して、トラックや鉄道など各種のモードを管理する際に使用する情報を定義します。[ロー]メニューから配送経路や配送経路制約を検討することもできます。特定のモードに固有のシステム処理も輸送モード固定情報により制御できます。

参照

- 配送経路入力については、『輸送管理』ガイドの「配送経路入力の設定」
- 輸送モードのデフォルト情報を使用して設定する特定の車両については『輸送管理』ガイドの「車両情報の設定」
- デフォルトの積荷情報については、『輸送管理』ガイドの「積荷固定情報の設定」

▶ 輸送モード固定情報を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈モードの処理〉を選びます。

1. 〈輸送モード固定情報の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈輸送モード固定情報の改訂〉で、次の必須フィールドに値を入力します。
 - 事業所
 - デフォルト積荷タイプ
 - コンパートメント・フラグ
 - 職務タイプ
3. 次の任意フィールドのいずれかに値を入力します。
 - 輸送モード
 - デフォルト車両タイプ
 - リードタイム日数
 - 元帳クラス
 - 操作担当者の登録/ライセンス・タイプ
 - 車両登録/ライセンス・タイプ
4. 次のうち必要なオプションを選択します。
 - ラックフラグ
 - 自動出荷積荷

5. 自動ラックを使用する場合は、次の任意フィールドに値を入力し[OK]をクリックします。

- 処理制御システム ID

フィールド記述

記述	用語解説
輸送モード	得意先への商品運送に使用する運送業者の種類(鉄道や陸送など)をあらわすユーザー定義コード(00/TM)
デフォルト車両タイプ	品目の輸送に使用する車両のタイプ。 車両タイプにより、輸送モードが識別され、配送手配グループに割り当てられます。
デフォルト積荷タイプ	積荷作成および確認処理で積荷がどのように取り扱われるかを制御するコード。 積荷タイプは、積荷タイプテーブルで定義されます。
コンパートメント・フラグ	コンパートメントが車両で物理コンパートメントであるのか、それとも論理コンパートメントであるのかを示します。 V 車両で物理コンパートメント L 論理コンパートメント
リードタイム日数	オーダー入力から積荷が計画されるまでの最低日数
元帳クラス	請求書や伝票の転記時に計上する売掛金や買掛金を検索するために AAI 項目の RC(売掛金勘定)や PC(買掛金勘定)と組み合わせるコード。元帳クラスには最高 4 文字の英数字を割り当てることができます。各元帳クラスと対応する AAI を設定する必要があります。AAI が設定されていない場合、その元帳クラスは無視されます。 得意先や仕入先レコードの元帳クラスにデフォルト値を設定すると、取引入力時に変更しない限りこの値が使用されます。 注:9999 は使用しないでください。これは、仕訳を作成しないようにする転記プログラムの予約コードです。
職務タイプ	組織用の職務分類を示すユーザー定義コード(49/JT)。積荷および配送システムでは、定義した作業タイプは特に担当者用に使用されます。この値は、積荷および配送管理固定情報(F49001)で定義されます。トリップ設定には、作業タイプに定義された担当者が必要です。作業タイプはまた、車両/デポ担当者も定義します。
操作担当者の登録/ライセンス・タイプ	操作担当者に必要なライセンスタイプを識別します。操作担当者が、複数タイプの登録/ライセンスを所有している場合もあります。システムがこの値をチェックし、トリップ作成前に操作担当者に該当するタイプのライセンスを割り当てるように要求します。このフィールドを空白にすると、操作担当者に対して特定のライセンスタイプが要求されることはありません。
車両登録/ライセンス・タイプ	車両に必要なライセンスタイプを識別します。1 車両に、複数タイプの登録/ライセンスが必要な場合もあります。システムがこの値をチェックし、トリップ作成前に車両に該当するタイプのライセンスを割り当てるように要求します。このフィールドを空白にすると、車両に対して特定のライセンスタイプが要求されることはありません。

ラックフラグ	積荷ラックを使うかどうかを示すコード。有効な値は次のとおりです。 Y または 1 = 使う N または 10 = 使わない ブランク = N が使用されます
自動出荷積荷メモ	自動出荷システムにより、積荷および配送システムからバルク製品積荷メモを印刷するかどうかを示します。自動出荷システムによりバルク製品積荷メモを印刷する場合は、“Y”を入力してください。
処理制御システム ID	処理制御システムを識別します。デポ別、タンク別、輸送モード別に 関連する 1 つ以上の処理制御システムを識別することができます。 このフィールドは自動出荷情報のダウンロードに使用されます。

品目の設定

輸送システムの効率を向上させるために、固有の出荷情報を使用して品目を設定できます。この情報を設定することにより、共存不可品目の混載や品目の不適切な出荷といった問題を避けることができます。たとえば、別の製品と混載して出荷に積み込めない製品がある場合、共存不可品目を個々の品目ごとに設定できます。

共存不可品目の設定

共存不可品目は品目レベルで設定できます。混載すると危険だと設定した品目は、出荷や積荷に混載することはできなくなります。混載する品目のタイプによって、出荷や積荷に共存させられるかどうか、各品目が禁止されている積荷順序になっていないかがチェックされます。

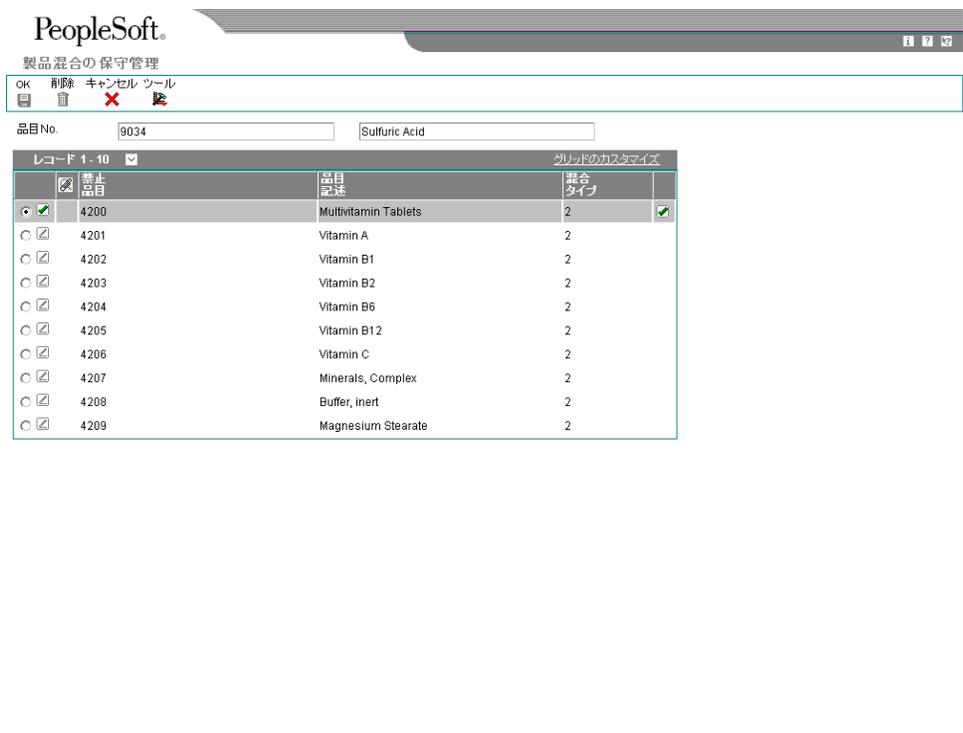
はじめる前に

- 品目マスター(F4101)に品目を設定します。『在庫管理』ガイドの「品目マスター情報の入力」を参照してください。

▶ 共存不可品目を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈共存不可品目〉を選びます。

1. 〈品目マスターのブラウズ処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 共存不可として設定する品目を選びます。
3. [ロー]メニューから[製品混合]を選びます。



4. 〈製品混合の保守管理〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 禁止品目
- 混合タイプ

フィールド記述

記述	用語解説
禁止品目	システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第3品目番号などのフォーマットがあります。
混合タイプ	品目がどの禁止品目の混載に属するかを示します。 有効な値は次のとおりです。 blank = 洗浄せずに同一ハッチに連続して積載できない製品 1 = 同一車両への積載が禁止されている製品 2 = 同一出荷または車両への積載が禁止されている製品

品目出荷情報の設定

品目出荷情報は、在庫管理システムの品目マスター情報に追加されます。〈品目マスター〉プログラム(P4101)を使用して、運賃分類、商品コード、危険物情報、輸出情報といった、出荷中に点検すべき特定の品目仕様を設定できます。

はじめる前に

- 品目マスターに品目を設定します。『在庫管理』ガイドの「品目マスター情報の入力」を参照してください。

▶ 品目出荷情報を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈品目出荷情報〉を選びます。

1. 〈品目マスターのブラウズ処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 品目出荷情報を設定する品目を選びます。
3. [ロー]メニューから[保管/出荷]を選びます。

PeopleSoft

保管/出荷

OK キャンセル フォーム ツール

略式品目 No. 700664

品目 No. 9034 Sulfuric Acid

UCC 128 出荷

<p>貨物分類(NMFC)</p> <p>NMFC品目 No. 454083</p> <p>標準輸送商品コード</p> <p>貨物カテゴリ・コード 1</p> <p>貨物カテゴリ・コード 2 D</p>	<p>危険物情報</p> <p>UNまたはNA No. 118562</p> <p>危険物クラス 8</p> <p>危険ラベル WHT</p> <p>引火点温度 0</p> <p>温度タイプ</p>
<p>国外出荷情報</p> <p>統一出荷コード</p> <p>商品生産者</p> <p>優先規準</p> <p>輸出商品管理 No.</p> <p>国内/国外商品</p>	<p>航空運賃</p> <p>梱包グループ II</p> <p>梱包指示 811</p> <p>二次リスク 8</p>

4. <保管/出荷>で、[出荷]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。

- 貨物分類(NMFC)
- NMFC 品目 No.
- 標準輸送商品コード
- 貨物カテゴリ・コード 1
- 貨物カテゴリ・コード 2

5. 輸出情報を入力するには、次のフィールドに値を入力します。

- 統一出荷コード
- 商品生産者
- 優先規準
- 輸出商品管理 No.
- 国内/国外商品

6. 危険物の情報を入力するには、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- UN/NA No.
- 危険物クラス
- 危険ラベル
- 引火点温度
- 温度タイプ
- 梱包グループ
- 梱包指示
- 二次リスク

フィールド記述

記述	用語解説
貨物分類(NMFC)	NATIONAL MOTOR FREIGHT CLASSIFICATION (NMFC)。貨物商品コードに基づいて割り当てます。
NMFC 品目 No.	運賃分類を割り当てするのに使用する品目番号。
標準輸送商品コード	鉄道輸送に使用される標準輸送商品コード
貨物カテゴリ・コード* 1	出荷する品目に関連する汎用フィールド。このフィールドは、品目マスター・テーブルのユーザー指定フィールドからロードされます。
統一出荷コード	輸出書類に印刷する統一出荷コード
商品生産者	原産地証明書に使用される商品生産者フラグ
優先規準	北アメリカの原産地証明書で使用される優先基準
輸出商品管理 No.	輸出書類に印刷される管理番号
国内/国外商品	原産地証明書に印刷される国内/外国商品フラグ
UN/NA No.	危険物に割り当てられた UN または NA 番号
引火点温度	危険物の引火点の温度
温度タイプ	温度タイプを識別するコード F 華氏 C 摂氏

処理オプション: 品目マスター(P4101)

デフォルト・タブ

次の処理オプションは、計量単位など、システムが使用するデフォルト情報を定義します。

1. 基本計量単位

blank = EA

基本計量単位を識別します。blankにすると、EA(個)が使用されます。

2. 重量計量単位

blank = LB

重量の基本計量単位を識別します。blankにすると、LB(ポンド)が使用されます。

3. 容量計量単位

blank = GA

4. テンプレート

blank = なし

処理タブ

次の処理オプションを使用すると、品目注記テーブルで使用される開始日付と終了日付を指定でき、〈品目マスターの改訂〉フォームで情報を追加または変更する際に特定のフォームを表示するかどうかを指定できます。

1. 注記の開始日付

blank = システム日付

印刷メッセージ・テーブル(F4016)の有効開始日付を指定します。blankにすると、システム日付が使用されます。

2. 注記の終了日付

blank = デフォルト世紀の最終日付

印刷メッセージ・テーブル(F4016)の有効終了日付を指定します。blankにすると、デフォルト世紀の最終日が使用されます。

3. カテゴリコード

blank = 画面表示しない

1 = 画面表示する

〈品目マスターの改訂〉フォームで情報を追加または変更する際に〈カテゴリ・コード〉フォームを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 表示しない

1 = 表示する

4. 追加システム情報

blank = 画面表示しない

1 = 画面表示する

〈品目マスターの改訂〉フォームで情報を追加または変更する際に〈追加システム情報〉フォームを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 表示しない

1 = 表示する

5. 保管/出荷

blank = 画面表示しない

1 = 画面表示する

〈品目マスターの改訂〉フォームで情報を追加または変更する際に〈保管/出荷〉フォームを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 表示しない

1 = 表示する

6. 原価の改訂(条件付き)

blank = 画面表示しない

1 = 画面表示する

〈品目マスターの改訂〉フォームで情報を追加または変更した際に〈原価の改訂〉フォームを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

〈原価の改訂〉フォームが表示されるようにするには、〈品目マスターの改訂〉フォームの[在庫原価レベル]フィールドを“1”に設定する必要があります。

7. 価格の改訂(条件付き)

ブランク = 画面表示しない

1 = 画面表示する

〈品目マスターの改訂〉フォームで情報を追加または変更した際に〈価格の改訂〉フォームを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

〈価格の改訂〉フォームが表示されるようにするには、〈品目マスターの改訂〉フォームの[販売価格レベル]フィールドを“1”に設定する必要があります。

8. 計量単位の変換(条件付き)

ブランク = 画面を表示しない

1 = 画面を表示する

ここから情報を追加/変更するとき、計量単位換算を品目レベルで行うときに計量単位フォームを表示するかどうか指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 計量単位フォームを表示しない

1 = 計量単位フォームを表示する

9. 事業所品目

ブランク = 事業所品目を表示しない

1 = 事業所品目を表示し、〈品目マスター〉に戻る

2 = 事業所品目を表示、その画面に留まる

〈品目マスターの改訂〉フォームで情報を追加または変更した際に〈事業所品目〉フォームを表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 表示しない

1 フォームを表示して、〈品目マスターの改訂〉フォームに戻る

2 〈事業所品目〉フォームを表示して、このフォームに残る

10. 添付

ブランク = 社内用添付を表示する

1 = 品目注記を表示する

〈品目マスターのブラウザ処理〉フォームでメディア・オブジェクトを選択したときに〈品目注記〉フォームを表示するかどうか指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 社内添付のみを表示する

1 = フォームを表示する

11. テンプレートの使用

ブランク = テンプレートを使用しない

1 = テンプレートを使用する

セグメント品目のテンプレートを使用するかどうかを指定できます。
有効な値は次のとおりです。

ブランク = 使用しない

1 = 使用する

ワークフロータブ

ワークフローをアクティブにするかどうか、ユーザーによる情報の追加/変更を許可するかどうかを指定できます。

1. ワークフロー(未使用)

ブランク = ワークフローをアクティブにしない

- 1 = 追加
- 2 = 変更
- 3 = 追加と変更

この処理オプションは使用しないでください。J.D. Edwardsはこの処理オプションをサポートしていません。また今後このオプションを廃止する予定です。詳細については、監査ソリューション(21CFR11)の『ツール』ガイドと電子署名を参照してください。

2. 変更とワークフロー再開の許可(将来使用)

ブランク = 変更を追加できない

- 1 = レコードを変更とワークフローの再開を許可する

この処理オプションは使用しないでください。J.D. Edwardsはこの処理オプションをサポートしていません。また今後このオプションを廃止する予定です。詳細については、監査ソリューション(21CFR11)の『ツール』ガイドと電子署名を参照してください。

3. 履歴レコードとしての記録(将来使用)

ブランク = 品目を履歴レコードとして記録しない

- 1 = すべての追加と変更を履歴レコードとして記録する

この処理オプションは使用しないでください。J.D. Edwardsはこの処理オプションをサポートしていません。また今後このオプションを廃止する予定です。詳細については、監査ソリューション(21CFR11)の『ツール』ガイドと電子署名を参照してください。

一括更新タブ

次の処理オプションを使用すると、第2または第3の品目番号に対する変更に合わせて、選択したテーブルのレコードを更新できます。

1. 変更の反映

- 1 = 第2、3品目番号に変更を反映する
- 2 = 選択したテーブルの第2、3品目番号に変更を反映する

事業所品目レコードの品目番号に変更があったときに更新するテーブルを指定します。
有効な値は次のとおりです。

blank = テーブルは更新されません。

1 = 第 2 と第 3 品目番号に変更がある品目事業所情報を含むテーブルのみを更新する

2 = 第 2 と第 3 品目番号に変更がある品目事業所情報を含み、選択されたテーブルのみを更新する

バージョン・タブ

次の処理オプションを使用すると、〈品目マスター〉プログラムからアクセスするさまざまなプログラムのバージョンを指定できます。バージョンごとに情報の処理および表示方法が異なります。このため、特定のニーズを満たすように処理オプションを設定する必要があります。

1. 在庫状況 (P41202)

blank = ZJDE0001

〈在庫状況〉プログラム(P41202)のバージョンを指定します。blankにすると、ZJDE0001バージョンが使用されます。

2. 事業所品目 (P41026)

blank = ZJDE0001

〈事業所品目〉プログラム(P41026)のバージョンを指定します。blankにすると、ZJDE0001バージョンが使用されます。

2. 原価の改訂 (P4106)

blank = ZJDE0001

〈原価の改訂〉プログラム(P4105)にアクセスしたときに実行するバージョンを指定します。

blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

4. セグメント品目引当可能数量

blank = ZJDE0001

〈セグメント在庫状況〉プログラム(P41206)にアクセスするときに実行するバージョンを指定します。

blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

インタオペラビリティ・タブ

次の処理オプションを使用すると、アウトバウンド・インタオペラビリティ処理を行うかどうか、およびトランザクションを変更する前にレコードを作成するかどうかを指定できます。

1. トランザクションタイプ

ブランク = 送信インタオペラビリティ処理なし

検索する伝票タイプを指定します。

トランザクション・タイプはユーザー定義コード(00/TT)で、請求書や受注オーダーなどのトランザクション・タイプを識別します。トランザクション・タイプは直接入力するか、または<ユーザー定義コード>フォームから選択できます。トランザクション・タイプはデフォルトとして使用されます。

ブランクにすると、エクスポート処理は実行されません。

2. 変更前/後トランザクションの処理

ブランク = 変更後トランザクションのみを書き込む

1 = 変更前トランザクションを書き込む

トランザクションに変更があった後にそのレコードを作成するか、または変更前と後の両方でレコードをするかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 変更後に作成する

1 2つのレコードを作成する: 変更前に1レコード、変更後に1レコード

出荷トラッキング番号設定

カートンをピッキングし、かつ出荷の前に出荷の内容を再編成した後で、倉庫管理システムで作成した貨物に輸送管理システムが自動的に割り当てるトラッキング番号をカスタマイズできます。出荷貨物は、パレット、箱、クレート、その他の出荷コンテナのいずれであってもかまいません。各貨物にシステムが割り当てるトラッキング番号により、各出荷貨物の位置を正確に（物理的にもシステム内でも）把握することができます。

出荷トラッキング番号の設定

〈トラッキング番号生成設定〉プログラム(P49005)は、倉庫管理システムの〈カートン再編成〉プログラム(P4620)によって生成された貨物のお荷トラッキング番号を生成します。たとえば、〈カートン再編成〉プログラムを使用して、出荷に新しいパレットを作成し、出荷のカートンを新しいパレットに移動します。〈カートン再編成〉プログラムに該当する処理オプションを設定したら、新しいパレットが輸送管理システムの貨物として自動的に指示され、情報が出荷貨物テーブル(F4943)に記録されます。

〈トラッキング番号生成設定〉プログラムを使用して、貨物へのトラッキング番号割当時に使用されるトラッキング番号の構造を定義または変更できます。トラッキング番号の構造を定義する前に、〈トラッキング・セグメント自動採番設定〉プログラム(P490052)を使用してトラッキング・セグメント自動採番を設定する必要があります。これにより、運送業者別にトラッキング番号構造をカスタマイズできます。自動採番を使用して、番号が出荷トラッキング番号の各セグメントに割り当てられます。

次に、〈トラッキング番号生成設定〉プログラムを使用してトラッキング番号の構造を定義します。構造には、次の 2 つの部分があります。

- セグメント
- 区切り文字

セグメントとは、トラッキング番号の個々の部分です。トラッキング番号には最大で 30 文字を使用できます。各セグメントは、トラッキングしている貨物に固有の情報の設定を表します。たとえば、輸送モード情報を含むセグメントもあれば、運送業者情報を含むセグメントもあります。

区切り文字は、セグメントの終わりと次のセグメントの始まりを示す、ダッシュ(-)やブランクなどのユーザー定義文字です。システムは、区切り文字をトラッキング番号の 30 文字制限の一部としてはカウントしません。区切り文字を定義する際は、1 文字のみ使用できます。また、システムが区切り文字を挿入するトラッキング番号の位置も指定できます。たとえば、合計 8 つの数値があり、2 つの区切り文字で区切られているトラッキング番号があるとします。3 番目の数値の後に最初の区切り文字を挿入し、5 番目の数値の後に第 2 の区切り文字を挿入するように指定できます(123-45-678)。

▶ **トラッキング番号セグメントの自動採番を定義するには**

〈運送業者の設定〉メニュー(G49414)から〈トラッキング・セグメント自動採番の処理〉を選びます。

1. 〈トラッキング・セグメント自動採番の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

トラッキング・セグメント自動採番の改訂

OK 検索 削除 キャンセル ツール

出荷デポ

運送業者No.

伝票コード

有効開始日付

レコード 1 - 1 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	有効開始日付	有効終了日付	次の番号	開始番号	終了番号
<input type="checkbox"/>					

2. 〈トラッキング・セグメントの次の番号の改訂〉で、見出し部分の次のフィールドに値を入力します。

- 出荷デポ
- 運送業者 No.
- 伝票コード

3. グリッドの次のフィールドに値を入力します。

- 有効開始日付
- 有効開始日付
- 次の番号
- 開始番号
- 終了番号

4. 定義するすべての次の番号に同じ手順を繰り返し、完了したら[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
出荷デポ	トリップの開始地点となるデポ。トリップデポとトリップ番号フィールドで、車両、登録番号、積荷日付、シフトの固有の組合せを識別します。
運送業者 No.	出荷または出荷の一部の輸送担当に割り当てられた運送業者。これは、一般の運送業者または自社の運送部門を指します。
伝票コード	この伝票を印刷する際に使用する伝票コードを識別します。
有効開始日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
有効開始日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
次の番号	トラッキング番号を自動採番するために割り当てる番号。
開始番号	トラッキング番号を自動採番する際の最初の番号。
終了番号	トラッキング番号を自動採番する際の最後の番号。この番号の次は、また最初の番号から割り当てられます。

▶ トラッキング番号セグメントを定義するには

〈運送業者の設定〉メニュー(G49414)から〈トラッキング番号生成の処理〉を選びます。

1. 〈トラッキング No.生成の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈トラッキング No.セグメントの改訂〉で、次のフィールドに運送業者を入力します。
 - 運送業者 No.
3. 次のフィールドに値を入力して、トラッキング番号の最初のセグメントを定義します。
 - 輸送モード
 - 伝票コード
 - 順序 No.
 - トラッキング・セグメント長
4. 次のオプションのいずれかを選択し、関連するフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - ハードコード
 - 検索タイプ
 - UDC テーブル

- 自動採番
 - チェック・ディジット
 - 外部関数
5. トラッキング番号の各セグメントについてこの手順を繰り返します。
 トラッキング番号の各セグメントを定義したら、区切り文字を定義できます。

フィールド記述

記述	用語解説
運送業者 No.	出荷または出荷の一部の輸送担当に割り当てられた運送業者。 これは、一般の運送業者または自社の運送部門を指します。
輸送モード	運送業者または輸送モードにより、トラッキング番号セグメント を使って運送業者番号別または輸送モード別にユーザー定義コードテーブルの値を選択することができます。
伝票コード	運送業者または輸送モードにより、トラッキング番号セグメント を使って運送業者番号別または輸送モード別にユーザー定義コードテーブルの値を選択することができます。
順序 No.	OneWorld では、有効な環境が表示される順番をユーザーが設定する順序です。 World では、ユーザーが定義する順番でレコードを処理する際に使用される順序またはソート番号です。
トラッキング・セグメント長	定義したセグメントに対して選択した桁数。検索(LOOKUP)タイプとして定義したセグメントの場合、データ項目のデータ辞書の長さ以上は自動的に切り詰められます。ユーザー定義コード・テーブルとして定義したセグメントの場合、記述フィールドの長さと同じになります。チェックディジットとして定義したセグメントの場合、トラッキングセグメント長には"1"のみ指定できます。
ハードコード	トラッキングセグメントを定義します。有効な値は次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> 1 ハードコード化された値 2 トラッキング検索 3 ユーザー定義コード・テーブル 4 次の番号 5 チェックディジット 6 外部トラッキング番号ビジネス関数 <p>注: チェックディジットはトラッキング番号の末尾の数字になります。</p>

検索タイプ

トラッキングセグメントを定義します。有効な値は次のとおりです。

- 1 ハードコード化された値
- 2 トラッキング検索
- 3 ユーザー定義コード・テーブル
- 4 次の番号
- 5 チェックディジット
- 6 外部トラッキング番号ビジネス関数

注:チェックディジットはトラッキング番号の末尾の数字になります。

UDC テーブル

トラッキングセグメントを定義します。有効な値は次のとおりです。

- 1 ハードコード化された値
- 2 トラッキング検索
- 3 ユーザー定義コード・テーブル
- 4 次の番号
- 5 チェックディジット
- 6 外部トラッキング番号ビジネス関数

注:チェックディジットはトラッキング番号の末尾の数字になります。

自動採番

トラッキングセグメントを定義します。有効な値は次のとおりです。

- 1 ハードコード化された値
- 2 トラッキング検索
- 3 ユーザー定義コード・テーブル
- 4 次の番号
- 5 チェックディジット
- 6 外部トラッキング番号ビジネス関数

注:チェックディジットはトラッキング番号の末尾の数字になります。

チェック・ディジット

トラッキングセグメントを定義します。有効な値は次のとおりです。

- 1 ハードコード化された値
- 2 トラッキング検索
- 3 ユーザー定義コード・テーブル
- 4 次の番号
- 5 チェックディジット
- 6 外部トラッキング番号ビジネス関数

注:チェックディジットはトラッキング番号の末尾の数字になります。

外部関数

トラッキングセグメントを定義します。有効な値は次のとおりです。

- 1 ハードコード化された値
- 2 トラッキング検索
- 3 ユーザー定義コード・テーブル
- 4 次の番号
- 5 チェックディジット
- 6 外部トラッキング番号ビジネス関数

注:チェックディジットはトラッキング番号の末尾の数字になります。

▶ 区切り文字を定義するには

〈運送業者の設定〉メニュー(G49414)から〈トラッキング番号生成の処理〉を選びます。

1. 〈トラッキング番号生成の処理〉で、次のフィールドのすべて、またはいずれかに値を入力して検索する情報を絞り込み、[検索]をクリックします。
 - 運送業者 No.
 - 輸送モード
 - 伝票コード
2. [ロー]メニューから[セパレータ]を選択します。
3. 〈トラッキング・セグメントの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 順序 No.
 - 区切り文字挿入位置
 - 区切り文字
4. 定義するすべての区切り文字に同じ手順を繰り返し、完了したら[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
順序 No.	OneWorld では、有効な環境が表示される順番をユーザーが設定する順序です。 World では、ユーザーが定義する順番でレコードを処理する際に使用される順序またはソート番号です。
区切り文字挿入位置	区切り文字を挿入するトラッキング番号内の位置。トラッキング番号の長さを超える値は指定できません。 この位置の後に区切り文字が挿入されます。 例:トラッキング番号が"987654321"、区切り文字位置が"4"、区切り文字が"/"の場合、トラッキング番号は"9876/54321"と表示されます。
区切り文字	トラッキング番号を区切る位置に挿入する文字(記号)

運送業者の設定

運送業者の設定とは、特定の運送業者のプロファイルを作成するプロセスのことです。取引の相手となる各運送業者に関する情報を入力する必要があります。運送業者プロファイルの情報を基に、出荷や積荷の配送経路やレートが決定されます。

運送業者プロファイルを作成するには、まず輸送を依頼する運送業者を住所録システムに登録する必要があります。住所録には各運送業者の住所、電話番号、ファックス番号などの基本情報を入力します。輸送管理システムでは、この基本情報を基に運送業者プロファイルを作成し、より具体的な情報を追加していきます。プロファイルを作成するには、運送業者マスターに追加情報を入力し、提供されるサービスに基づいて配送経路とレートを適用します。

運送業者の設定

使用する各運送業者に関してプロファイル情報を入力する必要があります。住所録システムに住所や電話番号などの運送業者の基本情報を入力した後で、運送業者プロファイルにライセンスまたは登録など、運送業者に関する追加情報を設定します。

はじめる前に

- 住所録システムで運送業者の住所情報を設定します。『住所録』ガイドの「住所録レコードの作成と更新」を参照してください。

運送業者マスター情報の設定

〈運送業者マスター〉プログラム(P4906)を使用して運送業者マスター情報を設定する場合は、輸送サービスを提供する運送業者に関する具体的な情報(たとえば、業務内容の格付けやトラッキング情報)を定義します。

出荷や積荷の情報は配送ごとにトラッキングできます。インターネットを利用して出荷をトラッキングできる運送業者については、輸送管理システムにデフォルトのトラッキング方法を設定します。自動トラッキング機能を設定するには、使用するトラッキング・システムのタイプに合わせて、ビジネス関数を作成する必要があります。トラッキング情報を設定した後は、電話やインターネット、または運送業者が提供するその他のトラッキング機能を使用して、運送業者のトラッキング情報にアクセスできます。

注:

運送業者でインターネット対応のサービスが提供されている場合にのみ、インターネットを介して出荷や積荷をトラッキングできます。

参照

- 出荷をトラッキングする際に運送業者を設定する方法については、『輸送管理』ガイドの「出荷のトラッキング」

▶ 運送業者マスター情報を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G49414)から〈運送業者の処理〉を選びます。

1. 〈運送業者マスターの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈運送業者マスターの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 運送業者 No.
 - 標準運送業者記述コード
 - 寸法重量係数
 - 成績評価
 - 出荷トラッキング・タイプ
 - 参照番号 1 の修飾子
 - 参照番号 2 の修飾子
 - 出荷トラッキング・ビジネス関数
3. 次のオプションのいずれかを選択して[OK]をクリックします。
 - 自動支払
 - 経路選択可能
 - 支払運賃明細

フィールド記述

記述	用語解説
運送業者 No.	住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税 ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。 たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに"*JDEDWARDS"と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。
標準運送業者記述コード	運送業者に割り当てられる固有の 4 文字コード
寸法重量係数	運送業者が荷送り人に割り当てた係数で、寸法重量の計算に使用します。寸法重量は、長さ×幅×高さ/寸法重量係数で計算されます。
成績評価	運送業者を業績でランク付けするために割り当てる数字。 配送経路を業績に基づいて選択する場合、この数字の小さい運送業者が数字の大きい運送業者より先に選択されます。

出荷トラッキング・タイプ	運送業者が提供するトラッキング方法。 これにはインターネット、WWW、電話などがあります。
参照番号 1 の修飾子	参照番号を修飾するコード。EDI X12 データ・エレメント 128 で 使用できる値である必要があります。
出荷トラッキングビジネス関数	運送業者の外部出荷トラッキング機能にアクセスできるようにする ビジネス関数。
自動支払	このフィールドは、支払運賃の計算時に買掛伝票が運送業者に対して 自動的に作成されるかどうかを識別します。
経路選択可能	出荷の配送経路が自動設定されるときにシステムが配送経路を選択 するかどうかを指定するフラグ。 有効な値は次のとおりです。 1 自動選択できる 0 自動選択できない
支払運賃明細	このカラムは、支払項目が個別の支払可能料金の伝票にロードされるか、 あるいは単一積荷/出荷の全支払可能料金が単一支払項目に追加されるか を示します。

ライセンスと登録情報の設定

特定地域内で車両を運用する許可を得るための料金を州や政府に支払うと、ライセンスと登録情報が送られてきます。このライセンス情報は、支払ったライセンスとともに保持してください。運送業者マスター情報を設定した後で、各運送業者のライセンス情報を設定できます。

▶ ライセンスと登録情報を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G49414)から〈運送業者の処理〉を選びます。

1. 〈運送業者マスターの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 運送業者を選び、[ロー]メニューから[ライセンスの管理]を選びます。
3. 〈ライセンスの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 登録/ライセンス No.
 - 登録/ライセンス・タイプ
 - 発行機関
 - 国
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付
 - メッセージタイプ
 - 印刷メッセージ

フィールド記述

記述	用語解説
登録/ライセンス No.	ライセンス、許可証、または証明書に表示される ID 番号
登録/ライセンスタイプ	普通運転免許、安全訓練証明書、ヤード(屋外タンク)へのアクセス、ラックへのアクセスなど、必要な権限や文書のタイプを示します。
発行機関	このライセンスの発行を担当する代理店。電話番号と住所情報に使用できる住所番号です。
国	国を識別するユーザー定義コード(00/CN)。国コードは通貨換算には影響しません。住所録システムでは、データ選択および住所フォーマットに使用されます。
有効開始日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
有効終了日付	取引(トランザクション)、テキスト・メッセージ、契約、債務、優先情報の有効期限が終了した日付
メッセージタイプ	印刷メッセージを指定する場合、このメッセージの伝達方法を選択することができます。伝票にメッセージを印刷するか、または処理中にウィンドウにメッセージを表示するか、あるいはその両方を選択することができます。 有効な値は次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none">1 メッセージを表示する2 メッセージを印刷する3 メッセージを表示および印刷する
印刷メッセージ	各印刷メッセージに割り当てるユーザー定義コード。祝日の営業時間や特殊配送指示、設計仕様など、さまざまなメッセージを印刷することができます。

レートの設定

レートによって、さまざまな場所に出荷する製品の輸送コスト、および顧客に運賃として請求する出荷料金の金額が確定します。レートの定義では次の内容が指定されます。

- 重量、容積、距離の値などのレート
- 均一料金、一元の検索レート、または二元の検索レートなどのレートの構造
- レートが請求であるか支払であるか
- 特定のレートを計算するために必要な情報(割引など)

製品の出荷に必要なコストのことを支払運賃といいます。また顧客に運賃として請求する金額のことを請求運賃といいます。

輸送管理システムでは、均一料金や検索料金を含め、各種のレートを設定することができます。均一料金とは、重量や容量、その他料金計算に適用する一定料金(単位原価×数量)のことです。検索料金は均一料金と似ていますが、一定金額または単位金額に対して重量、容量、その他の要素が加味されます。

輸送管理システムでは低減レート、仮定レート、不足重量レート、その他料金といった業界標準の料金体系を使用することもできます。

低減レート	品目の重量値によって決定されます。低減レートは、主に保険を目的として使用されます。
検索料金	実際の重量のレベル区切り範囲を検索します。検索料金は範囲内の最小重量または容量区切りに基づいて計算されます。2つの料金のうち低い方が使用されます。検索料金を使用するためには、重量または容量に対してレートの基準を設定しておく必要があります。
不足重量レート	複数のオーダーの総重量に基づき、各オーダーに対して割引が実施されます。不足重量レートを使用するには、レート・レベルを詳細、レート基準を重量、詳細レベルを NMFC、最初の検索タイプを重量にする必要があります。
付帯料金	内部配送や土曜日指定配送などの追加料金を表します。

料金は、出荷、個数、または詳細のいずれのレベルにでも適用できます。たとえば、出荷全体の重量で料金を決める場合、出荷レベルで計算した料金が適用されます。また品目レベルで料金を適用する場合は、品目の重量に基づいて個々の出荷の料金が計算されます。次に、それを合計して出荷全体の料金が計算されます。

レート表には、運賃を正しく計算するために実行する料金計算の処理がリストとしてすべて表示されます。たとえば、重量とその他の料金に基づいて基本輸送料金を決めるレート表を設定できます。料金計算の実行時には、レート表で指定された順序に従って計算されます。

購買オーダーまたは返品オーダーを作成する場合は、配送経路を設定することにより、出荷の料金が決まります。インバウンド出荷に使用するレートやレート表は、業務プロセスに応じて設定できます。ただし、インバウンド出荷には特定の経路を設定する必要はありません。インバウンド配送経路には、作業配送経路テーブルで定義されたアウトバウンド配送経路を使用することができます。運賃が請求可能な場合は、インバウンド出荷に対してのみレートが計算されます。

はじめる前に

- 運送業者マスターで運送業者を設定してください。『輸送管理』ガイドの「運送業者マスター情報の設定」を参照してください。

レートと定義の設定

レート定義は、運送業者からの運賃請求方法、自社輸送部門のコスト計上方法、または顧客への運賃請求方法に従って設定します。システムでは、輸送上の必要に応じて各種のレートを設定できます。レートを定義した後は、これをレート表に割り当てることができます。レート表では、特定の経路にレートを適用します。

レートを設定する場合はまず、その運賃が請求か支払か、またはその両方であるかを決めます。たとえば、顧客への請求、運送業者への支払、あるいはその両方であるかを確定します。

個々のレートのレート・タイプとして、一定金額、単位原価、配送経路特定料金、または比例配分金額が使用できます。

レートは、出荷、積荷、または出荷や積荷を構成する個々の品目の重量に基づいて適用できます。レートを設定するときは、レート定義に適用されるレート詳細レベルを指定する必要があります。

ほとんどの場合、重量などの出荷の属性に基づいた計算が必要になります。たとえば、出荷の総重量によって、単位重量あたりのレートが異なる場合があります。レート金額はユーザー定義の値に基づいて取り込まれます。重量分岐などのパラメータは検索タイプで定義できます。次に、料金表でレート金額を設定します。

インバウンド出荷の運賃は、アウトバウンド出荷に対する場合と同じ方法で計算されます。ただし、インバウンド出荷の場合は、支払となる諸掛運賃のみ計算されます。レートを設定する際は、料金をインバウンドまたはアウトバウンド、あるいはその両方として指定できます。出荷の配送経路が設定されると、アウトバウンドまたは両方のレート明細で支払諸掛運賃が計算されます。インバウンド出荷に対してインバウンド・レート表が定義されている場合、配送元と配送先の情報が交換され、配送元と配送先の情報に一致する配送経路が選択されます。配送経路のレートが決まると、インバウンドおよび両方として定義されたレート表のレート明細のみが使用されます。

レート・タイプの理解

レート・タイプとは、重量、容量、その他の要素を乗算して合計料金を計算した単位原価のことです。乗数は、レート基準とも呼ばれます。各レートにはレートを定義するレート・タイプがあります。各レート定義では、レートを適用するレベルも指定する必要があります。レートは、出荷、積荷、詳細、個数の各レベルで適用できます。システムには次のレート・タイプが用意されています。

- | | |
|---------------|--|
| 単価 | レート基準で指定された金額。レート基準によっては、計量単位が必要になる場合もあります。たとえば、レート基準に重量を使用する場合は、計量単位も指定する必要があります。 |
| 一定金額 | 重量や容量に関係なく請求される金額。たとえば、小荷物運送業者の場合は、小荷物の重量に応じて一定の料金を設定しています。この場合、レート基準は必要ありません。 |
| 比例配分金額 | 比例配分金額では、容量または重量に基づいて支払運賃を比例配分しておくことにより、1つまたは複数の請求運賃を計算します。 |

レート・レベルの理解

レート・タイプを定義すると、レート・レベルが定義されます。システムには次のレート・レベルが用意されています。

- 出荷レベル** 出荷の中に個別の品目が含まれている場合でも、出荷全体としてのレートが計算されます。重量に基づいてレートを定める場合は、出荷または積荷の重量によって料金が計算されず。
- 個数レベル** 個数レベルでは、出荷中に含まれる個々の品目の料金を計算し、これを加算して合計運賃を求めます。この計算方法は通常、出荷に含まれる箱やコンテナごとに個別の運賃を計算する小荷物用のレート設定に使用されます。
- 詳細レベル** 詳細レベルでは、運賃分類コードなどの一般的な属性に従い、出荷の詳細レベルでレートを計算します。詳細レベルでレートを計算するときは、出荷または積荷で適用される運賃分類、配送手配グループ、カテゴリ 1、カテゴリ 2 のいずれかに対して料金が 1 回計算されます。詳細レベルでは、システムが使用する属性が指定されます。
- 重量を基にレートを計算する場合は、同じ属性を持つ出荷明細レコードを合計した重量で料金が計算されます。たとえば、貨物分類別に詳細レートを分類 55 に属する全品目に適用し、次に分類 60 の全品目(以下同様)に適用することができます。出荷の貨物分類ごとに運賃が 1 つずつ計算、記録されます。

料金コードの設定

料金コードを使用して類似した運賃をまとめて分類すれば、会計処理や税務処理にも利用できます。請求運賃の場合、料金コードの記述は顧客請求書に印刷されます。レートには、請求運賃と支払運賃に対して異なる各料金コードを使用できます。

はじめる前に

- 料金コードが運賃コード・テーブル(49/BL)で定義されていることを確認してください。『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コードのカスタマイズ」

▶ 料金コードを設定するには

〈レートの設定〉メニュー(G49412)から〈料金コードの処理〉を選びます。

〈料金コード定義の改訂〉で、グリッドの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 元帳クラス
- 料金コード
- 課税対象

フィールド記述

記述	用語解説
料金コード	運賃を分類するユーザー定義コード
元帳クラス	<p>請求書や伝票の転記時に計上する売掛金や買掛金を検索するために AAI 項目の RC(売掛金勘定)や PC(買掛金勘定)と組み合わせるコード。元帳クラスには最高 4 文字の英数字を割り当てることができます。各元帳クラスと対応する AAI を設定する必要があります。AAI が設定されていない場合、その元帳クラスは無視されます。</p> <p>得意先や仕入先レコードの元帳クラスにデフォルト値を設定すると、取引入力時に変更しない限りこの値が使用されます。</p> <p>注:9999 は使用しないでください。これは、仕訳を作成しないようにする転記プログラムの予約コードです。</p>
課税対象	購買時にその品目が売上税の対象となるかどうかを示すコード。 仕入先が課税対象である場合にのみ、品目に対する税が計算されます。

レート定義の設定

レート定義ではレートの基本的な情報を指定します。レート定義には次の情報が含まれます。

- 料金コード
- 料金計算
- 検索定義

レートを設定する場合は、まず請求運賃か支払運賃か、またはその両方であるかを決めます。レートは請求か支払、またはその両方を指定できます。これにより、運賃が顧客への請求、運送業者への支払、あるいはその両方であるかが確定されます。

各レートには、計算を定義するレート・タイプがあります。選択したレート(一定金額、単価、配送経路内に保管、配分金額、または外部ビジネス関数)に応じて、レートの基準に関する情報、計量単位に関する情報、およびレートを適用するレベルに関する情報を入力します。レートには割引を適用することもできます。

変数を 2 つ使って料金を計算する場合、検索定義についての情報を入力します。検索情報は、設定したテーブルを使ってレートを計算する変数定義から構成されます。

レートには追加情報を設定できます。追加情報には、別のレートと関係する変数の使用、レートへの条件の適用、または異なる住所番号に対して複数の停止地点を持つ出荷のレートの配分などがあります。

▶ レート定義を設定するには

〈レートの設定〉メニュー(G49412)から〈レート定義の処理〉を選びます。

1. 〈レート定義の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈レート定義の改訂 - 基本〉で、次のフィールドに値を入力します。

- レート名
- 運賃タイプ
- レート基準
- レート単位
- レート・レベル
- 明細レベル
- 検索タイプ 1
検索タイプ 1 には 25 カラムしか使用できません。
- 単位
- 件数
- 検索タイプ 2
- 単位
- 件数
- レート構造
- オプション/設備
- 事業所

3. 次のうち必要なオプションを選択します。

- 支払
- 請求
- 割引-最小
- 割引の適用
- 低減レート

さらに、複雑なレートを設定する場合は、〈レート定義の改訂(上級)〉を使用してレートの追加情報を定義できます。

4. [フォーム]メニューから[上級]を選択します。

5. 〈レート定義の改訂 - 上級〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 比例配分料金コード
- 比例配分基準
- 関数名
- 変数
- 条件付きレート名
- レート基準除数
- 丸め規則

6. 次のオプションを選び、[OK]をクリックします。

- 出荷レベル支払

7. 〈レート定義の改訂 - 基本〉で[OK]をクリックします。

レートを定義した後、それぞれの検索に適用する検索タイプの変数を設定します。検索タイプの変数を設定した後、料金表で実際の値を設定します。

参照

- 『輸送管理』ガイドの「検索タイプの設定」
- 『輸送管理』ガイドの「料金表の設定」

フィールド記述

記述	用語解説
レート名	運賃の定義および計算に使用されるレート名
運賃タイプ	テーブルで指定されたレートのタイプ。たとえば、均一料金やパーセントなどです。
レート基準	レート計算に使用される基準
レート単位	レートに適用する計量単位。たとえば、レートの計量単位がトンの場合、金額 = 重量(トン) × レートとなります。
レート・レベル	レートが出荷全体と個別の荷物のどちらに適用されるのかを示すフラグ。レートの出荷への適用方法により、全体の運賃、個別レベルまたは明細レベル(出荷全体/個別レベルの組合せでレートが設定される)のいずれかでレートが追加されます。また、このフィールドでは積荷のレート対出荷のレートも示されます。

明細レベル	<p>料金が出荷明細レベルで適用される際にレートを確定する出荷明細フィールドを識別するフラグ。</p> <p>次のいずれか1つのフィールドを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 貨物分類コード ○ 配送手配グループ ○ 貨物分類 1 ○ 貨物分類 2
検索タイプ 1	レート表の料金の検索に使用するフィールド。重量または容積など。
単位	EA(個)、KG(キログラム)など、品目数量の計量単位を識別するユーザー定義コード(00/UM)。
件数	レート表の件数。
レート構造	このレートに関連するレート構造の名称。
オプション/設備	出荷に関連する、あるいは出荷に必要な、ユーザー定義のオプションまたは設備。
事業所	品目と原価をトラッキングする業務の実体を個別に識別するコード。この実体は、倉庫の所在地、作業、プロジェクト、作業場、事業所などです。事業所フィールドには、英数字を入力します。
支払	<p>イベントの処理タイプを示すオプション。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>該当するボックスをチェックして、支払か請求、またはその両方のいずれかを指定してください。</p> <p>このオプションはその料金を得意先に請求するのか、運送費の一部として運送業者に支払うのか、またその組合せであるかを示します。</p>
請求	<p>イベントの処理タイプを示すオプション。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>該当するボックスをチェックして、支払か請求、またはその両方のいずれかを指定してください。</p> <p>このオプションはその料金を得意先に請求するのか、運送費の一部として運送業者に支払うのか、またその組合せであるかを示します。</p>
割引-最小	"Y"または"1"は、最低料金にも割引が適用されることを示します。
割引の適用	料金に割引が適用されることを示します。
低減レート	料金計算時に低減レートが使用されることを示します。
比例配分料金コード	比例配分に含む料金を定義するユーザー定義コード

比例配分基準	料金が比例配分される基準。重量または容量によって算出されます。
関数名	レートを取り込むビジネス関数。レートタイプが“5”の場合は、運賃が取り込まれ、他のレート情報はすべて無視されます。レートタイプが“5”以外の場合は、レート明細テーブル以外からレートが取り込まれます。
変数	運賃レートが変数名で入力されていることを示すフィールド
条件付きレート名	条件付きレート名を入力する場合、このレートを反映するには指定したレート名を使用する必要があります。
レート基準除数	レート基準の除数を指定すると、レート基準の除数でレート基準が除算され、その後レートで乗算されます。 たとえば、レート基準が出荷地で除数が 100 の場合、値は 100 で除算され、その後レートが掛け合わせられます。
丸め規則	金額の丸めが実行される方法を指定するフィールド。 レート基準除数と連携してのみ使用されます。 次の丸め規則のうち 1 つを選択することができます。 <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 督促状の金額の小数点以下を四捨する <input type="radio"/> 督促状の金額の小数点以下を切り捨てる <input type="radio"/> 督促状の金額の小数点以下を五入する
出荷レベル支払	支払料金を積荷レベルではなく出荷または配送レベルで計算するよう指定するフラグ。

検索タイプの設定

レートの計算に変数を 2 つ使う必要がある場合は、それぞれの変数の定義を設定してください。値を入力する前に検索タイプまたは変数を指定します。最初の検索タイプは、重量、距離、区域、または個数など、検索テーブル(49/BM)で定義された要素の数に基づきます。次に検索タイプのエントリ数を指定します。2 番目の検索タイプには、検索タイプ・テーブル(49/BM)で定義したタイプとエントリ数を指定します。検索タイプを定義するとテーブルにエントリが作成されます。テーブルでは各ポイントで数値を指定します。

たとえば、運送業者区域と重量に基づいてレートを設定する場合を想定します。最初の検索タイプはそれぞれの区域を定義します。2 番目の検索タイプは、レートが決定される異なる重量を定義します。2 つの検索タイプを定義したら、テーブルに数値を入力します。区域 2 に 3 ポンドの出荷がある場合、条件に一致するパッケージの正確な運賃を検索するためにテーブルが使用されます。

注:

アメリカの LTL 輸送のレート方式では、不足重量レートと検索レートを設定できます。不足重量レートを使用するには、レート・レベルを詳細、レート基準を重量、詳細レベルを NMFC、最初の検索タイプを重量にしてください。

参照

- レートの数値を入力する方法については、『輸送管理』ガイドの「料金表の設定」

▶ 検索タイプを設定するには

〈レートの設定〉メニュー(G49412)から〈レート定義の処理〉を選びます。

1. 〈レート定義の処理〉で、検索タイプを設定するレートを選んで[選択]をクリックします。
2. 〈レート定義の改訂 - 基本〉で、[フォーム]メニューから[検索タイプ 1]を選びます。
3. 〈検索タイプの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - ラベル
 - 検索値 - 開始データ辞書
 - 検索値 - 終了データ辞書
4. [OK]をクリックします。
5. 〈レート定義の改訂 - 基本〉で、[フォーム]メニューから[検索タイプ 2]を選びます。
6. 〈検索タイプの改訂〉で、手順 3 から 4 までを繰り返します。
7. 〈レート定義の改訂 - 基本〉で[OK]をクリックします。

検索タイプの変数を設定した後、料金表で実際の値を設定します。

フィールド記述

記述	用語解説
ラベル	運賃テーブルの特定のレベル区切りに関連する記述
検索値 - 開始データ辞書	範囲内の最低値
検索値 - 終了データ辞書	範囲内の最高値

料金表の設定

レートと検索タイプの変数を定義した後、料金表に実際の値を設定します。実際の金額は、ユーザーが検索テーブルで定義した値とポイントに従って設定されます。システムでは料金表に基づいて適切なレートが確定されます。

輸送管理システムでは、外部のレート設定プログラムからレートを取り込むことができます。料金表を取り込むために指定したメニュー・オプションのプログラムが呼び出され、これらの料金表が定義した料金表に入力されます。

料金表に適用するレートを決定するには、料金表の階層が使用されます。料金表では、出荷元に基づいて配送経路が選択されます。支払料金の階層は次のようになります。

1. 運送業者、運送業者通貨コード、および特定の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。
2. 何も情報が検出されない場合は、運送業者、国内通貨コード、特定の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。
3. 何も情報が検出されない場合は、任意の運送業者、国内通貨コード、特定の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。
4. 何も情報が検出されない場合は、運送業者、運送業者通貨コード、および任意の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。
5. 何も情報が検出されない場合は、運送業者、国内通貨コード、および任意の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。
6. 何も情報が検出されない場合は、任意の運送業者、通貨コード、任意の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。

料金表に適用するレートを決定するには、料金表の階層が使用されます。料金表では、出荷元に基づいて配送経路が選択されます。支払料金の階層は次のようになります。

7. 出荷先住所、顧客の通貨コード、および特定の出荷元にそれぞれ一致する運賃明細が使用されます。
8. 何も情報が検出されない場合は、出荷先住所、国内通貨コード、特定の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。
9. 何も情報が検出されない場合は、任意の出荷先住所、国内通貨コード、および特定の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。
10. 何も情報が検出されない場合は、出荷先住所、顧客通貨コード、任意の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。
11. 何も情報が検出されない場合は、出荷先住所、国内通貨コード、任意の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。
12. 何も情報が検出されない場合は、出荷先住所、通貨コード、任意の出荷元に一致する運賃明細が使用されます。

▶ 料金表を設定するには

〈レートの設定〉メニュー(G49412)から〈レート定義の処理〉を選びます。

1. 〈レート定義の処理〉で、料金表を設定するレートを検索して選びます。
2. [ロー]メニューから[レート]を選びます。
3. 〈レート定義の処理〉で、[追加]をクリックします。
4. 〈レート明細の改訂〉で、定義済みのフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

付帯料金の設定

付帯料金とは既存料金の他に発生する料金です。これらの追加料金は、品目の輸送、出荷に必要なオプション、または品目の特殊取扱料金に適用されます。付帯料金は、通常の料金と同じように設定できます。たとえば、均一料金または検索レートを設定できます。レートの評価時に、出荷または積荷にオプションまたは設備が適用される場合に限り、料金が計算されます。

レートの定義でオプション/設備を指定して、付帯料金を設定します。

▶ 付帯料金を設定するには

〈レートの設定〉メニュー(G49412)から〈レート定義の処理〉を選びます。

1. 〈レート定義の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈レート定義の改訂 - 基本〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - レート名
 - 運賃タイプ
 - レート基準
 - レート単位
 - レート・レベル
 - 明細レベル
 - 検索タイプ 1
 - 単位
 - 件数

- 検索タイプ 2
 - 単位
 - 件数
 - レート構造
 - オプション/設備
 - 事業所
3. 次のオプションのいずれかを選択して[OK]をクリックします。
- 支払
 - 請求
 - 割引-最小
 - 割引の適用
 - 低減レート

レート・パラメータの設定

レート・パラメータにより、レート設定時に運送業者またはシステムが料金にアクセスする方法を詳しく定義することができます。たとえば、レート・パラメータを使用して、最低料金、基本料金、規格外サイズの仕様とその料金、その他特定の運送業者やレート名についての情報を指定できます。

▶ レート・パラメータを設定するには

〈レートの設定〉メニュー(G49412)から〈レート・パラメータの処理〉を選びます。

1. 〈レート・パラメータの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈レート・パラメータの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 運送業者 No.
 - レート名
 - 基本料金
 - 割引%
 - 通貨コード
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付
 - 最低料金
 - 最高料金

- 貨物 1 個当たりの最低料金
- 貨物 1 個当たり料金用最低重量
- 規格外サイズ最低料金
- 規格外サイズ料金用最低重量
- 重量計量単位
- 長さ
- 幅
- 高さ
- 周囲
- 長さ + 周囲寸法
- 計量単位

フィールド記述

記述	用語解説
運送業者 No.	出荷または出荷の一部の輸送担当に割り当てられた運送業者。これは、一般の運送業者または自社の運送部門を指します。
レート名	運賃の定義および計算に使用されるレート名
基本料金	レートの基本料金。この金額は、計算した料金に加算されます。
割引%	レートの割引率(パーセント)
通貨コード	取引通貨を識別するコード。
有効開始日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
有効終了日付	取引(トランザクション)、テキスト・メッセージ、契約、債務、優先情報の有効期限が終了した日付
最低料金	レートの最低料金。計算した料金が最低料金より安い場合、最低料金が使用されます。
最高料金	レートの最高料金。計算した料金が最高料金より高い場合、最高料金が使用されます。
貨物 1 個当たりの最低料金	貨物 1 個あたりの最低料金。
貨物 1 個当たり料金用最低重量	貨物一個の料金を決定するための最低重量。貨物の実際重量がこの最低重量より軽い場合、この重量が料金決定に使用されます。
規格外サイズ最低料金	規格外サイズの出荷貨物、箱、コンテナに対する最低料金。

規格外サイズ料金用最低重量 規格外サイズの出荷貨物、箱、コンテナに対する料金を確定するのに使用される最低重量。規格外サイズの出荷貨物、箱、コンテナの実際重量が、規格外サイズ料金最低重量よりも軽い場合、規格外サイズ料金最低重量が料金の確定に使用されます。

重量計量単位 個別品目の重量を示すために使用される単位。
代表的な重量の単位は次のとおりです。

GM グラム
OZ オンス
LB ポンド
KG キログラム
CW 100 ポンド
TN トン

重量単位に対するユーザー定義コード設定時に、ユーザー定義コードの特殊取扱コードに、“W”を指定してください。

長さ 出荷貨物、箱、コンテナが規格外サイズとみなされる長さ。

幅 出荷貨物、箱、コンテナが規格外サイズとみなされる幅。

高さ 出荷貨物、箱、コンテナが規格外サイズとみなされる高さ。

周囲 出荷貨物、箱またはコンテナが規格外サイズとみなされる周囲寸法。

長さ + 周囲寸法 出荷貨物、箱、コンテナが規格外サイズとみなされる、長さ + 周囲寸法。

計量単位 車両の幅、高さ、または長さの計量単位。

レート表の設定

レートを設定したら、レート表にレートを割り当てることができます。レート表には、運賃を計算するときのレート名や定義が含まれます。また、適切な運賃を計算するときに行うレート計算がすべて含まれています。通常、基本輸送料金とすべての付帯料金が含まれます。運賃の計算時には、各レートがレート表で指定された順序に従って評価されます。

レート表中のレート名は固有のものにしてください。レート表では同じレート名を使用することはできません。レート表には、レート名の代わりに、別のレート表名を入れることもできます。この場合は、参照されるレート表からのレート名すべてが使用され、これらのレート名は定義しているレート表に存在するかのように扱われます。あるレート表に別のレート表を入れる場合は、1 レベルだけに限られます。

1 つのレート表に複数のレート定義を指定すると、運賃の合計は、個々のレート定義について計算した料金の合計になります。ただし、置換レートは例外になります。

レート表を設定したら、配送経路にレート表を割り当てます。各配送経路には、出荷または積荷の支払運賃を計算するときのレート表の名前が組み込まれます。また、顧客の優先情報で別のレート表が指定されていない限り、請求運賃は同じレート表を使用して計算されます。

レートには請求か支払、またはその両方を指定できます。料金を割り当てると、対応する勘定科目が更新されます。

レート表の設定が終わったら、置換レートを割り当てます。置換レートでは 2 番目またはそのレート表の代替レートが設定されます。置換レートによって、最初のレートより 2 番目のレートが上回る場合または下回る場合に、最初のレートの代わりに、2 番目のレートとなる代替レートが使用されるようになります。上回る値と下回る値のどちらをレート表に使用するかを指定してください。

たとえば、緩衝包装の積荷をトラック輸送する場合、重量に基づく最初のレートでは緩衝包装が軽すぎるため、トラックを満載にした運賃には達しません。ただし、出荷の容量を反映した置換レートの方が重量の値を上回れば、この置換レートを適用できます。これにより、運賃は緩衝包装の製品を出荷する合計原価を正確に反映するようになります。

はじめる前に

- レートを設定します。『輸送管理』ガイドの「レートと定義の設定」を参照してください。

▶ レート表を設定するには

〈レートの設定〉メニュー(G49412)から〈レート表の処理〉を選びます。

1. 〈レート表の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈レート表の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - レート表
 - 順序 No.
 - レート名
 - 運賃レート表

3. 置換レートを設定するには、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 置換タイプ

フィールド記述

記述	用語解説
レート表	出荷に適用される運賃レートとその他料金の表。
順序 No.	OneWorld では、有効な環境が表示される順番をユーザーが設定する順序です。 World では、ユーザーが定義する順番でレコードを処理する際に使用される順序またはソート番号です。
レート名	運賃の定義および計算に使用されるレート名。
運賃レート表	出荷に適用される運賃およびその他の料金の表。
置換タイプ	料金を別の料金に置き換えるために必要な値。有効な値は次のとおりです。 1 料金は常にゼロ以外の値となる < 別料金より低い場合のみ置き換えられる > 別料金より高い場合のみ置き換えられる

レートの更新

運送業者は、運送する商品のレートを定期的に高く設定したり低く設定したりします。自社に輸送部門がある場合は、輸送費が月によって変わることがあります。これらの変化に備えて、システムのレート表を更新する必要があります。料金表を更新するには2つのプログラムがあります。

〈レート更新のバッチ処理〉プログラム(R4972)を使用して、特定のレート定義に対応するレートを変更したり、複数のレートを同時に変更したりできます。特定の配送経路のレートを変更するには、〈配送経路レート更新バッチ処理〉プログラム(R4950)を使用します。

複数のレートの更新

〈レートの設定〉メニュー(G49412)から〈レート更新のバッチ処理〉を選びます。

複数のレートは同時に更新できます。料金表を更新することでコストの増加を見積もることもできます。金額、一時変更の金額、またはパーセントを入力して、レートを調整することもできます。

処理オプションを使用すると、更新したレートが有効となる日付を指定できます。また、現行のレートの失効日付が、調整したレートの有効日付の前日に更新されます。たとえば、運送業者 A の土曜日配送の均一料金を設定してあるとします。運送業者 A が土曜日の配送レートを 2005 年 1 月 1 日より値上げすると通告してきました。レートを更新する際、現在のレートの有効期限は 2004 年 12 月 31 日に、新レートの施行日は 2005 年 1 月 1 日となります。

〈レート更新のバッチ処理〉プログラム(R4972)では、レート明細テーブル(F4972)のレートだけが更新されます。配送経路のレートを更新する場合は、〈配送経路レート更新バッチ処理〉プログラム(R4950)を使用します。

処理オプション:レートの更新バッチ処理(P4972)

処理

1. 運賃明細テーブル(F4972)を更新するには“1”を入力してください。このフィールドが空白の場合、選択した基準に対する新規レコードが追加されます。

2. レート調整タイプを入力してください。

¥ - 金額によりレートを調整

% - パーセントによりレートを調整

* - 一時変更レートにレートを調整

3. レートの調整に使用する金額を入力してください。

¥(金額)の調整:レートを10増加させるには“10”を入力し、10減少させるには“-10”を入力します。

%(パーセント)調整:レートをレートを10%増加させるには“10”を入力し、10%減少させるには“-10”を入力します。

*(一時変更レート)の調整:10にレートを変更するには10を入力します。

4. 新規の運賃明細レコードの有効日付を入力してください。この日付より1日減算した日付が、既存のレコードの「失効日付」に置換されます。

5. 新規の運賃明細レコードの失効日付を入力してください。

配送経路レートの更新

〈レートの設定〉メニュー(G49412)から〈配送経路レート更新バッチ処理〉を選びます。

〈配送経路レートの更新バッチ処理〉プログラム(R4950)を使用して、特定の配送経路の入力に割り当てる複数のレートを同時に更新できます。料金表を調整することで費用の増加を見積もることもできます。金額、一時変更の金額、またはパーセントを入力して、レートを調整することもできます。

処理オプションを使用すると、更新したレートが有効となる日付を指定できます。また、現行のレートの失効日付が、調整したレートの有効日付の前日に更新されます。たとえば、運送業者Aの土曜日の配送の均一料金を設定してあるとします。運送業者Aが土曜日の配送レートを2005年1月1日より値上げすると通告してきました。レートを更新する際、現在のレートの有効期限は2004年12月31日に、新レートの施行日は2005年1月1日となります。

処理オプション: 配送経路レートの更新バッチ処理(P4950)

処理タブ

配送経路の更新方法を指定します。

1. 配送経路の入力テーブルを更新するには“1”を入力してください。このフィールドが空白の場合、選択した基準に対する新規レコードが追加されます。

出荷リストに適用されるデフォルトのソート順序コード(UDC 49/SB)を指定します。

2. アウトバウンド・レート調整タイプを入力してください。

¥ - 金額によりレートを調整

% - パーセントによりレートを調整

* - 一時変更レートにレートを調整

出荷リストに適用されるデフォルトのソート順序コード(UDC 49/SB)を指定します。

3. インバウンド・レート調整タイプを入力してください。

¥ - 金額によりレートを調整

% - パーセントによりレートを調整

* - 一時変更レートにレートを調整

4. レート調整に使用するアウトバウンド金額を入力してください。

¥(金額)調整: “10”と入力するとレートが 10 増加、“-10”と入力するとレートが 10 減少

% (パーセント)調整: “10”と入力すると率が 10%増加、“-10”と入力すると率が 10%減少

* (レートの一時変更)調整: “10”と入力するとレートが 10 に変化

出荷リストに適用されるデフォルトのソート順序コード(UDC 49/SB)を指定します。

5. レート調整に使用するインバウンド金額を入力してください。

¥(金額)調整: “10”と入力するとレートが 10 増加、“-10”と入力するとレートが 10 減少

% (パーセント)調整: “10”と入力すると率が 10%増加、“-10”と入力すると率が 10%減少

* (レートの一時変更)調整: “10”と入力するとレートが 10 に変化

6. 新規の配送経路入力レコードを作成するための有効日付を入力してください。この日付から 1 日減算した日付が既存レコードの失効日付に置換されます

出荷リストに適用されるデフォルトのソート順序コード(UDC 49/SB)を指定します。

7. 新規の配送経路入力レコードを作成するための失効日付を入力してください

出荷リストに適用されるデフォルトのソート順序コード(UDC 49/SB)を指定します。

配送経路の設定

輸送管理システムでは、配送経路は重要な要素です。配送経路を入力すると、出荷の辿る経路が特定されます。特定の配送経路に基づいて、出荷コストを定義することができます。この場合は、配送経路にレート表を割り当てます。配送経路とレートは、すべての出荷および積荷に対して割り当てます。配送経路とレートはシステム・セットアップ時に設定する必要がありますが、必要に応じていつでも変更できます。また、運送業者や自社の輸送部門に対しても設定できます。さらに、配送経路をユーザーが選択することも、システムに自動選択させることもできます。

配送経路の設定とは、システムが運送業者と輸送モードを選択し、出荷または積荷のレートを設定する処理のことです。特定の配送経路を作成して、運送業者や自社の輸送部門が輸送を担当する出荷元と出荷先を定義します。出荷または積荷の条件に応じて配送経路を検索するために、次のような検索基準が使用されます。

配送経路階層	配送経路入力テーブル(F4950)から出荷先情報を検索する方法が確定される階層。配送経路階層の順序は指定できますが、通常は特定の配送先から一般的な配送先へと検索されます。
配送経路制約	配送経路入力に指定する重量、容量、品目数といった制限。
オプションおよび設備規則	配送経路、輸送モード、または運送業者によってサポートされるオプションや設備、あるいはその両方がリストされます。
環境設定	「輸送モード」または「運送業者」の優先情報を設定する場合、配送経路がこのどちらか、またはその両方に対応している必要があります。
配送日付の条件	配送経路が選択される基となる日付。作業日カレンダーの休日や週末などの休業日を考慮した上で、出荷日付に積送日数を加算して計算されます。

検索レベルが詳細になるに従って、出荷や積荷に適合しない配送経路が除外されていきます。顧客優先情報で設定されている配送経路の選択タイプ別に利用可能な配送経路が検索されます。顧客優先情報には、最低コスト、最適な配送時刻、最高の配送パフォーマンス、またはこの3つの組合せがあります。

配送経路が選択され、出荷に割り当てられると、配送経路のレート情報に従って支払運賃と請求運賃が計算されます。

購買オーダーまたは受注オーダーを作成する場合は、配送経路を設定することにより、出荷の料金が決まります。ビジネス・プロセスに基づいて、特にインバウンド出荷に使用するレートやレート表を設定できます。ただし、インバウンド出荷に特定のレートを設定する必要はありません。

アウトバウンド出荷と同様に、インバウンド出荷を入力すると、オーダーに入力する運送業者または輸送モードが割り当てられます。配送経路を手入力しない場合は、優先運送業者および配送経路情報の「顧客」優先情報が使用されます。「顧客」優先情報が定義されていない場合は、配送経路テーブルを使用してインバウンド出荷の配送経路とレートが設定されます。運賃品目が回収である場合は、インバウンド出荷はレートのみが設定されます。

配送経路の設定

配送経路とは、出荷を顧客に配送する際のルートです。配送経路を設定する際に、出荷元または出荷先、利用可能な輸送モードや運送業者を定義します。また、レート表も割り当てる必要があります。

購買オーダーや返品オーダーなどのインバウンド出荷の場合、配送経路は出荷を仕入先から配送する際のルートになることがあります。インバウンド出荷は、ある出荷元(購買オーダーの場合は仕入先)からある出荷先(購買者)への製品の移動として定義します。出荷の送信トランザクションと受信トランザクションの違いは出荷元と出荷先だけなので、インバウンド出荷とアウトバウンド出荷に同じ方式を使用して配送経路を定義できます。

配送経路の入力時には、運送業者や自社の輸送部門が輸送を担当する出荷元と出荷先を定義します。また、出荷または積荷について特定の出荷元と出荷先の組合せに運送業者番号と輸送モードを指定することもできます。その他、特定の配送経路を使用するときには常に、料金設定時の運賃計算に適用する情報も指定できます。

はじめる前に

- 運送業者マスター(F4906)と〈住所録〉(P01012)に運送業者を設定してください。『輸送管理』ガイドの「運送業者マスター情報の設定」を参照してください。
- レート定義とレート表を設定してください。『輸送管理』ガイドの「レートと定義の設定」を参照してください。

配送経路階層の設定

配送経路階層により、配送経路入力テーブル(F4950)から出荷先情報を検索する方法が確定します。このテーブルで検索された情報に従って、個々の出荷や積荷の配送経路が検索されます。

はじめる前に

- 配送経路規則ユーザー定義コード(49/CL)を設定します。『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

▶ 配送経路階層を設定するには

〈配送経路の設定〉メニュー(G49411)から〈配送経路の処理〉を選びます。

1. 〈配送経路の処理〉で、[フォーム]メニューから[経路階層]を選びます。
2. 〈配送経路階層の改訂〉で、グリッドの情報を検討します。
3. 値を追加するには、最初のブランクのローの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 経路規則
 - 順序 No.

配送経路入力の設定

運送業者、輸送モード、または自社の輸送部門ごとに配送経路を設定します。これらの配送経路を使用して、出荷や積荷の配送経路とレートが決定されます。配送経路は配送経路入力テーブル(F4950)に保管され、次の情報が含まれている必要があります。

- 出荷元
- 出荷先
- 運送業者
- 輸送モード
- レート表

注:

配送経路の出荷元を定義するときに、出荷元、出荷元の事業所、または出荷元の郵便番号と国コードを選択できます。1つの配送経路に複数の項目を定義すると、エラー・メッセージが表示されます。ビジネスユニット・マスター(F0006)には、出荷元デポの住所番号が必要です。この情報がないと、出荷元または出荷元の郵便番号別に設定した出荷や配送経路が機能しません。配送経路に国コードを使用する場合は、出荷または積荷について住所録レコードの出荷先住所に国コードを指定する必要があります。

出荷元を定義した後は、出荷先の郵便番号を定義します。

運送業者と輸送モードの同一の組合せに対しては、複数の配送経路を選択できません。たとえば、同じ輸送モードに2つの経路を使用して、両方とも出荷元と出荷先にサービスを提供する場合、配送経路階層に従って、より具体的な配送経路が採用されます。また、配送経路階層により、出荷先情報を基に配送経路の検索方法が決められます。出荷先は、住所番号、配送経路、運送業者区域、市町村、都道府県、国など、さまざまな基準で定義できます。

配送経路が選択されると、レート表がレート設定のテーブルにリンクされ、レートが検索されます。そして、請求料金と支払料金が計算されます。

ビジネス関数を使用してユーザー定義プログラムを作成し、約束配送日付の計算、制約の追加、ユーザー定義タスクの実行を行ったり、または特定の運送業者に出荷を依頼できるかを判断します。

既存の配送経路をコピーして新しい配送経路を作成できます。

▶ 配送経路を設定するには

〈配送経路の設定〉メニュー(G49411)から〈配送経路の処理〉を選びます。

1. 〈配送経路の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈配送経路の改訂〉で、出荷先を入力するには、配送経路階層の設定に応じて次のフィールドに値を入力します。
 - 出荷先郵便番号
 - 経路コード

- 運送業者区域
 - 区域

このフィールドに*(アスタリスク)を入力すると、すべての出荷先の配送経路が検索されます。
 - 国
 - 市
 - 郡
 - 都道府県
 - 出荷先住所 No.
 - 出荷元 No.
 - 出荷元国

出荷元の国を入力する場合は、出荷元の郵便番号も入力してください。
 - 出荷元郵便番号
 - 配送経路 No.
3. アウトバウンドまたはインバウンドの配送経路のレート表を入力するには、次のフィールドに値を入力します。
 - アウトバウンド・レート表
 - インバウンド・レート表
 4. 特定の開始日付と失効日付を持つ新しい配送経路を入力するには、次のフィールドに値を入力します。
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付

これらの日付フィールドは、既存の運送業者に新しい配送経路を作成する際に役立ちます。
 5. 出荷の作成時に配送経路を自動的に選択しないようにするには、次のフィールドに値を入力します。
 - 経路選択
 6. ある配送経路に含まれるレートのレート定義情報を入力するには、次のフィールドに値を入力します。
 - 運賃タイプ

運賃タイプには単位料金または固定料金のみを設定できます。

- レート基準
 - レート単位
7. アウトバウンドおよびインバウンドの配送経路の運賃に関するレート情報を入力するには、次のフィールドに値を入力します。
- アウトバウンド運賃レート
 - インバウンド運賃レート
8. ある配送経路に対する運送業者を検索する方法を決定するには、次のうち必要なフィールドに値を入力します。
- リードタイム日数
 - 輸送日数
 - 成績評価
9. 税情報の入力、または運送業者の税情報を一時変更するには、次のフィールドに値を入力します。
- 課税対象
 - 税率/税域
 - 税目コード
10. 配送経路に追加情報を入力するには、次の任意フィールドに値を入力します。
- 運送業者 No.
 - 標準運送業者記述コード
 - 輸送モード
 - 通貨コード
 - 距離
 - 単位
 - 事業所
 - 関数名
 - 出荷デポ
 - 契約 No.
11. 次のフィールドに値を入力して複合輸送配送経路の親配送経路を設定します。
- 親経路
- [親経路]フィールドに“1”を入力して、この経路が親配送経路であることを指定します。

12. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
出荷先郵便番号	米国の郵便番号、または郵送先を示す郵便コード。国際郵便の際、宛先にこのコードを添付します。このコードは、郵便番号トランザクション範囲の処理で終了値として使用されます。
出荷先住所 No.	オーダーの出荷先の住所番号。住所録は、番地、町名、市町村、都道府県、郵便番号、国名などの得意先住所のデフォルト値を提供します。
経路コード	<p>経路フィールドは、得意先までの配送経路を表すユーザー定義コード(42/RT)です。このフィールドは、運賃の集計に使用されるフィールドの1つで、オーダーに含まれる予定の運賃を計算します。</p> <p>ピッキングでは、経路コードを中継点コードと区域コードとともに使用して、経路が指定された配送車両に積載するすべての品目をグループにまとめます。</p> <p>これらのフィールドの各デフォルト値は〈得意先請求指示〉で設定します。</p>
区域	<p>得意先の所在地である配送区域を表すユーザー定義コード(40/ZN)。このフィールドは運賃の集計に使用されるフィールドの1つで、オーダーに含まれる予定の運賃を計算します。</p> <p>ピッキングでは、経路コードを中継点コードと区域コードとともに使用して、経路が指定されている配送車両に積載するすべての品目をグループにまとめます。</p> <p>これらのフィールドの各デフォルト値は〈得意先請求指示〉で設定します。</p>
国	国を識別するユーザー定義コード(00/CN)。国コードは通貨換算には影響しません。住所録システムでは、データ選択および住所フォーマットに使用されます。
郡	住所または税務申告のために必要な郡、自治区、またはその他の行政上の区域の名称。
都道府県	都道府県を指定するユーザー定義コード(00/S)。通常は郵便で使用される略語がコードになります。
出荷先住所 No.	オーダーの出荷先の住所番号。住所録は、番地、町名、市町村、都道府県、郵便番号、国名などの得意先住所のデフォルト値を提供します。
運送業者区域	運送業者が特定の区域を識別するのに使用するID。たとえば、“ZONE-21”というIDで小荷物運送業者が特定の郵便番号区域に配送する際の運賃を指定することができます。
アウトバウンド・レート表	出荷に適用される運賃レートとその他料金の表。
運送業者 No.	出荷または出荷の一部の輸送担当に割り当てられた運送業者。これは、一般の運送業者または自社の運送部門を指します。

配送経路制約の設定

配送経路に対して最大サイズ、重量、容量、最大経由点数、および最大数量などの配送経路制約を定義できます。制約を定義する場合は、次の基準を使用する必要があります。

- 輸送モード
- 運送業者
- 輸送モードと運送業者

指定の制約に反しない場合のみ、出荷または積荷の配送経路が選択されます。たとえば、ある出荷先までの道路に最大重量制限がある橋がかかっている場合、この出荷先に向かう車両の最大重量を入力しておき、この制約に違反しない配送経路を選択する必要があります。

▶ 配送経路制約を設定するには

〈配送経路の設定〉メニュー(G49411)から〈配送経路制約の処理〉を選びます。

1. 〈配送経路制約の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈配送経路制約の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 運送業者 No.
 - 輸送モード
 - 単位
 - 最小
 - 最大
 - 1個当り最小重量
 - 1個当り最大重量
 - 計量単位
 - 最小
 - 最大
 - 最大中継点数
 - 最大個数
 - 計量単位
 - 最長の長さ
 - 最大幅
 - 最大の高さ
 - 最長の長さ+周囲寸法
 - 最大周囲寸法

フィールド記述

記述	用語解説
単位	<p>個別品目の重量を示すために使用される単位。 代表的な重量の単位は次のとおりです。</p> <p>GM グラム OZ オンス LB ポンド KG キログラム CW 100 ポンド TN トン</p> <p>重量単位に対するユーザー定義コード設定時に、ユーザー定義コードの特殊取扱コードに、“W”を指定してください。</p>
最小	出荷の最低重量。
最大	出荷の最大重量。
1個当り最小重量	出荷貨物の最小重量。
1個当り最大重量	出荷貨物の最大重量。
最小	出荷の最小容積。
計量単位	<p>在庫品目の容量の計量単位を示します。 代表的な容量単位は次のとおりです。</p> <p>ML ミリリットル CF 立方フィート CY 立方ヤード CM 立方メートル PT パイント LY リットル</p> <p>容量単位ユーザー定義コード設定時に、ユーザー定義コードの特殊取扱コードを“V”と指定してください。</p>
最大	出荷の最大容積。
最大中継点数	配送中の最大中継点数。
最大個数	出荷貨物の最大個数。
計量単位	車両の幅、高さ、または長さの計量単位。
最長の長さ	出荷の最大長さ。
最大幅	出荷の最大幅。
最大の高さ	出荷の最大高さ。

最長の長さ+周囲寸法	出荷の最大周囲寸法+出荷貨物の長さ。
------------	--------------------

最大周囲寸法	出荷の最大周囲寸法。
--------	------------

運送業者区域の設定

運送業者区域とは、定義済みの地域です。通常は、複数の郵便番号が含まれており、利便性と経費節減のために1つにまとめられています。〈運送業者区域の定義〉プログラム(P4951)を使用して運送業者区域を設定し、配送経路入力の出荷先情報を管理します。区域は出荷元ごとに設定します。出荷または積荷の配送経路を設定する際は、出荷先情報を使用して運送業者区域が選択されます。運送業者区域を設定すると、次のタスクを実行できます。

- 料金表と統合してレートを計算する
- 出荷先に基づいて配送経路を選択する
- 配送経路の数を減らす

運送業者区域を設定しておけば、同じ配送経路で複数の場所に配送する場合に、配送経路を何度も入力しなくて済みます。出荷のレートを設定する際には、運送業者区域を参照値として使用できます。

▶ 運送業者区域を設定するには

〈配送経路の設定〉メニュー(G49411)から〈運送業者区域の処理〉を選びます。

1. 〈運送業者区域の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈運送業者区域の改訂〉で、グリッドの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 開始郵便番号
 - 終了郵便番号
 - 市
 - 都道府県
 - 国
 - 郡
 - 出荷元 No.
 - 運送業者区域

フィールド記述

記述	用語解説
開始郵便番号	郵便番号範囲内の開始郵便番号
終了郵便番号	郵便番号範囲内の終了郵便番号

オプションおよび設備規則の設定

オプションおよび設備規則とは、特定の配送経路、運送業者、または輸送モードに関する特別な要件です。使用できる配送経路が出荷または積荷の配送経路設定時に選択されると、該当する出荷に必要なオプションまたは設備ごとに組込規則と除外規則が検索されます。まず、配送経路レベルで組込/除外規則が検索されます。このレベルで見つからない場合は、運送業者レベルで規則が検索されます。このレベルでも見つからない場合は、輸送モード・レベルで規則が検索されます。この配送経路を除外する規則が見つかった場合は、この配送経路は選択されません。

▶ オプションおよび設備規則を設定するには

〈配送経路の設定〉メニュー(G49411)から〈オプションおよび設備規則の処理〉を選びます。

1. 〈オプションおよび設備組込/除外規則の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈オプションと設備組込/除外の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して [OK]をクリックします。
 - オプション/設備
 - 組込/除外
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付
 - 出荷デポ

フィールド記述

記述	用語解説
オプション/設備	出荷に関連する、あるいは出荷に必要な、ユーザー定義のオプションまたは設備
組込/除外	組込/除外フラグ。有効な値は次のとおりです。 Y = 組み込む N = 除外する Y の代わりに“1”を、N の代わりに“0”を入力することもできます。
出荷デポ	出荷または積荷の出荷元デポを識別します。

複合輸送配送経路の設定

複合輸送配送経路では、完成品および原材料をある出荷元からある出荷先へ輸送するため、複数の輸送モードまたは運送業者が使用されます。鉄道による出荷でも〈複合輸送配送経路定義〉(P49501)を使用できます。また、複数の輸送モードを使用する出荷に複合輸送配送経路を作成できます。複合輸送配送経路を使用すると、運賃を下げることができ、出荷のトラッキングが容易になります。

複数輸送配送経路を設定するには、まず親配送経路を設定して、中間にある経由点や区間をすべて1つに結合します。各経由点は、出荷元と出荷先情報によって親配送経路とリンクされています。親配送経路内の各区間もリンクされています。

たとえば、A市とE市の間に親配送経路があるとします。A市とE市の間には、出荷を担当するB市、C市、D市という3つの市があります。次のように複合輸送配送経路を設定して4つの区間を指定します。

- 区間1は出荷元がA市、出荷先がB市
- 区間2は出荷元がB市、出荷先がC市
- 区間3は出荷元がC市、出荷先がD市
- 区間4は出荷元がD市、出荷先がE市

中間区間にはそれぞれ独自の輸送モード、運送業者などがあります。

はじめる前に

- 親配送経路を設定します。『輸送管理』ガイドの「配送経路の設定」を参照してください。

▶ 複合輸送配送経路を設定するには

〈配送経路の設定〉メニュー(G49411)から〈配送経路の処理〉を選びます。

1. 〈配送経路の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 中間の経由点を追加する親配送経路を選び、[ロー]メニューから[複合輸送詳細]を選びます。
3. 〈複合輸送詳細配送経路の処理〉で、[追加]をクリックします。
4. 〈複合輸送詳細配送経路の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して出荷元と出荷先を入力します。

- 区間 No.

特定の番号を入力しない限り、システムにより番号が1から順番に割り当てられます。

- 出荷元住所
- 出荷先住所

出荷元と出荷先の住所を基に、出荷経路ステップが複数のステップ(1区間が1ステップ)に分割されます。ある区間の出荷先が次の区間の出荷元となり、その区間の出荷先が、次の区間の出荷元、というようになります。最初の出荷元と最後の出荷先が親配送経路で定義されています。

5. 特定の区間のレートを自動計算するかどうかを指定するには、次のフィールドに値を入力します。

- レート表

このフィールドは任意フィールドです。レート表が割り当てられている区間のレートは、配送経路およびレート設定時に設定されます。

6. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 運送業者 No.
- 輸送モード
- 契約 No.
- 運賃レート
- 通貨コード
- 運賃タイプ
- レート基準
- レート単位
- 輸送日数
- 単位
- 有効開始日付
- 有効終了日付
- 配送経路 No.
- 課税対象
- 税率/税域
- 税目コード

輸送優先情報

優先情報は、顧客や品目、または顧客(販売先、出荷先、あるいは親住所)、顧客グループ、品目、品目グループの組合せに対して定義する情報です。システムはこの優先情報を使用して、オーダーと出荷入力時に通常の顧客と品目の設定情報を一時変更します。

優先情報を使用して、出荷の処理方法をカスタマイズすることができます。J.D. Edwards では標準の優先情報を用意しています。標準の優先情報を使用したり、ビジネス・ニーズに合わせてさまざまな優先情報を作成することもできます。

優先情報は一般に、輸送管理システムのデフォルト値が適用できない顧客独自の取引がある場合に作成します。たとえば、次のような要件に応じて作成します。

- 顧客の要求
- 会社の方針
- 監督官庁の規則
- 品目固有の要求

それぞれの優先情報は、慎重に計画を立てた上で設定および使用してください。処理時間の短縮と合わせて、優先情報を使用する目的を十分に検討してください。優先情報は、時間を短縮し、エラーを減らして値の一貫性を保つ目的で使用します。状況によって変化する情報については、優先情報の使用を避けてください。このような場合は、例外的な情報を該当フィールドに手入力します。

優先情報の使用方法

それぞれの優先情報には標準の見出し行があります。この行のフィールドを使って、次の項目に対する優先情報を定義します。

- 顧客
- 顧客グループ
- 品目
- 品目グループ
- 顧客(または顧客グループ)と品目(または品目グループ)の組合せ

出荷の入力には、この情報がシステムで使用されます。定義した階層によって、適切な顧客と品目の優先情報が検索されます。

オーダーの入力時には、優先情報を使用して出荷が作成されます。各オーダー行の顧客と品目の組合せに影響する情報に対して、設定した階層順に優先情報のプロファイルが検索されます。出荷入力の一部にはこの優先情報が使用されます。

輸送管理システムでは、優先情報を 2 つのレベルで決定します。まず、顧客/顧客グループ・レベル、次に品目/品目グループ・レベルで優先情報が決定されます。すべての行が出荷に投入された時点で、全品目レベルまたは集計レベルで優先情報が決定されます。輸送管理システムでは、優先階層にかかわらず、常に ALL の優先情報よりも先に品目/品目グループの優先情報が選択されます。受注オーダーから作成されていない出荷については、「オプション/設備」優先情報のみが品目/品目グループ優先情報レベルで決定されます。その他の優先情報はすべて、全品目レベルで分析されます。

また輸送管理システムでは、同じ顧客または品目に対する優先情報を複数定義することもできます。この追加の優先情報には、オプション/設備、伝票セット、および伝票配賦があります。

例: 優先情報の適用

出荷で使用する優先情報の 1 つに「運送業者」優先情報があります。たとえば、出荷重量が 1000 ポンドに満たない場合は常に運送業者 A を使用する顧客がいます。その顧客は、1000 ポンド以上の出荷については、常に運送業者 B を使用します。この場合、その顧客について 1000 ポンド未満の出荷には運送業者 A、1000 ポンド以上の出荷には運送業者 B という運送業者優先情報を設定できます。これらの優先情報により、特定の配送経路に対して標準の運送業者を一時変更できます。

優先タイプとは

優先情報のフィールドは通常、次のように分類されます。

- キー・フィールド
- ドライバ・フィールド
- 定義フィールド

キー・フィールドには標準の優先情報が含まれます。キー・フィールドは、すべての優先情報で共有されます。キー・フィールドは任意であり、検索条件として使うと、出荷に優先情報を照合させることができます。これらのフィールドは、〈優先マスターの処理〉フォームの見出し域にあります。

顧客と顧客グループのキー・フィールドは両立しません。同じように、品目と品目グループのキー・フィールドもお互い両立しません。つまり、顧客と顧客グループの両方を同時に優先情報に使用することはできません。また品目と品目グループも同様です。優先情報を出荷に照合する際には常に、顧客(または顧客グループ)および/あるいは品目(または品目グループ)が使用されます。

キー・フィールドと同じように、ドライバ・フィールドでは、輸送優先情報で使われる検索条件をさらに詳しく定義します。ドライバ・フィールドは、すべての優先情報で共有されます。これらのフィールドは、〈優先マスターの処理〉フォームのグリッドにあります。

優先情報の定義フィールドは、優先情報を使用する際に使用されるフィールドです。それぞれの優先情報には、各条件に応じた固有の定義フィールドが 1 つまたは複数あります。これらのフィールドは各改訂フォームのグリッドにあります。空白が値として有効な場合もありますが、定義フィールドは必須フィールドです。

次の表では、以下の内容を含む各優先情報の概要を説明します。

- 優先情報の目的
- 出荷処理時の優先情報の用途と使用時期、および関連情報を参照できるロケーション

以下の優先情報は、デフォルト情報を一時変更しません。

- 輸送モード** 出荷先に基づいて特定モードを選択する。
出荷作成時に出荷に適用します。〈出荷の処理〉フォームで「輸送モード」優先情報を参照します。
- 伝票セット** 印刷する配送伝票グループを定義する。デポ別に伝票セットも割り当てることができます。
〈輸送積荷確認〉プログラム(P49640)、または〈積荷の配送伝票バッチ処理〉プログラム(PR49548)で適用されます。〈伝票選択〉フォームで選択された伝票セットを参照します。
- 運送業者** 特定の運送業者を選択したり、運送業者 3 社のリストから 1 つまたは複数の運送業者を除外する。
出荷作成時に出荷に適用します。〈出荷の処理〉フォームから〈その他の出荷情報〉フォームにアクセスして運送業者優先情報を参照します。
- オプション/設備** 「オプション/設備」優先情報により、出荷に必要なオプションと設備を指定する。
出荷作成時に出荷に適用します。〈出荷の処理〉フォームから〈その他出荷情報〉フォームにアクセスして運送業者優先情報を参照します。
- 顧客運賃** 次のことを実行します。
- 請求可能な運賃の計算
 - 受注オーダーへの請求金額追加
 - 配送経路の選択
 - 出荷の支払諸掛運賃に関する条件の指定
- 出荷作成時に出荷に適用します。〈出荷の処理〉フォームで「顧客」運賃優先情報を参照します。

優先マスターと優先階層の処理

輸送処理でシステムのデフォルト値とは異なる一定したビジネス・ニーズがある場合は、優先情報を設定することで対処できます。

〈優先プロファイルの処理〉フォームには論理グループの優先情報がすべて表示されます。優先情報分類が表示される場所と、有効日付と有効数量を優先情報にするかどうかを指定するには、〈優先マスターの改訂〉フォームを使用します。

各優先タイプに対して階層を定義し、出荷に優先情報を適用する順序を指定します。

優先マスター情報の設定

優先情報と優先情報分類が処理される順序と、有効日付と有効数量を優先情報にするかどうかを指定するには、〈優先マスターの改訂〉フォームを使用します。優先マスター(P40070)には、各優先情報で使用されるデフォルト情報が保存されます。

▶ 優先マスター情報を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈優先マスター〉を選びます。

1. 〈優先マスターの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈優先マスターの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 優先タイプ
 - 記述
 - 優先分類
 - 順序 No.
3. 次のオプションを選び、[OK]をクリックします。
 - 有効日付の使用
 - 有効数量の使用

フィールド記述

記述	用語解説
優先タイプ	<p>優先タイプまたは価格調整階層を識別するユーザー定義コード(40/PR)。</p> <p>ユーザー定義コード(40/PR)では、[特殊取扱コード]フィールドの“A1”は、J.D. Edwards がサポートする優先情報を識別します。このフィールドは各優先情報に対してハードコード化されています。</p> <p>〈契約ペナルティ・スケジュール〉では、まずペナルティ用にユーザー定義コード PN を設定してください。その後でこのフィールドに入力します。</p>
優先分類	<p>優先マスター(P40070)で優先情報をグループにまとめるときに使用する分類またはタイトル。</p>
順序 No.	<p>OneWorld では、有効な環境が表示される順番をユーザーが設定する順序です。</p> <p>World では、ユーザーが定義する順番でレコードを処理する際に使用される順序またはソート番号です。</p>
有効日付の使用	<p>優先情報の有効日付範囲フィールドを表示するかどうかを指定します。優先情報の有効日付と有効数量を入力する場合に、有効日付範囲を表示すると便利です。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 優先プロファイルの改訂フォームに有効日付フィールドを表示する</p> <p>N 有効日付フィールドを表示しない</p>

有効数量の使用

この優先情報に数量範囲を使用するかどうかを指定するコード。
有効な値は次のとおりです。

- Y 優先情報の改訂フォーム (P40300 と P40300EC) で、
この優先情報の有効開始数量と終了数量を表示
する
- N 数量範囲を使用/表示しない

有効数量は任意フィールドですので、優先レコードの設定前に
使用不可にできますが、優先レコードの設定後に使用不可に
することはできません。

有効数量を設定する場合は、有効期間も設定してください。

優先階層の作成

各優先タイプに対して階層を定義し、出荷に優先情報を適用する順序を指定します。

〈優先階層〉フォームには、顧客と顧客グループを識別するローと、品目と品目グループを識別する
カラムがあります。ローとカラムの交差部分に階層順序を入力してください。

優先情報の検索時には、優先階層により優先情報の検索順序が確定されます。“1”を入力した交
差部分から顧客と品目の組合せに対して定義されたレコードの検索が開始されます。この交差部分
に対応する優先情報が検索されない場合、“2”が入力された交差部分の検索が実行され、これ以
降も同様に検索が続けられます。

輸送管理システムではまず、品目/品目グループ・レベルで検索し、それから全品目レベルで検索さ
れます。優先階層の残りの検索順序には、受注管理システムと同じレベルがすべて含まれると同時
に、顧客/全品目のレベルも含まれます。

注:

J.D. Edwards では、まず品目のみ/顧客のみなど、特定グループから始め、その後でさらに一般的
なグループを定義することをお勧めします。

▶ 優先階層を作成するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー (G4941) から〈優先マスター〉を選びます。

1. 優先階層に追加する優先情報を選択します。
2. [ロー]メニューから[階層]を選択します。

PeopleSoft

優先階層の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

優先タイプ 31 オプションおよび設定

		品目 No.	品目 グループ	全 品目
出荷先	顧客 No.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	顧客グループ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
販売先	顧客 No.	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/>
	顧客グループ	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/>
親	顧客 No.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	顧客グループ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
すべての顧客		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 5

3. <優先階層の改訂>で、ローとカラムの交差部分に連続した番号を入力して優先情報の階層を定義し、[OK]をクリックします。

顧客と品目のグループへの割当て

J.D. Edwards では、事前に定義された優先情報を用意しています。優先情報を使用する前に、特定業務に対応するように優先情報を変更してください。

効率よく優先情報を定義するために、顧客または品目をグループに割り当てることができます。その後、顧客や品目それぞれに対してではなく、そのグループに対して優先情報を定義できます。たとえば、同じ支払条件を適用する顧客すべてを 1 グループにまとめることが可能です。その後で、「支払条件」優先情報を作成して、グループに対して 1 つの優先情報を定義します。

はじめる前に

- 顧客グループと品目グループのユーザー定義コードが設定されていることを確認します。40/30、40/31、40/32、40/33、および 40/34 のユーザー定義コード・テーブルの設定については、『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コードのカスタマイズ」を参照してください。

顧客のグループへの割当て

どの優先情報についても、顧客を顧客グループに割り当てるのが可能です。たとえば、ある顧客を季節的な顧客として指定し、特別な支払条件を作成することができます。この場合の設定は次のとおりです。

- 「季節」という顧客グループのユーザー定義コードを設定する
- 季節的な顧客をすべてこのグループに割り当てる
- この「季節」顧客グループに対して「支払条件」優先情報を作成する

また、この「季節」顧客グループに季節的な顧客を新規に割り当てることもできます。新しい顧客の受注オーダーすべてに「支払条件」優先情報が自動的に適用されます。

▶ 顧客をグループに割り当てるには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈優先マスター〉を選びます。

1. [フォーム]メニューから[顧客グループ]を選択します。
2. 〈顧客グループ優先情報の処理〉で、[検索]をクリックします。
3. 割り当てる顧客を選び、[選択]をクリックします。
4. 〈顧客グループの改訂〉で[顧客グループ 2]タブをクリックして、輸送管理システム優先情報の次のフィールドのいずれかに値を入力します。
 - 伝票セット
 - オプションおよび設備
 - 顧客運賃
 - 運送業者
 - 輸送モード
5. 別のシステム優先情報に対してグループに顧客を割り当てるには、次のフィールドに入力します。
 - 伝票配賦
 - 価格調整スケジュール
 - 請求書サイクル
 - オーダー準備日数

- 次のオーダー状況
 - 販売コミッション
 - 顧客通貨
 - 品質管理
6. 別のシステム優先情報に対してグループに顧客を割り当てるには、[顧客グループ 1]タブをクリックして、次のフィールドのいずれかに値を入力します。
- 支払条件
 - 価格設定計量単位
 - 収益ビジネスユニット
 - 最終用途
 - 印刷メッセージ
 - 在庫引当て
 - 製品割当て
 - 等級/濃度
 - 納期
 - 業種
 - 価格コード 1
 - 価格コード 2
 - 価格コード 3
7. 別のシステム優先情報に対してグループに顧客を割り当てるには、[顧客グループ 3]タブをクリックして、次のフィールドのいずれかに値を入力します。
- 支払条件(事業所)
 - 製品割当て(事業所)
 - 価格設定単位(事業所)
 - 収益ビジネスユニット(事業所)
8. すべてのグループに顧客を割り当てたら、[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述

用語解説

伝票セット

「伝票セット」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/30)。類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義する場合に使用します。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。得意先グループについてのみ、または得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、優先情報はすべての得意先に対して適用されます。

オプションおよび設備

「オプションおよび設備」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/31)。類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義する場合に使用します。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみに定義するか、または得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、優先情報はすべての得意先に対して適用されます。

顧客運賃

「得意先運賃」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/32)。類似した得意先をグループ化して、得意先に対する優先情報をすばやく簡単に定義するときに使用します。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみに定義するか、または得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、優先情報はすべての得意先に対して適用されます。

運送業者

「運送業者」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/33)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使います。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみに定義するか、または得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、優先情報はすべての得意先に対して適用されます。

輸送モード

「輸送モード」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/34)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使います。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。得意先グループのみに定義するか、または得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、優先情報はすべての得意先に対して適用されます。

支払条件

「支払条件」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/01)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

価格設定計量単位

「価格設定計量単位」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/02)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

収益ビジネスユニット

「収益ビジネスユニット」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/03)。類似した特徴の得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

最終用途

「最終用途」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/04)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

印刷メッセージ

「印刷メッセージ」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/05)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより優先情報をすばやく簡単に定義することができます。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

在庫引当て

「在庫引当て」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/06)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

製品割当て

「製品割当て」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/07)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。

優先情報を設定する得意先グループを定義するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

等級/濃度

「等級および濃度」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/08)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。

優先情報を設定する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

納期

「納期」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/09)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。

優先情報を設定する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

業種	<p>「業種」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/10)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を設定する得意先グループを定義するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>
価格コード 1	<p>「ユーザー定義価格コード 1」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/11)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。</p>
価格コード 2	<p>「ユーザー定義価格コード 2」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/12)。類似した特徴をもつ得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと得意先グループと品目/品目グループとの組合せに対して優先情報を定義できます。</p> <p>得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。</p>
価格コード 3	<p>「ユーザー定義価格コード 3」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/13)。類似した特徴の得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。</p> <p>優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループとの組合せに対して優先情報を定義できます。</p> <p>得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。</p>

伝票配賦

「伝票配布」優先情報について得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/29)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するとき 사용합니다。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、優先情報はすべての得意先に対して適用されます。

価格調整スケジュール

「価格調整スケジュール」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/14)。類似した特徴の得意先をグループ化します。得意先グループを使用することにより、優先情報をすばやく簡単に定義することができます。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループとの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。

契約ペナルティ・スケジュールの場合：

「契約ペナルティ・スケジュール」優先情報に使用する取引先グループを設定できます。

請求書サイクル

「請求書サイクル」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/15)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先タイプをすばやく簡単に定義するとき 사용합니다。

優先タイプを定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみ優先タイプまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。

オーダー準備日数

「オーダー準備日付」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/16)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使います。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループとの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。

次のオーダー状況

「次のオーダー状況(ECS)」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/41)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使用します。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。得意先グループにのみ定義するか、または得意先グループと品目/品目グループとの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。

販売コミッション

「販売コミッション(ECS)」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/44)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使用します。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。得意先グループにのみ定義するか、または得意先グループと品目/品目グループとの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。

顧客通貨

「得意先通貨(ECS)」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/45)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使用します。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。得意先グループにのみ定義するか、または得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。

品質管理

「品目/試験仕様」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/18)。類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使用します。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。このグループのみまたは得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に対して優先情報が適用されます。

支払条件(事業所)

「支払条件(ECS)」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/38)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使います。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。得意先グループにのみ定義するか、または得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。

製品割当て(事業所)

「製品割当て(ECS)」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/39)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使います。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。得意先グループにのみ定義するか、または得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義します。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。

価格設定単位(事業所)

「価格設定計量単位(ECS)」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/47)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使用します。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。得意先グループにのみ定義するか、または得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドを空白にすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。

収益ビジネスユニット(事業所)

「収益ビジネスユニット(ECS)」優先情報の得意先を割り当てるグループを識別するユーザー定義コード(40/49)。このコードは類似した得意先をグループ化して、優先情報をすばやく簡単に定義するときに使用します。

優先情報を定義する得意先グループを識別するコードを入力してください。得意先グループにのみ定義するか、または得意先グループと品目/品目グループの組合せに対して優先情報を定義できます。

得意先番号と得意先グループの両フィールドをブランクにすると、すべての得意先に優先情報が適用されます。

品目のグループへの割当て

品目を優先情報グループに割り当てて、ユーザー定義コードでそのグループ全体に対して優先情報を割り当てることができます。

▶ 品目をグループに割り当てるには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈優先マスター〉を選びます。

1. 〈優先マスターの処理〉で、[フォーム]メニューから[品目グループ]を選びます。
2. 〈品目グループ優先情報の処理〉で、[検索]をクリックします。
3. 割り当てる品目を選び、[選択]をクリックします。
4. 〈品目グループ優先情報の改訂〉で、[品目グループ 2]タブを選択し、輸送管理システム優先情報の次のフィールドのいずれかに値を入力します。
 - 伝票セット
 - オプションおよび設備
 - 顧客運賃
 - 運送業者
 - 輸送モード
5. 他のシステム優先情報の次のフィールドのいずれかに値を入力します。
 - 伝票配賦
 - 価格調整スケジュール
 - 請求書サイクル

- オーダー準備日数
 - 次のオーダー状況
 - 販売コミッション
 - 品質管理
6. 別のシステム優先情報に対してグループに品目を割り当てるには、[顧客グループ 1]タブをクリックして、次のフィールドのいずれかに値を入力します。
- 支払条件
 - 価格設定計量単位
 - 収益ビジネスユニット
 - 最終用途
 - 印刷メッセージ
 - 在庫引当て
 - 製品割当て
 - 等級/濃度
 - 納期
 - 業種
 - 価格コード 1
 - 価格コード 2
 - 価格コード 3
7. 別のシステム優先情報に対してグループに品目を割り当てるには、[顧客グループ 3]タブをクリックして、次のフィールドのいずれかに値を入力します。
- 支払条件(事業所)
 - 製品割当て(事業所)
 - 価格設定単位(事業所)
 - 収益ビジネスユニット(事業所)
8. すべてのグループに品目を割り当てたら[OK]をクリックします。

基本優先情報の設定

1つのカテゴリにある全優先タイプに適用される標準優先情報は、すべての優先情報で共有されます。基本優先情報を設定する際、各優先情報についてこの基本優先情報を〈優先情報マスターの処理〉フォームの見出し部分に入力します。グリッドには、それぞれの優先情報に固有の情報を入力します。

顧客と品目の組合せに対して複数の優先情報を設定した場合、受注オーダー処理用に優先情報を検索する際の順序番号を指定できます。

適用可能な〈優先プロファイル〉フォームのグリッドには、カスタム優先情報を入力します。それぞれの優先情報には、各条件に応じた固有の定義フィールドが1つまたは複数あります。たとえば、「運送業者」優先情報の定義フィールドは、「輸送モード」優先情報の定義フィールドとは異なります。

すべての優先情報にはキー・フィールドと呼ばれる共通のフィールドがあり、このフィールドを使用して標準優先情報を入力します。各優先情報は〈優先プロファイルの改訂〉フォームの見出し部分に入力します。

標準優先情報を入力する際、優先レコードの検索に使用する順序番号を指定することもできます。たとえば、顧客と品目の組合せに対して優先情報を設定し、追加のキー・フィールドごとにその優先情報を変更するには、優先情報レコードに順序を付けます。事業所 A の優先順序を“1”、事業所 B の優先順序を“2”、その他の事業所すべてを“999”に設定すると、その他の事業所に適用される優先情報が使用される前に、事業所 A および B が先に検索されます。

優先情報レコードの順序番号は注意して設定してください。すべての事業所に適用される優先情報の順序番号が1の場合は、全事業所に適用される優先情報が最初に検索されるので、事業所 A や B に割り当てられた特定の優先情報は検索されません。順序番号を昇順で設定すると、新しい優先情報を後で挿入することができます。

標準優先情報の入力

すべての優先情報にはキー・フィールドと呼ばれる共通のフィールドがあり、このフィールドを使用して標準優先情報を入力します。〈優先情報マスター〉プログラム(P40070)の〈優先情報マスター〉フォームの見出し域で、各優先情報に対してこの情報を入力します。

標準優先情報を入力するときには、優先階層の優先情報レコードを検索する順序番号も指定できます。たとえば、顧客と品目の組合せに対する優先情報を設定し、追加のフィールドごとに優先情報を変更するには、優先情報レコードに順序番号を設定する必要があります。事業所 A に“1”、事業所 B に“2”、その他すべての事業所に“999”という順序番号を設定すると、その他すべての事業所に対して適用される優先情報の前に事業所 A と B の優先情報が検索されます。

優先情報レコードの順序番号は注意して設定してください。すべての事業所に適用される優先情報が階層番号「1」の場合、まず最初にこの優先情報が検索されるため、事業所 A と B に対してこれより詳細な優先情報は検索されません。順序番号を昇順で設定すると、後から新しい優先情報を挿入することができます。階層値は常に連続した番号である必要があります。

▶ 優先情報を入力するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈優先マスター〉を選びます。

優先マスターと階層情報を設定すると、標準優先情報を入力できます。

1. 〈優先マスターの処理〉で、優先情報を選び[選択]をクリックします。
表示されるフォームは、選択する優先タイプに対応します。ここでは[オプションおよび設備]優先プロファイルに対応した例を使用します。
2. 〈オプション/設備プロファイルの処理〉で、[追加]をクリックします。
3. 〈優先階層の選択〉で、該当する組合せを選んで[選択]をクリックします。
4. 〈オプション/設備プロファイルの改訂〉で、必要なカスタム優先情報を入力します。
5. [OK]をクリックします。
6. 〈優先階層の選択〉フォームで、その他の組合せ用に優先情報を追加する階層を選択するか、または[閉じる]をクリックします。

詳細優先情報

優先情報は、オーダーの処理方法のユーザー定義仕様です。J.D. Edwards のシステムは標準/詳細両方の優先情報を使用します。上級価格設定で使用する機能と同じ機能を使って、詳細優先情報を設定します。たとえば、基本優先情報で品目や顧客の帰属するグループは、優先情報で明確に定義する必要があります。詳細優先情報では、品目と顧客グループを上級価格設定と同様にカテゴリ・コードの定義を基に処理します。

上級価格設定は、複合顧客グループ、複合品目グループを使用して価格設定スケジュールを管理します。詳細優先情報を使用する際、複合顧客グループと複合品目グループを使用してオーダーの処理方法も指定できます。詳細優先情報は、優先情報の処理方法を指定するスケジュールと共に設定します。このスケジュールでは、複数の優先情報、さまざまな計量単位、および順序が可能です。つまり、より自由に複雑な優先情報を設定できるので、複雑な流通システムに対応できます。

詳細優先情報には 1 つもしくは複数の優先情報名(タイプ)、優先情報スケジュール、優先情報詳細情報があります。

詳細優先情報を設定する際、優先情報で特定のオーダー処理時に一時変更する特定のキー・フィールドを確認します。戻り値フィールドと同様にキー・フィールドも指定します。

詳細優先タイプ

優先タイプ(優先情報名)は、デフォルトのオーダー処理を一時変更するために作成されるプロファイルです。優先タイプは通常、優先情報の目的と一致します。

優先タイプを設定する際、優先階層も割り当てます。優先階層によって特定の品目、品目グループ、顧客、顧客グループ、またはそれらの組合せに優先情報を設定できます。

詳細優先情報では、複数の基本優先情報が 1 つの詳細優先情報にまとめられます。まとめられた詳細優先情報の例としては、オーダー明細のデフォルト優先情報があります。オーダー明細のデフォルト優先情報は、支払条件、価格設定計量単位、収益ビジネスユニットと最終用途などの多くの基本優先情報を含んでいます。基本優先情報を組み合わせて詳細優先情報にまとめるのは、設定時間や処理時間の短縮につながります。

参照

- 階層の定義については、『受注管理』ガイドの「優先階層の作成」

▶ 詳細優先タイプを設定するには

〈Advanced Preferences(詳細優先情報)〉メニュー(G40311)から〈詳細優先情報名の改訂〉を選びます。

1. 〈優先タイプの処理〉で、新しい優先タイプを入力するには[追加]をクリックします。
2. 〈Preference Definition Revisions(優先情報定義の改訂)〉で、次の必須フィールドに値を入力します。
 - 価格調整コード
 - 優先階層
 - 詳細価格調整タイプ
3. さらに優先タイプを定義するには、次の任意フィールドに値を入力します。
 - 品目価格グループ
 - 顧客価格グループ
4. 該当する場合は、次のオプションを選択します。
 - 数量レベル分岐
 - 優先情報履歴
5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
優先階層	優先タイプまたは価格調整階層を識別するユーザー定義コード(40/PR)。 価格設定階層を定義する際に、このコードを使って各テーブルを識別します。後で調整を作成するときに、この調整に使用する階層をこのコードで識別します。
詳細価格調整タイプ	詳細優先価格調整の処理方法を示すユーザー定義コード(40/AP)
品目価格グループ	品目の在庫価格設定グループを識別するユーザー定義コード(40/PI)。 価格設定グループには固有の価格設定構造があり、受注/購買オーダー品目の値引や割増しをシステムに組み入れることができます。値引や割増しは品目の数量、金額、オーダー全体の重量などに基づいて行われます。品目に価格設定グループを割り当てると、在庫価格設定グループで定義された価格構造をもつこととなります。在庫価格設定グループを品目と仕入先または得意先に割り当てることにより、対話形式で受注/購買オーダーの値引と割増しが計算されるようになります。

顧客価格グループ	得意先グループを識別するユーザー定義コード(40/PC)。同じ程度の価格設定など、似たような特徴をもつ得意先をグループにまとめることができます。
数量レベル分岐	<p>価格調整明細(F4072)でのレベル区切りの発生方法を示すユーザー定義コード。次の4つのタイプのレベル区切りがサポートされています。</p> <p>数量 = 受注オーダーの数量を基に調整を決定する。計量単位ごとに異なる調整レベル区切りを指定できます。</p> <p>重量 = 受注オーダー明細行の重量を基に調整レベル区切りを決定する。</p> <p>金額 = 受注オーダー明細行の合計金額を基に調整レベル区切りを決定する。通貨換算がオンになっている場合、金額による調整レベル区切りは、通貨コードの浮動小数点に基づいて保管/表示されます。</p> <p>なし = 詳細優先情報機能を使用して調整レベル区切りを決定する。このオプションは、詳細優先情報機能を使用している場合にのみ使用してください。</p>
優先情報履歴	優先名の優先履歴レコードを作成するかどうかを示すコード。

詳細優先情報スケジュール

優先情報スケジュールは、1つまたは複数の優先タイプを含んでおり、優先情報の処理方法を管理します。スケジュールで優先情報の処理順序を指定します。スケジュールの有効日も指定できます。

優先タイプを定義して、各スケジュールの優先情報詳細を入力する必要があります。

▶ 詳細優先情報スケジュールを設定するには

〈Advanced Preferences(詳細優先情報)〉メニュー(G40311)から〈詳細優先情報名の改訂〉を選びます。

1. 〈優先タイプの処理〉で、[追加]をクリックして新しい優先タイプを入力します。

既存のスケジュールを修正するには、スケジュールを検索/選択して[選択]をクリックします。

2. 〈優先スケジュールの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 優先情報名

〈価格調整タイプ〉プログラム(P4071)の〈詳細優先情報名の改訂〉メニュー・オプションを使用して設定する優先情報に基づく、このフォームの優先情報の記述、階層、タイプのデフォルトを指定するデータ。
- 順序 No.
- 有効開始日付
- 有効終了日付
- 品目価格グループ
- 顧客価格グループ

フィールド記述

記述	用語解説
順序 No.	このフィールド値は価格調整が行われる順序を示します。 --- フォーム固有 --- このフィールドの値は価格調整が行われる順序を示します。J.D. Edwards では、番号の順にスペースを入れて〈価格調整スケジュール〉で調整を追加できるようにすることをお勧めします。
有効開始日付	トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付。
有効終了日付	取引(トランザクション)、テキスト・メッセージ、契約、債務、優先情報の有効期限が終了した日付
品目価格グループ	品目の在庫価格設定グループを識別するユーザー定義コード(40/PI)。価格設定グループには固有の価格設定構造があり、受注/購買オーダー品目の値引や割増しをシステムに組み入れることができます。値引や割増しは品目の数量、金額、オーダー全体の重量などに基づいて行われます。品目に価格設定グループを割り当てると、在庫価格設定グループで定義された価格構造をもつこととなります。在庫価格設定グループを品目と仕入先または得意先に割り当てることにより、対話形式で受注/購買オーダーの値引と割増しが計算されるようになります。
顧客価格グループ	得意先グループを識別するユーザー定義コード(40/PC)。同じ程度の価格設定など、似たような特徴をもつ得意先をグループにまとめることができます。

詳細優先情報の詳細

優先情報スケジュールに優先タイプを追加する際、詳細優先情報を定義します。具体的には、詳細とは、キー・フィールドと戻り値フィールドです。優先タイプで定義されているように、キー・フィールドは優先階層が前提となります。戻り値フィールドは、処理を行うためのユーザー定義仕様です。

詳細優先情報にはグループ、品目と顧客番号、数量レベル分岐、計量単位などがあります。定義されている詳細情報を使用して、ビジネス・ニーズに対応する特定の処理方法が決定されます。

▶ 詳細優先情報の詳細を設定するには

〈Advanced Preferences(詳細優先情報)〉メニュー(G40311)から〈詳細優先情報詳細の改訂〉を選びます。

- 〈優先明細の処理〉で次のフィールドに値を入力し、[追加]をクリックして詳細優先情報に新しい詳細情報を作成します。
 - 価格調整コード
(優先調整名)
- 〈優先階層の選択〉で、優先情報に適切な階層グループを選択して[選択]をクリックします。

3. 〈優先詳細の改訂〉で、優先情報に固有のフィールドを指定します。
詳細優先情報名(タイプ)の設定時に指定した優先階層に応じてこのフォームがカスタマイズされます。
4. 優先情報の戻り値を指定するには、〈優先詳細の改訂〉で[ロー]メニューから[優先明細]を選択します。
5. 〈優先値の改訂〉で、この優先情報に固有のキーと戻り値のフィールドを指定して[OK]をクリックします。
優先値定義テーブル(F40711)の優先タイプの定義に合わせて、このフォームがカスタマイズされます。

戻り値フィールドのデータは青で表示されます。

詳細優先情報の処理

詳細優先情報の処理は、優先情報スケジュールに基づいています。優先情報スケジュールには、1つもしくは複数の優先情報名(タイプ)があります。各スケジュールには、オーダーを処理する方法に固有の詳細や値を追加することもできます。

詳細優先情報の処理方法

最初にシステム固定情報で認識されるスケジュールが検索されます。このスケジュールによって、オーダー処理時に決定する優先情報が決まります。システム固定情報で指定されたスケジュールを一時変更するため、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)の[優先プロファイル]タブの[上級優先スケジュールの一時変更]を設定した場合、〈受注オーダー入力〉のバージョンに指定されているスケジュールが使用されます。このスケジュールを使用して適切な優先情報名(タイプ)が検索され、処理されます。

〈価格調整タイプ〉プログラム(P4071)の[詳細優先情報名の改訂]メニュー・オプションを使用して、優先情報の識別方法が検索されます。優先タイプと同様に、設定した優先階層も考慮されます。優先情報履歴レコードを更新するか、数量レベル分岐を処理するかも配慮されます。

次に、優先情報に設定した詳細が使用されます。これらの詳細にはグループ、品目と顧客番号、数量レベル分岐、および計量単位などが含まれます。この時点で使用される詳細には、優先タイプを定義する際に定義する固有キーと戻り値も含まれます。

次の表は、詳細優先情報の処理順序を示しています。

順序	優先情報	プログラムまたはフィールド
1	詳細優先情報スケジュール	P4070 - 詳細優先情報スケジュールの改訂
2	優先タイプ仕様 <ul style="list-style-type: none"> • 階層 • 数量レベル分岐 • 複合グループ 	P4071 - 詳細優先情報名の改訂
3	優先情報詳細 <ul style="list-style-type: none"> • 優先階層 • 優先タイプで定義された顧客または品目グループまたは両方 	P4071 - 詳細優先情報名の改訂
4	キー・フィールド	P4072 で指定したキー・フィールドと戻り値フィールド

カスタム優先タイプ

優先情報の定義フィールドは、優先情報を使用する際に使用されるフィールドです。それぞれの優先情報には、各条件に応じた固有の定義フィールドが 1 つまたは複数あります。これらのフィールドは、優先情報の改訂の各フォームの詳細部分にあります。空白が有効な値になる場合もありますが、定義フィールドは必須フィールドです。通常、これらのフィールドに入力された値を使用して、受注オーダーの情報が一時変更または追加されます。

運送業者の優先情報

「運送業者」優先情報を使用することにより、顧客や品目に対して特定の運送業者を選択したり除外したりできます。また、この情報を使って優先運送業者リストから運送業者を選択することも可能です。リストから運送業者を除外する場合も「運送業者」優先情報を使用できます。たとえば、顧客がこわれものの出荷にあたって特定の運送業者を常に指定する場合、この情報を「運送業者」優先情報として設定します。

配送経路を評価する場合にも、この「運送業者」優先情報が使用されます。除外された運送業者が割り当てられている配送経路は、配送経路の自動選択では選択されません。出荷の配送経路オプションとして、除外された運送業者の配送経路を選択すると、配送経路オプションには警告メッセージが表示されます。

購買オーダーや顧客からの返品などのインバウンド出荷を入力する際に、顧客、品目、および入庫する倉庫を基に「輸送モード」優先情報を設定することができます。購買オーダーについては、仕入先/品目/倉庫の組合せがデフォルト情報として使用されます。

運送業者優先情報は、詳細優先情報として使用できます。

顧客運賃の優先情報

顧客運賃の優先情報は、次のタイミングで使用されます。

- オーダーへの請求金額追加
- 配送経路の選択
- 支払諸掛運賃の指定

たとえばオーダーの運賃が複数ある場合、1つに集計された運賃行にまとめて運賃を追加するか、それぞれの運賃をそれに対応する各行に追加するかどうかをこの優先情報で指定できます。

また「顧客運賃」優先情報により、配送経路を自動選択する要素が確定されます。コストやパフォーマンス、配送時間は顧客運賃を基に評価された上で、配送経路に対して選択されます。

伝票セットの優先情報

「伝票セット」優先情報を使用して、顧客と品目の固有の組合せに対する一連の配送伝票を識別します。伝票セット名は〈伝票セット・プロフィールの改訂〉フォームとリンクしており、このフォームで伝票セットを個別に割り当てます。

配送伝票を使用する場合は、「伝票セット」優先情報を少なくとも1つ定義する必要があります。バルク製品や潤滑油などの製品タイプに従って優先情報を定義したり、顧客が海外または国内のいずれかによって優先情報を定義します。事業所別に異なる優先情報を定義することも可能です。

次の処理段階で伝票を印刷する際に、「伝票セット」優先情報が適用されます。

- 出荷確認
- バルク/パッケージ製品の積荷確認
- 配送伝票の事前印刷

各処理段階の終わりに、〈伝票選択〉フォームで伝票セット情報を参照したり、変更できます。

例: 伝票セットの優先情報

通常、バルク製品やパッケージ製品については、「伝票セット」優先情報は別々に作成されます。この例では「伝票セット」優先情報を2つ設定して、それぞれの製品を該当する伝票セットで出荷するという効率的な方法が要約されています。

13. 品目グループを作成する。
14. 「伝票セット」優先情報を品目グループに割り当てる。
15. [顧客]、[顧客グループ]、[品目]、および[品目グループ]のフィールドを空白にして、すべての品目と顧客に対して「伝票セット」優先情報を設定する。
16. 「伝票セット」優先情報に対する優先階層を設定して、次のように階層を設定する。
 - 品目グループ/すべての住所が第1階層
 - すべての品目/すべての住所が第2階層

積荷確認時に「伝票セット」優先情報が処理される際には、この優先階層によって「品目グループ」優先情報がまず検索されます。受注オーダー行の品目がバルク品目で、それを品目グループに割り当てた場合、バルク製品用の伝票セットが使用されます。品目グループに割り当てなかった場合は、デフォルト値によりすべての品目およびすべての顧客用の伝票セットが発行されます。ここでは、パッケージ製品はバルク品目グループに割り当てられていないため、パッケージ製品用の伝票セットが使用されます。

注:

「伝票セット」優先情報を設定する際には、顧客と品目の組合せに対する「請求書サイクル」優先情報と矛盾していないことを確認してください。請求書サイクル(繰延請求)と配送伝票請求とを同時に使用することはできません。

- 配送伝票とともに請求書を生成するには、基本請求書を含む伝票セットを選択します。
- 定期的(週次または月次)に請求書を生成するには、〈サイクル請求〉プログラム(R49700)を実行します。

参照

伝票セット・コードの作成については『輸送管理』ガイドの次のトピック

- 「伝票セットの設定」
- 「伝票セットを設定するには」

輸送モードの優先情報

「輸送モード」優先情報は、顧客または品目レベルの優先情報に加えて、出荷先に基づいた特定の輸送方法を選択するために使用されます。たとえば、ある顧客が特定の出荷先に対しては常に翌日着の航空便で出荷するように希望する場合は、「輸送モード」優先情報で設定します。

購買オーダーや顧客からの返品などのインバウンド・トランザクションを入力する際に、顧客、品目、および入庫する倉庫を基に「輸送モード」優先情報を設定できます。購買オーダーについては、仕入先/品目/倉庫の組合せがデフォルト情報として使用されます。

オプションと設備の優先情報

「オプションと設備」優先情報では、出荷に必要なオプションと設備を指定します。この優先情報は該当するすべてのグリッド情報で決定されるため、オプション/設備条件が出荷に複数追加されます。

さらに、特定の優先情報それぞれにリストを含めることができます。たとえば、腐敗しやすい品目には冷蔵トレーラーが必要になります。この場合、冷蔵トレーラーで運送するこれらの品目に対してオプション優先情報を設定します。このオプションは、腐敗しやすい品目が含まれる出荷全体に適用されます。これにより、出荷の配送経路を設定する際には、冷蔵トレーラーを提供できる運送業者、輸送モード、または配送経路のみが選択されます。

参照

- 優先情報に関する詳細については『受注管理』ガイドの「基本優先情報の設定」

伝票制御の設定

配送伝票には、出荷や積荷に関する配送指示が記述されます。また、製品の所有権が顧客に移ったことも記録されます。配送伝票によっては、製品価格および追加料金を指定するものもあります。

輸送管理システムでは、出荷プロセス全体で印刷される伝票を定義することができます。また、伝票印刷用のアプリケーション、伝票番号の決定方法、伝票を印刷するプリンタ、番号付きフォームの使用などを指定します。

伝票の設定

配送伝票を印刷するには、まず伝票を設定する必要があります。設定する項目は次のとおりです。

伝票自動採番	出荷伝票の採番システム。「次の番号」が番号付きのフォームにも、番号なしのフォームにも割り当てられます。
伝票印刷プログラム	これらのプログラムを使用すると、配送伝票のタイプごとに印刷プログラムおよびそのバージョンを関連付けることができます。
伝票セット	伝票セットを使用して伝票を顧客または品目別に分類することにより、処理を素早く行うことができます。
伝票デポの記録	伝票デポ情報を使用すると、所有している各デポに固有の伝票を設定できます。また、伝票に複数のデポを定義することもできます。

伝票自動採番の設定

各配送伝票に番号を自動的に割り当てるときの自動採番の範囲を定義する必要があります。各伝票の「次の番号」の範囲とフォーマットを指定します。伝票の自動採番は会社、販売地域、またはデポのレベルで指定できます。

番号なしのフォームを使用する場合、システムが次のフォームを識別できる番号を指定する必要があります。伝票の印刷に番号付きのフォームを使用する場合は、現在のフォーム番号と伝票自動採番により割り当てられる伝票番号を同じにする必要があります。

▶ 伝票自動採番を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈伝票設定の処理〉を選びます。

1. 〈伝票設定の処理〉で、処理する伝票を選び[フォーム]メニューから[自動採番]を選択します。

PeopleSoft

伝票自動採番

OK 検索 削除 キャンセル ツール

伝票タイプ 基準日

会社

見出しビジネスユニット

事業所

グリッドのカスタマイズ													
<input type="checkbox"/>	伝票タイプ	会社	見出しビジネスユニット	事業所	有効日付	終了日付	自動採番範囲1	開始	終了	年度埋込	月度埋込	伝票会社	
<input checked="" type="checkbox"/>	BI				30	97/01/01	10/12/31	1	1	20000000	0	0	00001
<input type="checkbox"/>	BI				710	97/01/01	10/12/31	20000001	20000001	40000000	0	0	00080
<input type="checkbox"/>	DL				30	97/01/01	10/12/31	40000001	40000001	60000000	0	0	00001
<input type="checkbox"/>	DL				710	97/01/01	10/12/31	60000001	60000001	80000000	0	0	00080

2. <伝票自動採番>で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 伝票タイプ
- 会社
- 見出しビジネスユニット
- 有効開始日付
- 有効終了日付
- 自動採番範囲 1
- 開始
- 終了
- 年度埋込み
- 月埋込み
- 伝票会社

フィールド記述

記述	用語解説
伝票タイプ	<p>取引の発生元と目的を示すユーザー定義コード(00/DT)。</p> <p>請求書や買掛金伝票、入荷など、多くの伝票タイプのプレフィックスが提供されています。</p>
会社	<p>特定の企業、組織、団体などを識別するコード。会社コードが会社固定情報テーブル(F0010)に設定され、完全な貸借対照表を持つ財務報告対象を指定する必要があります。このレベルでは、会社間取引を持つことができます。</p> <p>注: 日付や AAI などのデフォルト値に会社 00000 を使用できます。取引入力には会社 00000 を使用できません。</p>
見出しビジネスユニット	<p>ビジネスユニットは管理報告に必要とされる会計の設定項目です。利益センター、部署、倉庫内の保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所などに使用できます。このビジネスユニットは、レポート目的で受注/購買オーダーの見出しに 入力されたビジネスユニットを表し、入力すると常に右揃えになります(たとえば CO123 は__CO123 と表示されます)。セキュリティ機能により、ユーザーに権限が与えられていない場合は、ビジネスユニットの入力/照会ができません。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>伝票の自動採番保守管理で、会社、販売地域(見出しビジネスユニット)、または事業所別に自動採番を定義できます。自動採番の範囲を定義する場合、このの 3 つのフィールドのうち、1 つのフィールドをキー・フィールドとして選択してください。</p>
自動採番範囲 1	<p>システムによって自動的に割り当てられる番号。自動採番は伝票番号や請求書番号、仕訳番号、従業員番号、住所番号、契約番号など、さまざまな番号に使用できます。カスタム・プログラミングが提供されていないかぎり、すでに設定されている自動採番を使用する必要があります。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>指定したタイプの伝票が次回作成される時に使用する番号を入力してください。自動採番範囲の[開始]と[終了]の間の番号を指定する必要があります。</p>
開始	<p>割り当てられた番号の範囲における最初の番号。事前に採番されたフォームに伝票を印刷している場合はこの値を使用します。この値はデポまたは販売事業所に割り当てる必要があります。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>伝票番号が割り振られる連続番号の範囲を定義します。</p>

終了

割り当てた番号の範囲における最後の番号。事前に番号付けられたフォームで印刷している際に、この値を使用してください。油槽所または販売事業所にこの値を割り当てなければなりません。

--- フォーム固有 ---

伝票番号が割り振られる連続番号の範囲を定義します。

年度埋込み

伝票番号に、月を表す数字を埋め込むかどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。

Y = 年度を埋め込む。会計年度の最後の2桁(例:1994年なら94)が伝票番号の第1および第2桁目に埋め込まれます。たとえば94123456の94は1994年度を意味し、00123456が通し番号の部分となります。

S = 年度を埋め込む。会計年度の最後の1桁(例:1994年なら4)が伝票番号の第1桁目に埋め込まれます。たとえば41234567の4は1994年度を意味し、01234567が通し番号の部分となります。

N = 伝票番号に月を表す数字を埋め込まない。

Yの代わりに"1"を、Sの代わりに"9"を、Nの代わりに"0"を入力することもできます。

月埋込み

伝票番号に、月を表す数字を埋め込むかどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。

Y = 2桁埋め込む。月を表す数字(例:3月なら03)が伝票番号の第3および第4桁目に埋め込まれます。たとえば03001234の03は3月を意味し、00001234が通し番号の部分です。年度も組み込む場合には、94031234の94が1994年、03が3月を意味します。

N = 伝票番号に月を表す数字を埋め込まない。

Yの代わりに"1"を、Nの代わりに"0"を入力することもできます。

伝票会社

伝票番号、伝票タイプ、および元帳日付を使って、請求書、伝票、仕訳などの当初伝票を識別する番号。

「会社/会計年度別自動採番」を使用する場合は、自動採番プログラム(X0010)で伝票会社を使ってその会社の正しい自動採番が取り込まれます。2つ以上の当初伝票に同じ伝票番号および伝票タイプが存在する場合は、伝票会社を使って伝票を検索できます。

--- フォーム固有 ---

このレコードを使って取り込まれた伝票番号に関連するキー会社のフィールドのみを表示します。

伝票印刷プログラムの設定

伝票印刷プログラムを設定して、印刷する配送伝票のタイプごとにプログラムおよびバージョンを関連付けます。たとえば、船荷証券の印刷には〈船荷証券〉プログラム(R49110)の使用を指定できます。特定のビジネス要件を満たすために特別なプログラム・バージョンを作成した場合は、そのバージョンIDを指定します。

また、組織が使用する配送伝票に対応する伝票コードも定義します。たとえば、船荷証券のコードをBOLとして定義します。

次のリストは、共通する伝票コードと伝票コードが参照する伝票を示しています。

BOL	船荷証券(R49110)。船荷証券を印刷する場合は、通常このプログラムを使用します。デフォルトのバージョンはZJDE0001です。
MBL	マスター船荷証券(R49137)。マスター船荷証券を印刷する場合は、通常このプログラムを使用します。デフォルトのバージョンはZJDE002です。
INV1	請求書印刷(R42565)。請求書を印刷する場合は、通常このプログラムを使用します。デフォルトのバージョンはZJDE001です。
MAN1	出荷積荷目録印刷(R49135)。積荷目録を印刷する場合は、通常このプログラムを使用します。デフォルトのバージョンはZJDE001です。
PKL	梱包リスト(R49141P)。梱包リストを印刷する場合は、通常このプログラムを使用します。デフォルトのバージョンはZJDE001です。

コードに関連付けられた伝票が配送伝票であるか、基本請求書伝票であるか、またはその両方であるかを指定することもできます。さらに、伝票が積荷、行、または出荷のどのレベルかなど、伝票のレベルを指定できます。

特定のタイプの配送伝票の印刷時に運賃の更新を実行するかどうかを指示できます。バッチ処理を連携させて実行することにより、時間と労力を節約できます。

▶ 伝票印刷プログラムを設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈伝票設定の処理〉を選びます。

1. 〈伝票設定の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈伝票セットの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 伝票コード
 - 伝票タイプ
 - 表示順序 No.
 - フォーム名

- バージョン ID
 - 参照 No.修飾子
 - プログラム ID 外部伝票 No.
3. 適切なオプションを選び、[OK]をクリックします。
- 行レベル
 - 出荷レベル
 - 積荷レベル
 - 基本配送伝票
 - 基本請求書
 - 伝票再作成
 - 伝票運賃更新
 - その他行の組込み

フィールド記述

記述	用語解説
伝票コード	この伝票を印刷する際に使用する伝票コードを識別します。
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>伝票を識別するユーザー定義値を入力する際にこのフィールドを使用します。</p> <p>例えば、バルク製品の配送チケット用の BDEL 値を定義し、使用することができます。</p>
伝票タイプ	取引の発生元と目的を示すユーザー定義コード(00/DT)。
	<p>請求書や買掛金伝票、入荷など、多くの伝票タイプのプレフィックスが提供されています。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>範囲、自動採番、形式を適用する先の伝票タイプ</p>
表示順序 No.	車両のトリップの順序を示すために使用する番号
フォーム名	フォーム ID。
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>伝票コードが相互参照された時にコールされる UBE 名です。</p>

バージョン ID	<p>アプリケーションやレポートの実行方法の指定に使用するユーザー定義のスペックです。バージョンを使用することで、ユーザー定義の処理オプション値やデータ選択、順序オプションなどをグループ化して保存します。対話型バージョンは(通常、タスク・レベルで)アプリケーションと関連付けられています。バッチバージョンはバッチ・プログラムまたはレポートと関連付けられています。バッチ・プログラムを実行する場合はバージョンを選択する必要があります。</p> <p>--- フォーム固有 --- 呼び出される UBE のバージョン</p>
参照 No.修飾子	<p>参照番号を修飾するコードです。EDI X12 データ・エレメント 128 に準拠する値を使用してください。</p> <p>--- フォーム固有 --- 参照番号を修飾するコードです。</p>
プログラム ID 外部伝票 No.	<p>外部伝票番号を取り込むのに使用するビジネス関数のフォーム名(プログラム ID)を入力してください。</p>
行レベル	<p>この伝票がオーダーレベル、出荷レベル、積荷レベルのいずれであるかを示します。既存伝票についてはこのオプションを変更しないでください。予測できない結果を生じることがあります。</p>
出荷レベル	<p>この伝票がオーダーレベル、出荷レベル、積荷レベルのいずれであるかを示します。既存伝票についてはこのオプションを変更しないでください。予測できない結果を生じることがあります。</p>
積荷レベル	<p>この伝票がオーダーレベル、出荷レベル、積荷レベルのいずれであるかを示します。既存伝票についてはこのオプションを変更しないでください。予測できない結果を生じることがあります。</p>
基本配送伝票	<p>この伝票が特定のオーダー行に対する基本配送伝票なのかどうかを識別します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y = 基本配送伝票である</p> <p>N = 基本配送伝票ではない</p>
基本請求書	<p>Y の代わりに"1"を、N の代わりに"0"を入力することもできます。</p> <p>この伝票が特定のオーダー行に対する基本配送伝票なのかどうかを示します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y = 基本請求書である</p> <p>N = 基本請求書ではない</p> <p>Y の代わりに"1"を、N の代わりに"0"を入力することもできます。</p>

伝票再作成	配送伝票を再作成できるかどうかを示します。 たとえば、積荷に別の出荷が追加された場合、陸揚船荷証券の作成後に再作成する必要があることもあります。
伝票運賃更新	配送伝票の印刷時に運賃更新が実行されるかどうかを示します。
その他行の組み込み	配送伝票に「その他」行が含まれるかどうかを示します。

処理オプション: 輸送管理船荷証券(R49110)

実行オプション

- 一時変更出荷状況を入力してください。
- 実行する印刷 UBE の名称を入力してください。
- 実行する印刷 UBE のバージョンを入力してください。

顧客品目

処理オプション: 出荷伝票ワークテーブル作成(R49130)

実行オプション

1. 実行する印刷 UBE を入力してください。
 2. 実行する印刷 UBE のバージョンを入力してください。
-

処理オプション: 出荷積荷目録印刷(R49135)

実行オプション

- 出荷先住所別に連結するには、“1”を入力してください。
- 各伝票に印刷する一括メッセージを入力してください。

その他のヘッダー・テキストの印刷

- 1 = ORIGINAL を印刷
 - 2 = REPRINT を印刷
 - ブランク = その他のヘッダー・テキストなし
-

処理オプション:マスター船荷証券の印刷(R49137)

実行オプション

出荷先住所別に連結するには“1”を入力してください。

各伝票に印刷する一括印刷メッセージを入力してください。

その他のヘッダー・テキストの印刷

1 = ORIGINAL を印刷

2 = REPRINT を印刷

ブランク = その他のヘッダー・テキストなし

伝票セットの設定

伝票セットを使用して伝票を顧客または品目別に論理的なグループに分類できます。設定した伝票セットは「伝票セット」優先情報と直接連携しているため、伝票と顧客や品目番号に対応させることができます。

▶ 伝票セットを設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈伝票設定の処理〉を選びます。

1. 〈伝票設定の処理〉で、伝票セットを作成する伝票タイプを選びます。
2. [ロー]メニューから[伝票セット]を選びます。
3. 〈伝票セット〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 伝票セット
 - 基本配送伝票
 - 基本請求書

フィールド記述

記述	用語解説
伝票セット	出荷中または積荷確認中に前刷りあるいは印刷される伝票グループを識別します。 伝票セットの選択には伝票セット優先情報が使用されます。 ONEWORLD:出荷中または積荷処理中あるいはバッチ伝票処理中に印刷される伝票グループを識別するコードです。

伝票デポ情報の設定

伝票デポ情報を設定して、特定のデポで使用する伝票のタイプを指定します。各デポについては、次の情報を設定することもできます。

- オプションのプリンタ
- 使用するフォームのタイプ
- 番号付きフォームの使用

1つのデポで最大5つのプリンタ名を使用することもできます。この設定を行わなければ、デフォルトのプリンタで伝票が印刷されます。

標準紙と特殊用紙のいずれに印刷するかを指定できます。番号付きフォームを使用する場合は、制御を定義して自動採番された伝票を作成します。伝票の設定処理ではこの時点でのみ番号付きフォームの使用を指定します。あるデポで使用している特定の伝票タイプに対する伝票自動採番のソースを定義する必要があります。また、用紙の位置合せ時に、必要なページ数も定義できます。

▶ 伝票デポ情報を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈伝票設定の処理〉を選びます。

1. 〈伝票設定の処理〉で、伝票印刷情報を設定する伝票タイプを選びます。
2. [ロー]メニューから[デポの設定]を選びます。
3. 〈デポ伝票設定〉で、次のフィールドに値を入力してプリンタを指定します。
 - 印刷デポ
 - プリンタ 1
 - プリンタ 2
 - プリンタ 3
 - プリンタ 4
 - プリンタ 5
4. 次のフィールドに値を入力して、使用するフォームのタイプを指定します。
 - フォーム ID
 - フォーム ID No.2
5. 次のフィールドに値を入力して、フォームの採番方法を指定します。
 - PR
 - ページ合わせ
 - 伝票ソース

6. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 会社
- 見出しビジネスユニット
- 事業所

フィールド記述

記述	用語解説
印刷デポ	トリップの開始地点となるデポ。トリップデポとトリップ番号フィールドで、車両、登録番号、積荷日付、シフトの固有の組合せを識別します。
プリンタ 1	印刷デポで有効なプリンタを指します。ユーザー定義コード(49/DO)。
フォーム ID	この文書／伝票の印刷に使用するフォーム ID を識別します。
フォーム ID No.2	第 2 フォーム ID。伝票配布用のフォームタイプとして使用されます。
PR	この伝票に番号付きフォームを使うかどうかを識別します。有効な値は次のとおりです。 Y = 番号付きフォームを使用するため、伝票印刷制御が必要 N = 伝票印刷制御は必要ない Y の代わりに“1”を、N の代わりに“0”を入力することもできます。
ページ合わせ	プリンタでの文書／伝票の位置合わせに必要なページ数。 文書／伝票を印刷する時、次のフォーム番号が自動的に増分されます。これにより、システムでの印刷採番が最初の「実際」のフォームでのフォーム番号と一致します。
伝票ソース	伝票「次の番号」のソースを示します。 C 会社 D デポ S 販売地域
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコード。会社コードが会社固定情報テーブル(F0010)に設定され、完全な貸借対照表を持つ財務報告対象を指定する必要があります。このレベルでは、会社間取引を持つことができます。 注：日付や AAI などのデフォルト値に会社 00000 を使用できます。取引入力には会社 00000 を使用できません。

見出しビジネスユニット

ビジネスユニットは管理報告に必要とされる会計の設定項目です。利益センター、部署、倉庫内の保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所などに使用できます。このビジネスユニットは、レポート目的で受注/購買オーダーの見出しに 入力されたビジネスユニットを表し、入力すると常に右揃えになります(たとえば CO123 は__CO123 と表示されます)。セキュリティ機能により、ユーザーに権限が与えられていない場合は、ビジネスユニットの入力/照会ができません。

事業所

品目と原価をトラッキングする業務の実体を個別に識別するコード。この実体は、倉庫の所在地、作業、プロジェクト、作業場、事業所などです。事業所フィールドには、英数字を入力します。

車両の設定

積荷を作成するには、出荷時に使用する車両を定義する必要があります。車両や車両タイプを定義するには、車両の設定を使用します。車両を設定して、車両に積載する製品のタイプと数量を確定します。

一般的な車両タイプには、トレーラー(TRL)、トラック積荷(TL)、積合せ(LTL)などがあります。これらの車両に関する一般的な記述が、後で実際に使用する車両を定義するときの基準となります。たとえば、品目の出荷にタンカー・トラックを使用する場合は、まずタンカー(TANKER)という車両タイプを設定する必要があります。

車両タイプを定義すると、車両タイプについて次のような情報を定義できます。

- 寸法情報
- コンパートメント
- 設備情報

車両の寸法を使用して、車両の物理的な寸法を定義します。たとえば、TANKERという車両タイプを定義した場合、タンカーの外部と内部の測定値を設定できます。1つの車両タイプに含まれるコンパートメントの数も定義できます。たとえば、1つのタンカーに6つのコンパートメントを設定することができます。また、車両に積み込む設備も定義できます。たとえば、1つのタンカーについて製品の汲出しに使用するホースを設定できます。タンカーにホースを常備しておく場合は、ホースを車両タイプ TANKER の設備として定義できます。

車両タイプを設定した後は、〈車両マスターの保守〉プログラム (P4930)で具体的な車両情報を定義します。たとえば、接続車両を定義する場合は、次のような情報を設定できます。

ライセンス情報	使用する各車両について、さまざまな輸送業者で必要とする特定のライセンス情報を入力できます。
使用不可能日	使用不可能日を基に、保守管理のスケジュールを立てることができます。使用可能な車両についてのみ割り当てることで、出荷の配送経路を設定します。
接続車両情報	接続車両情報によって複数の車両を結合して、1つの接続車両 ID を定義することができます。

車両情報の設定

車両タイプを定義して、輸送管理システムで車両タイプに基づいて積荷を作成できるようにします。車両タイプを入力した後は、該当する車両の寸法、コンパートメント、設備などの各車両タイプに関する詳しい情報を定義できます。

車両タイプの設定

〈車両タイプの処理〉プログラム(P4931)を使用して車両タイプを設定し、使用されている各車両タイプを記録します。この後、車両に関する詳細情報を定義することができます。

自社の輸送部門の車両に車両 ID などの追加の詳細を設定できます。特定の車両のライセンスや使用不可能日も設定できます。複数の車両を物理的に結合して、論理的に単体の車両として設定し

たものを接続車両と呼びます。接続車両には、何両かの貨物車両を一時的に結合した貨物列車や、トラックやトレーラーを接続した車両などがあります。接続車両を使用することにより、トリップの作成や積荷確認の処理を効率的に進めることができます。

▶ 車両タイプを設定するには

〈車両の設定〉メニュー(G49413)から〈車両タイプの処理〉を選びます。

1. 〈車両タイプの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈車両タイプの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 車両タイプ
 - 記述
 - 単位
 - 車両重量
3. 製品を輸送するには、次のオプションを選択します。
 - 製品運送
4. 次の任意フィールドに値を入力します。
 - 配送手配グループ
 - 2次配送手配グループ
 - コンパートメント数
 - 積荷ライン数
 - 単位
 - 輸送モード
 - バルク/パッケージ区分
 - 車軸数
 - 1車軸当り許容重量
 - 必要封印数
5. コンパートメントに複数行を含めるには、次のオプションを選択して、[OK]をクリックします。
 - 複数行

フィールド記述

記述	用語解説
車両タイプ	品目の輸送に使用する車両のタイプ。 車両タイプにより、輸送モードが識別され、配送手配グループに割り当てられます。
単位	個別品目の重量を示すために使用される単位。 代表的な重量の単位は次のとおりです。 GM グラム OZ オンス LB ポンド KG キログラム CW 100 ポンド TN トン 重量単位に対するユーザー定義コード設定時に、ユーザー定義コードの特殊取扱コードに、“W”を指定してください。
車両重量	車両に認可されている重量。燃料は含まれますが、積荷は含まれません。
計量単位	この品目の容量に使用される計量単位を識別するユーザー定義コード(00/UM)。容量基準としては立方センチ、リットル、ガロンなどを指定できます。品目にこの計量単位を使用することも、個別の品目またはコンテナに対して計量単位を一時変更することもできます。
製品運送	この車両で製品を運送するかどうかを指示するフラグ。 有効な値は次のとおりです。 Y 製品を運送する N 製品を運送しない チェックマークが付いている場合、この車両で製品運送することを示します。
配送手配グループ	配送手配グループを識別するユーザー定義コード。配送手配グループは製品の保管と輸送の際に重要となる製品の物理的な特質にしたがって製品をグループ化したものです。 トリップ作成処理の際に、品目に対して正しい配送グループと車両が使用されているかどうかシステムによりチェックされます。正しい配送グループに属する製品のみが車両に割り当てられます。
2次配送手配グループ	配送を手配する製品をグループ化する際に輸送管理システムで使用するコード
コンパートメント数	車両のコンパートメント数
積荷ライン数	車両のコンパートメントにある積込ラインの数

単位	<p>在庫品目の容量の計量単位を示します。 代表的な容量単位は次のとおりです。</p>
	<p>ML ミリリットル CF 立方フィート CY 立方ヤード CM 立方メートル PT パイント LY リットル</p>
	<p>容量単位ユーザー定義コード設定時に、ユーザー定義コードの特殊取扱コードを “V”と指定してください。</p>
輸送モード	<p>得意先への商品運送に使用する運送業者の種類(鉄道や陸送など)を あらずユーザー定義コード(00/TM)</p>
バルク/パッケージ区分	<p>このフラグにより車両がバルク液状製品またはパッケージ製品のどちらを 輸送するかを指定します。バルク製品の場合、温度および密度/比重 の換算が必要です。バルク製品用のフォームで製品の移動を記録して ください。輸送管理システムで編集して、正しい製品が処理されている ことを確認します。有効な値は次のとおりです。</p>
	<p>P パッケージ品目(製品) B バルク液状品目(製品)</p>
車軸数	<p>この情報は、トラックのみに適用します。政府当局により大型(車軸数の多 い)車両の使用が制限されているか、車軸1本当たりの最大重量が制限され ている場合に必須の情報です。</p>
1車軸当り許容重量	<p>車両の1車軸当り許容重量</p>
必要封印数	<p>1車両に必要な封印の数</p>
複数行	<p>コンパートメント1つにつき複数オーダー行を入力できるかどうかを指示する フラグ。有効な値は次のとおりです。</p>
	<p>Y = 1つのコンパートメントに複数行を使用できる</p>
	<p>N = 1つのコンパートメントに複数行は使用できない</p>
	<p>Yの代わりに“1”を、Nの代わりに“0”を入力することもできます。</p>
	<p>OneWorldでは、チェックマークが付いていると場合、1つのコンパートメント に複数の行を使用できるという意味です。</p>
	<p>WorldSoftwareでは、このフィールドによりバルク製品輸送用に設計されたコ ンパートメント1つにつき複数オーダー行を入力できる車両が識別されます。 これは通常、配送中に出荷製品を計量する手順または装置がある車両を指 します。</p>

車両寸法の設定

車両寸法の定義では、車両の長さ、幅、高さを指定します。これにより、個々の出荷や積荷の容量に合わせて、車両の効率的な積載が可能になります。

▶ 車両寸法を設定するには

〈車両の設定〉メニュー(G49413)から〈車両タイプの処理〉を選びます。

1. 〈車両タイプの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 車両の寸法を設定する車両タイプを選びます。
3. [ロー]メニューから[寸法]を選びます。
4. 〈寸法の改訂〉で、次のうち必要なフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 車両外部の高さ
 - 車両外部の長さ
 - 車両外部の幅
 - 車両側部ドアの高さ
 - 車両側部ドアの幅
 - 車両後ドアの高さ
 - 車両後ドアの幅
 - 車両内部前方の高さ
 - 車両内部中央の高さ
 - 車両内部後方の高さ
 - 車両内部の長さ
 - 車両内部の幅
 - 車フロアの高さ
 - 長さ単位

車両コンパートメントの設定

使用する車両ごとに各コンパートメントの容量を定義する必要があります。これにより許容量を超えた積荷が作成されるのを防ぐことができます。

▶ 車両コンパートメントを設定するには

〈車両の設定〉メニュー(G49413)から〈車両タイプの処理〉を選びます。

1. 〈車両タイプの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. コンパートメントを設定する車両タイプを選びます。
3. [ロー]メニューから[コンパートメント]を選びます。

PeopleSoft.
コンパートメントの改訂

OK 削除 キャンセル ロー ツール

車両タイプ 20C 20' Container

重量単位 LB
容積単位 FC
容量単位

クリッドのカスタマイズ

	積載重量	積載容積	バルク/パッケージ	複数行
1	22,000	1,185	P	Y

4. 〈コンパートメントの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 積載重量
- 積載容積
- 積載容量
- 積載容量 2
- バルク/パッケージ
- 複数行

フィールド記述

記述	用語解説
積載重量	コンパートメント可搬重量。この重量を設定しなくても製品の積み込みはできます。
積載容積	立方で表された、車両またはスペースの容量
積載容量	この配送手配グループに対するコンパートメント積載容量
積載容量 2	この配送手配グループに対するコンパートメントの積載容量
バルク/パッケージ	このフラグにより車両がバルク液状製品またはパッケージ製品のどちらを輸送するかを指定します。バルク製品の場合、温度および密度/比重の換算が必要です。バルク製品用のフォームで製品の移動を記録してください。輸送管理システムで編集して、正しい製品が処理されていることを確認します。有効な値は次のとおりです。 P パッケージ品目(製品) B バルク液状品目(製品)

車両設備の設定

〈車両タイプの処理〉プログラム(P4931)を使用して個々の車両に関連した備品を指定します。積荷を作成するときに、車両マスターを参照しながら、車両が具体的な配送条件に応じた設備を搭載しているかどうかを判断することができます。たとえば、注入型の入口を持つ配送先に向けて配送手配担当者が積荷を作成すると仮定します。この場合、配送手配担当者は、操作担当者が製品を納入できるように、ホースとポンプが装備された車両を割り当てる必要があります。

はじめる前に

- オプション/設備テーブル(49/BG)のユーザー定義コードを設定してください。『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

▶ 車両設備を設定するには

〈車両の設定〉メニュー(G49413)から〈車両タイプの処理〉を選びます。

1. 〈車両タイプの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 設備を設定する車両タイプを選びます。
3. [ロー]メニューから[設備]を選びます。
4. 〈設備の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - オプション/設備
 - 有効開始日付

- 有効終了日付
- 必要数量

フィールド記述

記述	用語解説
オプション/設備	出荷に関連する、あるいは出荷に必要な、ユーザー定義のオプションまたは設備
必要数量	必要な単位数

車両管理情報の設定

車両のタイプ、コンパートメント、および設備を設定した後は、ライセンス、スタッフ、および車両が利用可能かどうかの情報を設定して、モニタリングすることができます。

車両マスター情報の設定

車両タイプを設定した後、事業所、シリアル番号、所有者などの車両固有の情報を入力することができます。

割り当てられた車両タイプに基づいて、実際の各車両に対するデフォルト値が取り込まれます。デフォルトの車両タイプ情報は一時変更することができます。たとえば、自社の輸送部門で所有しているトラックの一般的な情報をデフォルトとして設定できます。特別な設備を装備したトラックに対しては、車両のデフォルト情報を一時変更できます。

▶ 車両マスター情報を設定するには

〈車両の設定〉メニュー(G49413)から〈車両の処理〉を選びます。

1. 〈車両の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈車両マスターの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 車両 ID
 - 車両タイプ
 - 事業所
 - 車両シリアル No.
 - 計量単位
 - 計量単位

3. 次の任意フィールドに値を入力します。
- 記述
 - 所有者 No.
 - 車両重量
 - 積荷ライン数
 - 計量単位
 - 最大オドメータ値
 - 印刷メッセージ
 - メッセージ・タイプ
4. 該当する場合、次のオプションを選んで、[OK]をクリックします。
- ダミー車両

フィールド記述

記述	用語解説
車両タイプ	品目の輸送に使用する車両のタイプ。 車両タイプにより、輸送モードが識別され、配送手配グループに割り当てられます。
車両シリアル No.	車両シリアル番号は、もうひとつの車両識別番号です。製造業者のシリアル番号で車両をトラッキングする場合によく使用します。これは固有の番号である必要があります。
所有者 No.	車両またはタンクを所有もしくは運営している組織の住所番号を識別します。所有者は、会社番号に割り当てられている住所番号である場合があります。
最大オドメータ値	走行距離計の最大値
印刷メッセージ	各印刷メッセージに割り当てるユーザー定義コード。祝日の営業時間や特殊配送指示、設計仕様など、さまざまなメッセージを印刷することができます。
メッセージ・タイプ	印刷メッセージを指定する場合、このメッセージの伝達方法を選択することができます。伝票にメッセージを印刷するか、または処理中にウィンドウにメッセージを表示するか、あるいはその両方を選択することができます。 有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 メッセージを表示する 2 メッセージを印刷する 3 メッセージを表示および印刷する

ダミー車両

実際の運搬用車両の代わりに、一時的に使用するダミー車両かどうかを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。

Y = ダミー車両である

N = ダミー車両ではなく実際の車両である

Y の代わりに“1”を、N の代わりに“0”を入力することもできます。

OneWorld では、ダミー車両にはチェックマークがつきます。

ダミー車両を割り当てると、配送ごとの積荷確認中に〈車両登録の入力〉ウィンドウが自動表示されます。この時点で、ダミー車両に登録番号を入力する必要があります。

処理オプション:車両の処理(P4930)

処理

1. 車両の追加時に、車両コンパートメント、車両ライセンス、車両設備の改訂フォームを表示するには“1”を入力してください。

改訂フォーム

車両ライセンスの設定

〈ライセンスの処理〉プログラム(P49020)で、車両のライセンスと登録情報、ライセンスと登録のタイプ、および有効日付を入力します。積荷作成プロセスの間に、システムでは必要に応じてこの情報を使用して、車両のライセンスと登録情報を検証します。

▶ 車両のライセンスを設定するには

〈車両の設定〉メニュー(G49413)から〈ライセンスの処理〉を選びます。

1. 〈ライセンスの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. ライセンスを設定する車両を選び、[選択]をクリックします。

3. 〈ライセンスの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。

- 登録/ライセンス No.
- 登録/ライセンスタイプ
- 発行機関
- 国
- 有効開始日付
- 有効終了日付
- メッセージタイプ
- 印刷メッセージ

フィールド記述

記述	用語解説
登録/ライセンス No.	ライセンス、許可証、または証明書に表示される ID 番号
登録/ライセンスタイプ	普通運転免許、安全訓練証明書、ヤード(屋外タンク)へのアクセス、ラックへのアクセスなど、必要な権限や文書のタイプを示します。
発行機関	このライセンスの発行を担当する代理店。電話番号と住所情報に使用できる住所番号です。
国	国を識別するユーザー定義コード(00/CN)。国コードは通貨換算には影響しません。住所録システムでは、データ選択および住所フォーマットに使用されます。

車両の使用不可日の設定

〈車両の処理〉プログラム(P4930)の状況コードと日付を使用して、車両の定期メンテナンスの予定、または使用不可を指示することができます。配送手配担当者はこの情報に基づいて、使用不可の車両へのオーダーやトリップの割当てを回避することができます。

▶ 車両の使用不可日を設定するには

〈車両の設定〉メニュー(G49413)から〈車両の処理〉を選びます。

1. 〈車両の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 車両の使用不可日を設定する車両を選びます。
3. [ロー]メニューから[使用不可]を選びます。

4. 〈車両使用不可日〉で、グリッドの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 車両状況
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付

フィールド記述

記述	用語解説
車両状況	定期メンテナンス(SRM)、機械故障中(MB)、衝突修理中(CR)など車両を使用できない理由を示すユーザー定義コード(49/VS)。

参照

- その他の車両情報、および車両情報を制御する処理オプションについては『輸送管理』ガイドの「車両マスター情報の設定」

接続車両の設定

〈接続車両の処理〉プログラム(P4935)を使用して接続車両を設定し、複数の車両を単一車両として設定して固有IDを与えます。複数の車両を接続する場合、次のような指定できます。

- 接続車両を構成する核車両の車両 ID
- 接続車両の ID 番号
- 車両タイプ(列車かトレーラーかなど)

▶ 接続車両を設定するには

〈車両の設定〉メニュー(G49413)から〈接続車両の処理〉を選びます。

1. 〈接続車両の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈接続車両の改訂〉で、次の必須フィールドに値を入力します。
 - 接続車両 ID
 - 事業所
 - 輸送モード
 - 重量単位
 - 容積単位
 - 容量単位
 - 車両 ID

3. 次の任意フィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。

- 有効開始日付
- 有効終了日付
- 配送手配グループ
- 2次配送手配グループ

フィールド記述

記述	用語解説
接続車両 ID	<p>接続車両 ID は英数字フィールドで、2 つ以上の車両を表します。ただし次のように異なる状況を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 2 つ以上の車両(列車車両や貨車など)が一時的に接続されて、列車を構成している場合○ 2 つ以上の車両(トラックやトレーラーなど)が、比較的長い期間(例えば 1 日、1 週間、1 ヶ月、またはそれ以上)に渡って接続されている場合
輸送モード	<p>得意先への商品運送に使用する運送業者の種類(鉄道や陸送など)をあらわすユーザー定義コード(00/TM)</p>
配送手配グループ	<p>配送手配グループを識別するユーザー定義コード。配送手配グループは製品の保管と輸送の際に重要となる製品の物理的な特質にしたがって製品をグループ化したものです。</p> <p>トリップ作成処理の際に、品目に対して正しい配送グループと車両が使用されているかどうかシステムによりチェックされます。正しい配送グループに属する製品のみが車両に割り当てられます。</p>
2次配送手配グループ	<p>配送を手配する製品をグループ化する際に輸送管理システムで使用するコード</p>

担当者の設定

輸送管理システムでは、デポまたは特定の車両の種類とその担当者を定義できます。デポを設定するときに、特定のデポ、作業内容、シフト、作業タイプ、有効日付、および失効日付を割り当てることができます。従業員が持っている資格に基づいて、担当者を特定のデポに割り当てます。特定のデポに従業員を割り当てることにより、どの輸送担当者がどこに配置されているのかをトラッキングできます。

従業員を特定の車両とシフトに割り当てることができます。また、有効日付と失効日付を設定できます。実施する作業の内容に応じて車両を扱う従業員を割り当てます。この方法は、自社の輸送部門で配送を担当する場合に特に役立ちます。

デポ/車両担当者の設定

〈デポ/車両担当者の処理〉プログラム(P49041)で担当者を割り振り、各担当者が行う作業に応じて車両を運用します。担当者は車両に対して割り当てることも、特定のデポに対して割り当てることもできます。この方法は、自社輸送部門の車両や運転担当者をトラッキングする場合に特に役立ちます。

車両の取扱い、または危険物などを輸送する場合に必要な特別な資格またはライセンスが必要な場合は、それらを所有している従業員に車両を割り当てることができます。

はじめる前に

- 住所録システムにデポと各担当者が登録されていることを確認します。『住所録』ガイドの「住所録レコードの作成と更新」を参照してください。
- 車両マスターに車両が設定されていることを確認します。『輸送管理』ガイドの「車両マスター情報の設定」を参照してください。

▶ デポ/車両担当者を設定するには

〈輸送管理セットアップ〉メニュー(G4941)から〈デポ/車両担当者の処理〉を選びます。

1. 〈デポ/車両担当者の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈デポ/車両担当者の改訂〉で、グリッドの次のフィールドに値を入力して [OK]をクリックします。
 - 担当者 No.
 - 担当者名
 - デポ
 - 職タイプ
 - 職務記述
 - 車両 ID
 - シフト

- 有効開始日付
- 有効終了日付

フィールド記述

記述	用語解説
担当者名	ユーザー定義名称または備考。
担当者 No.	担当者の住所番号を識別します
職タイプ	組織用の職務分類を示すユーザー定義コード(49/JT)。積荷および配送システムでは、定義した作業タイプは特に担当者用に使用されます。この値は、積荷および配送管理固定情報(F49001)で定義されます。トリップ設定には、作業タイプに定義された担当者が必要です。作業タイプはまた、車両/デポ担当者も定義します。
シフト	<p>日次作業のシフトを識別するユーザー定義コード(00/SH)。給与計算システムでは、シフト・コードを使用すると、パーセントまたは金額がタイムカードの時給に追加されます。</p> <p>給与計算と時間入力の場合： シフト・レート差異が適用できるシフトで従業員が作業する場合、[従業員マスター]レコードシフト・コードを入力します。[従業員マスター]レコードにシフト・コードを入力する場合、時間を入力する際にタイムカードにコードを入力する必要はありません。従業員がデフォルトとは異なるシフトで作業する場合は、各タイムカード上に正しいシフト・コードを入力します。</p>

輸送計画

輸送管理システムは、自社の出荷に関するあらゆるニーズに対応します。輸送計画は、ある出荷元から1つまたは複数の出荷先へ品目を輸送する日次処理で使用する機能を提供します。出荷の状況を表示したり、変更したりできます。オーダーの出荷前に必要な計画を立てることができます。

まず、受注オーダーを入力して受け入れます。すると、出荷が自動的に作成されます。出荷の改訂や追加を行ったり、出荷先が同じ方向にある複数の出荷を1つの積荷として混載することもできます。

出荷情報は次の方法で表示や操作ができます。

- 運送業者や輸送モードなどの配送経路やその他の情報を変更する
- 積荷に出荷を追加する
- オプションおよび設備を割り当てる
- 出荷貨物を追加、修正、および削除する
- 出荷運賃を表示、追加、または修正する
- 出荷の配送伝票を印刷する
- 出荷を承認または確認する

出荷とは

出荷とは、特定日に特定の出荷元(事業所またはデポ)から目的地(出荷先)に向けて発送する品目の計画配送のことをいいます。出荷は、パレット、箱、コンテナなど積載済みになっている個別の品目ごとに定義します。出荷の配送経路とレート/運賃および諸掛は、出荷の作成時にシステムによって設定されます。出荷にはオプションや設備を追加することができます。たとえば、出荷時にリフトゲートを使用する必要がある場合は、設備としてリフトゲートを割り当てることができます。

積荷とは

積荷は、配送のために準備された出荷から構成され、必ずしも同じ顧客へ輸送されるとは限りません。積荷を連結して出荷すると、運賃コストを抑えることができます。混載には4つのオプションがあります。

- トランザクション混載では、1つの出荷の単一トランザクションで追加や修整するオーダー行のみを混載できます。
- 複数オーダー混載では、1つの出荷の複数のトランザクションからのオーダー行を混載できます。
- 単一オーダー混載では、1つの出荷の同じオーダーに関連するオーダー行を混載できます。
- 混載なしでは、別々の出荷に個々のオーダー行を割り当てます。

積荷作成には集中配送の手配を作成する機能があるため、いったん中間の流通センターで積荷を受け取り、個々の最終的な目的地別に仕分けして出荷を配送することができます。出荷の場合と同様に、積荷も配送経路や料金を設定したり、オプションや設備を割り当てたりできます。

輸送プロセス・フローの理解

輸送プロセス・フローは、出荷の作成から確認を経て、最後に運賃情報を記録するまでの手順で実行されます。

出荷計画

出荷は、輸送管理システムの基本要素であり、輸送プロセスを開始します。受注管理システムでオーダーを入力すると、出荷が作成されます。受注オーダーを基にオーダーが出荷に投入されます。次に、当初の出荷元から最終的な出荷先に向けての出荷の移動レコードが作成されます。出荷が作成されると、次の内容が決定されます。

- 出荷の配送経路
- 出荷に必要な費用(料金設定)
- 顧客に対する出荷時期の見込み

出荷情報では、購買オーダーや顧客の返品など、インバウンド出荷の情報を入力できます。インバウンド出荷はアウトバウンド出荷の場合と同じように処理されます。

積荷作成

積荷とは、コストを削減し、配送経路を最適化する目的で、複数の出荷をまとめた集合体のことです。出荷の作成が済んだ段階で、出荷を積荷に組み込むことができます。運送業者または自社の輸送部門に依頼する積荷を作成することができます。基本的な積荷明細情報を入力したら、該当する積荷に組み込む個々の出荷を選択することができます。輸送モードおよび運送業者で構成される配送経路オプションを選ぶことができます。また、商品を効率的に輸送する上で必要となる具体的な積荷オプションと設備を選ぶこともできます。積荷を作成するときに、車両マスターを参照しながら、車両が具体的な配送条件に応じた設備を搭載しているかどうかを判断できます。製品情報を車両のコンパートメントに割り当てすることもできます。いったん積荷を作成した後は、出荷プロセスに似た手順を実行します。

承認

出荷と積荷を承認します。承認プロセスでは、出荷の情報や積荷に組み込まれた出荷を検討します。承認の済んだ出荷および積荷は、倉庫からピックアップして、車両に積み込むことができます。1度に複数の出荷を承認することができます。積荷の場合は、積荷全体を対象として承認します。積荷が承認された後は、この積荷に組み込まれた出荷がすべて自動的に承認されます。

確認

出荷を承認した後は確認を行います。出荷確認は、配送に向けて準備の整った出荷の数量と品目を検証するプロセスです。積荷確認は、積荷に割り当てられた個々の出荷を検証するプロセスです。出荷および積荷を確認した後で、これらの品目が在庫からリリースされます。

出荷および積荷をトラッキングする場合、トラッキング番号を入力しておけば、最終的な出荷先に向けて配送中の間にも、この番号により出荷や積荷がトラッキングできます。出荷はインターネットや電話、ファックスを通してトラッキングできます。

配送伝票の印刷

プロセスのさまざまな段階では、配送伝票、積荷メモ、などの配送伝票を印刷できます。また、積荷用出荷を確認する前、あるいは積荷を確認する前に配送伝票を印刷することもできます。出荷確認された後でも印刷できます。さらに、特定の伝票を印刷するデポも指定できます。

配送確認

配送確認の処理は、確認する内容によって異なります。配送確認の方法は次のとおりです。

出荷および貨物	出荷が配送された時点で、配送証明(POD)情報を記録することにより、出荷および個数の配送を確認することができます。
積送中の積荷	配送確認は、実際に配送した製品の数量を記録するのにも使用されます。また、車両に製品が残っている場合は、その処分を記録することができます。
バルク製品	残りの積荷を車両に残したまま増減を記録したり、在庫に返品したりできます。また、計画外配送を記録することもできます。
パッケージ製品情報	パッケージ製品の場合は、残りの積荷を車両に残したり、在庫に返品したりできます。また、計画外配送を記録することもできます。

運賃の更新

出荷、個数、および積荷を確認したら、運賃を更新することができます。運賃の更新プロセスでは、出荷見出し(F4215)、出荷経路ステップ(F4941)、および出荷料金(F4945)の各テーブルにある情報を運賃監査履歴テーブル(F4981)に移動することができます。運賃の更新を実行すると、買掛伝票が作成され、自動支払の運送業者に向けて総勘定元帳と買掛管理の両方にレコードが書き込まれます。自動支払運送業者でない場合は、一般会計システムにのみレコードが書き込まれます。

運賃監査

運賃の更新を実行した後、運賃監査を使用して、システムに記録された費用を照合して運送業者の請求書を監査することができます。

輸送出荷の計画

受注オーダー入力処理により作成された出荷は、必要に応じて改訂できます。顧客のニーズに応じて、いずれの出荷でも修正できます。デポと事業所間で物資を移動させる必要がある場合、手作業で新しい出荷を作成できます。また出荷のシミュレーションを作成して、運賃を見積もることもできます。

〈出荷の処理〉プログラム(P4915)を使用して、基本出荷見出し情報や配送経路情報を変更できます。
〈出荷の改訂〉フォームで、次の内容を改訂できます。

見出し情報	出荷の日付や時刻の他、出荷および積荷の重量、輸送モード、運送業者などの情報も改訂することができます。
配送経路情報	関連する原価や納期などの配送経路情報が改訂できます。
出荷貨物情報	出荷品目や個数に関する情報を改訂できます。出荷品目の例として、パレット、箱、および木箱があります。受注オーダーを入力した後で、出荷貨物情報を改訂することができます。
オプション/設備情報	オプションおよび設備の情報には、該当する出荷を輸送する際に必要な情報が含まれます。たとえば、出荷のオプションには、配送先倉庫内部への搬入のための補助用設備としてクレートの積下しに使用する台車などがあります。

オーダー入力時の出荷作成

受注オーダーまたは購買オーダーを入力すると、出荷伝票/行タイプ(49/SD)で定義したインバウンドまたはアウトバウンドの出荷が自動的に作成されます。このコードは、4文字の英数字で構成され、上2桁はオーダー・タイプ、3桁目と4桁目の文字は行タイプを表します。オーダー行のうち行タイプがユーザー定義コードに一致する行に対してのみ作成されます。

出荷は、事業所、出荷先の住所と品目に関する出荷情報に基づいて、オーダー入力時に作成されます。

注:

出荷情報は、オーダー入力中に編集できます。ただし、いったんオーダーを受け入れた後は、〈出荷の改訂〉フォームで出荷明細情報を修正できなくなります。出荷情報を修正するには、受注オーダーを編集してください。

▶ オーダー入力時の出荷作成

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈受注明細の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- オーダー・タイプ
- 事業所
- 出荷先 No.
- オーダー数量
- 品目 No.

3. オーダーを受け入れる前に出荷情報を検討するには、該当するローを選び、[フォーム]メニューから[貨物情報]を選びます。

〈オーダー別出荷の処理〉の出荷情報が表示されます。[ロー]メニューから該当するオプションを選択することで、次の処理を実行することもできます。

- 配送指示の検討
- 詳細行の追加または削除
- 出荷貨物の修正
- オプションおよび設備に関する情報の検討
- 配送経路情報の修正

4. 〈受注明細の改訂〉で[OK]をクリックします。

オンライン請求書による運賃の見積り

オーダーが完了したら、支払諸掛運賃をオンラインで見積もることができます。そのオーダーに対して合計見積運賃が表示されます。オーダーで作成された出荷の料金が料金テーブル(F4945)を使って計算されます。

▶ オンライン請求書で運賃を見積もるには

〈受注オーダー処理〉メニュー(G4211)から〈受注明細〉を選びます。

1. 〈受注残および完了オーダー照会〉で、[検索]をクリックします。
2. 運賃を見積もるオーダーを選び、メニューから[オーダー] - [オンライン請求書]を選択します。

〈オンライン請求書の処理〉が表示され、そのオーダーに対しての見積運賃を検討することができます。

出荷情報の改訂

〈出荷の処理〉プログラム(P4915)を使用して出荷を作成した後で、その出荷を訂正できます。出荷の改訂は通常、次の例のような特定の状況で変更が必要になった場合に行います。

- 約束納入日や納入時刻を変更する必要があるとき
- 出荷経路を複数の区間に分ける必要があるとき

さらに次の内容を変更できます。

- 重量および容量の情報
- 輸送モード
- 運送業者番号
- 取扱いコード
- 測定

出荷が特定の状況に達すると、更新できなくなる情報があります。たとえば、支払運賃や請求運賃が最終的に更新された場合、出荷情報が保護されるため、変更できなくなります。通常、この出荷に含まれる情報のほとんどは編集が可能です。

〈出荷の改訂〉フォームには、出荷される具体的な製品と出荷数量に関する情報が含まれています。出荷明細の情報は、受注オーダーを基に作成されます。一度、受注オーダーを入力した後は、出荷に関する明細情報を修正したり、追加したりすることはできません。

セルフサービス・モードを設定すると、配送サービスを提供する仕入先が出荷を参照することができます。このセルフサービス・モードを使用すると、保留中または承認された出荷の情報をトラッキングできます。コミュニケーションが促進されることで、仕入先との関係もよくなります。仕入先セルフサービス・モードのアウトバウンド運送業者レート表を使用すると Web 上で出荷を検討できます。処理オプションでアウトバウンド運送業者レート表を使用可能にすると、仕入先と運送業者は自社に割り当てられた出荷を照会することができます。仕入先または運送業者には出荷情報の改訂はできません。

▶ 出荷情報を改訂するには

〈出荷および積荷〉(G4911)から〈出荷の処理〉を選びます。

または、セルフサービスで、〈仕入先セルフサービス〉メニュー(G43S11)の〈アウトバウンド運送業者積荷情報〉を選択して、出荷が配送のどの段階にあるかを確定します。

1. 〈出荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 改訂する出荷を選び、[選択]をクリックします。

The screenshot shows the PeopleSoft 'Outgoing Information Modification' (出荷情報の改訂) screen. The interface includes a title bar with 'PeopleSoft.' and a toolbar with 'OK', 'キャンセル', 'フォーム', and 'ツール'. Below the toolbar are tabs for '出荷の改訂', '日付/時刻', and 'その他'. The main form area contains several sections of input fields:

- 出荷データ:** 出荷No. (30), 出荷元 (0 - Other / Outbound), 状況 (10 - Pending), 出荷No. (35), 配送経路ステップ No. (1.0), 配送経路ステップ数 (1).
- 出元/先情報:** 出元元 (6040 - Southern Distribution Center), 出荷先 (4242 - Capital System), 販売先 (4242 - Capital System), 市 (Atlanta), 郵便番号 (30342), 都道府県 (GA), 国 (US).
- 経路/区域:** 経路コード (Blank - Route Code 42RT), 配送区域No. (Blank - Shipping Zone 40ZN).
- 重量および容量:** 出荷重量 (400.0000 - LB), 計画容量 (134 - FC).

3. 〈出荷情報の改訂〉で、[出荷の改訂]タブのいずれかのフィールドを改訂します。

- 経路コード
- 配送区域 No.
- 出荷重量
- 計画容量

4. [日付/時刻]タブで、次のいずれかのフィールドをクリックします。

- 出荷予定日/時刻
- 納入約束日/時刻
- 最早集荷日
- 最終集荷日

- 集荷開始時刻
 - 集荷終了時刻
 - 計画積荷時間(分)
 - 最早配送日
 - 最終配送日
 - 配送開始時刻
 - 配送終了時刻
 - 計画荷下し時間
5. [その他]タブで、次のいずれかのフィールドをクリックします。
- 輸送モード
 - 運送業者 No.
 - 貨物/運賃取扱コード
 - 個数
 - コンテナ数
 - ドックID
6. [フォーム]メニューから[追加情報]を選びます。
7. <その他出荷の改訂>で、フィールドを検討し、必要な変更を加えます。
長さ、幅、周囲寸法、高さなどの測定基準を基にレート設定されている場合は、ここに該当する情報を入力する必要があります。
8. [OK]をクリックして<出荷の改訂>フォームに戻ります。
9. <出荷の改訂>で、[フォーム]メニューから[明細]を選んで、出荷の明細を検討します。
10. <出荷明細>で、情報を検討して[OK]をクリックします。

参照

- 受注オーダーを入力または改訂するときの出荷の作成方法については『受注管理』ガイドの「明細情報の処理」

フィールド記述

記述	用語解説
出荷重量	出荷重量は、重量修飾子(WGQ)で修飾され、重量タイプを識別します。
計画容量	積荷またはコンパートメントに積載予定の容量
出荷予定日/時刻	受注オーダーの出荷約束日付。 これは品目を倉庫から出荷できる日付です。
納入約束日/時刻	得意先に品目が納入される日付になります。
運送業者 No.	住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。 たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに"*JDEDWARDS"と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。
貨物/運賃取扱コード	輸送管理システムでは、貨物/運賃取扱コードの最初に位置する次の値を使って運賃の負担元を指定します。 <ol style="list-style-type: none">"1"は運賃が正しく、荷受人が運賃を負担することを表す。 輸送管理システムでは、アウトバウンド出荷に対して先方払いの運賃は計算されません。"2"は運賃が事前に支払われており、出荷元が運賃を負担することを表す。 輸送管理システムでは、アウトバウンド出荷に対して運賃が計算されますが、請求対象の運賃は計算されません。 取扱コードの最初に位置し、上記以外のコードは、運賃は前払い/追加で、出荷元が運賃を負担することを表します。 輸送管理システムでは、請求運賃と支払運賃の両方が計算されます。
個数	出荷を構成する貨物、パレット、コンテナなどの数。 出荷品目テーブル(F4943)に定義されている品目情報がない出荷については、トランザクション計量単位での数量を出荷計量単位の数量に換算して個数が計算されます。個数を整数で表すために、計量単位に切捨てが適用されます。全明細行の残数量の重量と容量が合計され、この合計は1個あたりの重量および/または容量で除算されます。この計算結果は次の整数に切り上げられます。この数値を整数に加算して、個数が求められます。
コンテナ数	出荷コンテナ、パレットなどの数。

出荷貨物の定義

出荷品目は、パレット、箱、クレート、その他の出荷コンテナのいずれであってもかまいません。たとえば、鉄鋼の梁や機材などの品目があります。〈出荷の処理〉プログラム(P4915)の〈出荷の改訂〉フォームを使って、特定の出荷に対して1つまたは複数の品目を定義することも、個々の品目に重量や寸法の情報を指定することもできます。品目の個数に影響されるレート設定や、運送業者や政府機関が品目の情報を要求する場合は、単に個数情報を指定するだけでもかまいません。

個数情報は、出荷品目の個数をトラッキングする必要がある場合、または出荷を完了する際に顧客が個数情報を必要としている場合にも入力できます。

〈出荷確認〉プログラム(P4205)で出荷コンテナの内容、または個数が定義されます。システムは、出荷の重量をすべての出荷貨物の合計であると解釈します。

注:

出荷貨物テーブル(F4943)で個数情報が定義されていない出荷の場合、トランザクション計量単位の数量を出荷計量単位に変換して品目の予定個数が計算されます。次の計算が実行されます。

- 整数で個数を表す場合、計量単位は切捨てによって丸められます。
- 全明細行の重量と容量の端数を加算して、その合計は個数の最大重量または最大容量で除算されます。
- 生成された個数の重量または容量は、次の整数に切り上げられます。
- この数字が整数の個数に加算されて、計算個数になります。

▶ 出荷貨物を定義するには

〈出荷および積荷〉(G4911)から〈出荷の処理〉を選びます。

1. 〈出荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 品目を定義する出荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[改訂]-[貨物]を選びます。

PeopleSoft.

出荷貨物の改訂

OK 削除 キャンセル ロー ツール

事業所 出荷日付
 出荷No. 状況 Pending
 出荷先住所 Capital System
 運送業者No.

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	順序	コンテナ コード	総 重量	重量 単位	容積	容積 単位	コンテナ ID	車両 重量	参照 No.	参照No. 修飾子
<input checked="" type="checkbox"/>	1			LB		FC				

4. 〈出荷貨物の改訂〉で、グリッドの次のフィールドに値を入力して [OK]をクリックします。

- 順序
- コンテナコード
- 総重量
- 重量単位
- 容積
- 容積単位
- コンテナ ID
- 車両重量
- 参照 No.
- 参照 No.修飾子
- 長さ
- 幅
- 高さ
- 周囲寸法

- 寸法単位
- 自重 SSCC

フィールド記述

記述	用語解説
順序	OneWorld では、有効な環境が表示される順番をユーザーが設定する順序です。 World では、ユーザーが定義する順番でレコードを処理する際に使用される順序またはソート番号です。
コンテナコード	保管コンテナまたは出荷カートンを識別するコード(46/EQ)。保管コンテナには、コンテナの上に品目を保管するオープン型コンテナ(パレットなど)や、中に品目を保管する梱包型コンテナ(箱など)があります。〈コンテナ/カートン・コード〉プログラム(P46091)を使用して、保管コンテナを定義してください。
総重量	この計量単位における品目 1 単位の総重量、または空の保管コンテナ/出荷カートンの重量を表します。この値は〈保管場所詳細管理〉プログラム(P4602)にデフォルト値として入力され、貯蔵時に指定保管場所の最大重量を計算するときに使用されます。
容積	この品目の容積を示し、品目マスターの改訂プログラムで計算されます。
容積単位	この品目の容量に使用される計量単位を識別するユーザー定義コード(00/UM)。容量基準としては立方センチ、リットル、ガロンなどを指定できます。品目にこの計量単位を使用することも、個別の品目またはコンテナに対して計量単位を一時変更することもできます。
コンテナ ID	購買オーダーまたはオーダー行の品目が出荷されたときのコンテナのコード。入荷の入力中にコンテナ情報をオーダーに割り当てることができます。
車両重量	車両に認可されている重量。燃料は含まれますが、積荷は含まれません。
参照 No.	特定の EDI トランザクション・セットに対して定義されたか、または参照番号修飾子によって指定された参照番号または識別番号になります。
参照 No.修飾子	参照番号を修飾するコードです。EDI X12 データ・エレメント 128 に準拠する値を使用してください。
長さ	出荷貨物の長さ
幅	出荷貨物の幅
高さ	出荷貨物の高さ
周囲寸法	出荷貨物の周囲寸法
寸法単位	車両の幅、高さ、または長さの計量単位。

自重 SSCC

標準のコンテナ・コード(SSCC)。
これは、SCC(出荷コンテナ・コード)番号の UCC と一致する必要があります。

出荷へのオプションおよび設備の割当て

標準操作の他にも、必要に応じてオプションと設備を割り当てることができます。オプションと設備は手入力での追加、変更、または削除することができます。

オプションと設備は、オーダー行レベル、配送レベル、または積荷レベルのいずれかで保管することができます。

オーダー行レベル 各行に対して必要なオプションが 1 回表示されます。

配送レベル 1 つの配送に対してオプションは 1 回表示され、関連する変更は 1 回だけ査定されます。

積荷レベル 1 つの積荷に対してオプションは 1 回表示され、関連する変更は 1 回だけ査定されます。

レート表およびレート設定を通じて、オプションに対して請求される/支払われる費用が査定されます。指定されたオプション、または設備が実際に出荷や積荷で適用された場合に限って費用を計算するように指定できます。

参照

- 配送経路のオプション設定については、『輸送管理』ガイドの「配送経路の設定」
- レートのオプション設定については、『輸送管理』ガイドの「レートと定義のセットアップ」

▶ 出荷にオプションおよび設備を割り当てるには

〈出荷および積荷〉(G4911)から〈出荷の処理〉を選びます。

1. 〈出荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. オプションと設備を割り当てる出荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[改訂]-[オプション/設備]を選びます。
4. 〈出荷/積荷オプションおよび設備の改訂〉で、グリッドの次のフィールドに値を入力して [OK]をクリックします。
 - オプション/設備
 - 配送行
 - オーダーNo.
 - オーダータイプ
 - 行 No.

フィールド記述

記述	用語解説
配送行	運賃の計算を明細行ごと、配送ごと、または積荷/トリップごとに行うかどうかを指示します。 有効な値は次のとおりです。 D 配送ごと L 明細行ごと T 積荷/トリップごと
行 No.	購買オーダーまたはその他の伝票の行番号など、発生頻度の高い番号を識別します。通常、システムでこの番号が割り当てられますが、一時変更できる場合もあります。

配送経路オプションの検討

出荷の配送経路オプションを検討して、使用する運送業者およびモードを決めます。配送経路オプションには、使用可能な経路ごとのコストと配送時刻/日付に関する情報が含まれます。各運送業者に対し、原価に基づいてこれらの条件に優先順位をつけます。特定の配送経路オプションを選択して、出荷の配送経路とレート設定情報を更新することができます。

また、出荷または積荷に現在割り当てられている配送経路も確認できます。配送経路が割り当てられていない場合、〈配送経路オプション〉プログラムの〈配送経路オプションの処理〉フォーム(P4980)で最適な配送経路の横にチェックマークが表示されます。

参照

- 受注オーダーで配送経路を割り当てる方法については『受注管理』ガイドの「明細情報の処理」

▶ 配送経路オプションを検討するには

〈出荷および積荷〉(G4911)から〈出荷の処理〉を選びます。

1. 〈出荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 検討する積荷を選んで、[ロー]メニューから[配送経路オプション]を選びます。
3. 〈配送経路オプションの処理〉で、出荷に適用する運送業者と輸送モードを選びます。

ローが出荷または積荷にすでに割り当てた配送経路を含む場合、チェックマークが表示されます。配送経路の割当てがない場合、推奨配送経路の横にチェックマークが表示されます。

4. 出荷の配送経路を選んで、[選択]をクリックします。

出荷の承認

輸送管理システムで、出荷を承認することができます。出荷を承認すると、保護状況になります。承認済み出荷は変更できません。運送業者とオーダーにも保護がかかります。また、承認された出荷にオーダーが自動追加されたり、承認済み出荷の配送経路が自動的に変更されたりすることはありません。出荷が承認されると、受注オーダー行が「次の状況」に進みます。倉庫管理システムを使用している場合、出荷が承認された時点で倉庫要求が生成されます。

注:

インバウンド出荷の場合、購買オーダーまたは返品オーダーが承認される前に、出荷の配送経路を設定または決定することができます。輸送管理システムでは、アウトバウンド出荷の場合と同じように、インバウンド出荷の状況を承認済みに変更できます。

はじめる前に

- 出荷状況(41/SS)で出荷の各状況が、承認済み、未承認、一時保留の各状況に定義されていることを確認してください。

参照

- 出荷を承認する前に出荷情報を改訂する方法については『輸送管理』ガイドの「出荷情報の改訂」
- 承認されたときのオーダー処理順序定義の設定については『受注管理』ガイドの「オーダー処理順序定義の設定」

▶ 出荷を承認するには

〈出荷および積荷〉(G4911)から〈出荷の処理〉を選びます。

1. 〈出荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 承認する出荷(複数可)を選んで、[ロー]メニューから[出荷承認]を選びます。
3. 〈出荷承認〉で、[OK]をクリックして出荷を承認します。

処理オプション:出荷の処理(P4915)

表示タブ

表示する出荷情報のタイプを指定します。

1. 開始出荷状況

出荷状況コードの範囲の開始値を指定します。

2. 配送経路状況

ブランク = すべての状況を表示

0 = 配送経路が設定された出荷を表示

1 = 配送経路が未設定の出荷を表示

9 = 配送経路を設定できない出荷を表示

表示される出荷経路情報を指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = すべての出荷を表示

0 = 配送経路指定済み出荷を表示

1 = 配送経路未定の出荷を表示

9 = 配送経路を指定できない出荷を表示

3. 積荷出荷

ブランク = すべて表示

1 = 積載されていない出荷を表示

すべての出荷、または積荷されていない出荷のみを表示するかを選びます。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = すべての出荷を表示

1 = 積載されていない出荷を表示

4. 配送経路ステップ

ブランク = すべて表示

1 = 各出荷の最初の配送経路ステップのみを表示

配送経路ステップをどう表示するかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = すべての配送経路ステップを表示

1 = 最初の出荷の配送経路ステップのみを表示

5. 保留の受注オーダーを含む出荷の識別

-
- 1 = <出荷処理>ウィンドウで保留中
 - 2 = <出荷明細の改訂>ウィンドウで保留中
 - 3 = 両方のウィンドウで保留中

出荷が保留の受注オーダーを含んでいることを知らせる通知(色を変えることで通知)を含むフォームを指定します。有効な値は次のとおりです。

- 1 = 出荷の処理フォームで通知を表示
- 2 = 出荷明細フォームで通知を表示
- 3 = 両方のフォームで通知を表示

処理タブ

手入力での出荷作成を可能にするなどのアクティビティを指定します。

1. 出荷の作成

ブランク = 作成不可

- 1 = 手作業で出荷の作成可

出荷を手作業で作成できるようにするかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 手作業での作成を許可しない

- 1 = 手作業での作成を許可

2. 保護された出荷の状況

ブランク = 輸送固定情報から確認済出荷状況を使用する

変更のできなくなる出荷状況を指定します。

ブランクの場合、<輸送固定情報>プログラム(P49002)からの確認済み出荷状況が使用されません。

3. 最小の出荷状況 - 配送伝票の印刷

配送伝票を印刷するための最小出荷状況番号を指定します。

- 4. 最小の出荷状況 - 配送確認(必須)

配送を確認するための最小出荷状況番号を指定します。

- 5. 最大出荷状況 - 配送確認(必須)
-

配送を確認するための最大出荷状況番号を指定します。

6. セルフサービス・モード

blank = 使用しない

1 = 顧客セルフサービス・モードを Java/HTML で使用

2 = 運送業者セルフサービス・モードを Java/HTML で使用

セルフサービス機能を有効にするかどうか、また Java/HTML のユーザー用に有効にできるセルフサービス機能のタイプを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = カスタマー・セルフサービス機能を有効にしない

1 = 顧客セルフサービス機能を有効にする

2 = 運送業者セルフサービス機能を有効にする

承認タブ

受注オーダーの次の状況や承認済出荷状況を一時変更できるようにするなどの承認処理情報を指定します。

1. 受注オーダーの「次の状況」の更新

blank = 更新する

1 = 更新しない

受注オーダーを含む出荷が承認される時、受注オーダーの次の状況を更新するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 更新する

1 = 更新しない

2. 受注オーダー「次の状況」の一時変更

blank = オーダー処理順序定義を使用する

受注オーダーを含む出荷の承認時に使用される一時変更の次のオーダー状況を指定します。

blank にすると、オーダー処理順序定義(P40204)に定義されている「次の状況」が使用されます。

3. 倉庫要求処理モード

blank = ピッキング要求なし

- 1 = 要求を生成するのみ
- 2 = 要求を生成し、サブシステムを使用して処理

アウトバウンド受注オーダーを含む出荷のピッキング要求を生成するかどうか、またサブシステムを使用して要求を処理するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = ピッキング要求を生成しない

- 1 = ピッキング要求のみ生成する
- 2 = ピッキング要求を生成し、サブシステムで処理する
- 4. ピッキング要求処理プログラム(R46171)のバージョン

ピッキング要求の処理に使用される(保管場所選択ドライバ)プログラム(R46171)のバージョンを指定します。

blankにすると、XJDE0007が使用されます。

5. 返品承認が必須となるオーダー・タイプ

blank = 必須ではない

- 1 = 返品オーダーで必須
- 2 = 購買オーダーで必須
- 3 = 返品/購買オーダー両方で必須

インバウンドの出荷承認の前に要求される有効な RMA(返品承認)のオーダー・タイプを指定します。有効な値は次のとおりです。

1 = 返品オーダー

2 = 購買オーダー

- 3 = 返品オーダーと購買オーダー両方
- 6. 購買オーダー「次の状況」の更新

blank = 更新する

- 1 = オーダー「次の状況」の更新を行わない

購買オーダーを含む出荷が承認された際に、オーダーの次の状況を更新するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 更新する

1 = 更新しない

7. 購買オーダー「次の状況」の一時変更

ブランク = オーダー活動規則を使用する

購買オーダーの一時変更の「次の状況」を指定します。

購買オーダーを含む出荷が承認された際に、一時変更の「次の状況」が適用されます。

ブランクにすると、オーダー処理順序定義(P40204)に定義されている「次の状況」が使用されます。

8. 一時変更用購買オーダー「次の状況」 - 未承認(将来使用)

将来使用。

購買オーダーを含む出荷の承認時に使用される一時変更のオーダーの次の状況を指定します。

バージョン・タブ

輸送管理、受注管理、および倉庫管理のさまざまなプログラムのバージョンを指定します。

1. 積荷作成 (P4960)

ブランク = 'ZJDE0001'

輸送で使用される<積荷の処理>プログラム(P4960)のバージョンを指定します。

ブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

2.<出荷トラッキング>プログラム(P4947)

ブランク = ZJDE0001

輸送で使用される<輸送出荷確認>プログラム(P49645)のバージョンを指定します。

ブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

3. <輸送出荷確認>(P49645)

blank = ZJDE0001

<輸送出荷確認>プログラム(P49645)のバージョンを指定します。

blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

4. <配送確認>プログラム(P49650)

blank = ZJDE0001

<配送確認>プログラム(P49650)のバージョンを指定します。

blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

5. <配送伝票>プログラム(P49590)

blank = ZJDE0001

伝票制御処理オプションを取り出すために使用される<伝票印刷(オンライン)>プログラム(P49590)のバージョンを指定します。

blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

6. <UCC128 出荷編集>プログラム(R42071)

blank = ZJDE0001

<バッチ出荷編集>プログラム(R42071)のバージョンを指定します。

blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

7. <梱包確認詳細>プログラム(P4216)

blank = ZJDE0001

<梱包確認明細>プログラム(P4216)のバージョンを指定します。

blankにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

8. 優先プロファイル(R40400)

blank = ZJDE0001

優先情報の選択フォームで設定した優先情報に基づいたオーダーの処理に使用される優先プロファイル・プログラム(P42520)のバージョンを指定します。blankにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

9. 受注オーダー入力(P4210)

ブランク = ZJDE0001

出荷の処理(P4915)からの転送で使用される受注オーダー詳細(P4210)のバージョンを入力します。

ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

10. ピッキング要求の処理(R46171)

ブランク = XJDE0007

ピッキング要求の処理に使用される〈保管場所選択ドライバ〉プログラム(R46171)のバージョンを指定します。

ブランクにすると、XJDE0007が使用されます。

11. カートン推奨 (P4615)

ブランク = ZJDE0001

J.D. Edwards により予約されています。

〈カートン推奨〉プログラム(P4615)のバージョンを指定します。

ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

手入力での出荷調整タブ

他の出荷に移すオーダー行の情報を指定します。

1. オーダー行選択の出荷状況

ブランク = 輸送固定情報から確認済出荷状況

J.D. Edwards により予約されています。

出荷状況が理由で、既存の出荷から新しい出荷へオーダー行を移動できないときを示します。

処理オプションの値がそれ以上の状況にある出荷のオーダー行は、新しい集荷へ移動できません。

有効な値は、出荷状況(41/SS)のユーザー定義コードから選択されます。

ブランク = 〈輸送固定情報〉プログラム(P49002)から確認済み出荷状況

2. オーダー行選択の受注オーダー「次の状況」

blank = 選択肢は出荷状況オーダー行選択の処理オプションにより決定される

将来使用。

出荷状況オーダー行選択処理オプションと連結して使用して、受注オーダーの次の状況が理由でオーダー行が既存の出荷から新しい出荷へ移動できないときを示します。

処理オプションの値がそれ以上の「次の状況」のオーダー行は、新しい集荷へ移動できません。

処理オプションの状況が、確認済み出荷の受注オーダー行の次の状況を超えている場合、オーダー行の選択はできません。

有効な値は、ユーザー定義コードの活動/状況コード(40/AT)から選択されます。

blankは、選択の可能性は、出荷確認オーダー行選択処理オプションによって決まることを示します。

3. 手入力出荷調整のための手入力出荷作成

blank = 作成できない

1 = 作成できる

将来使用。

受注オーダー行を手作業で作成した出荷に追加できるかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 追加できない

1 = 追加できる

積荷の処理

積荷は、1つまたは複数の出荷元から1つまたは複数の出荷先に向けて輸送する1つまたは複数の出荷品目から構成されます。一般的な運送業者の場合、積荷は一般に車両タイプに対応し、出荷を集荷する予定になっている車両の積載量情報を提供します。自社の輸送部門を使用する場合、積荷は通常、実際の車両に対応して1回のトリップとして定義されます。トリップとは、具体的な日時に予定された物理的な車両の移動のことです。

積荷には、次のトランザクション・タイプの組合せから構成された複数の出荷が含まれます。

- 通常の受注オーダーの配送
- 直送オーダーの集荷と配送
- 転送オーダーの配送
- 顧客の返品集荷

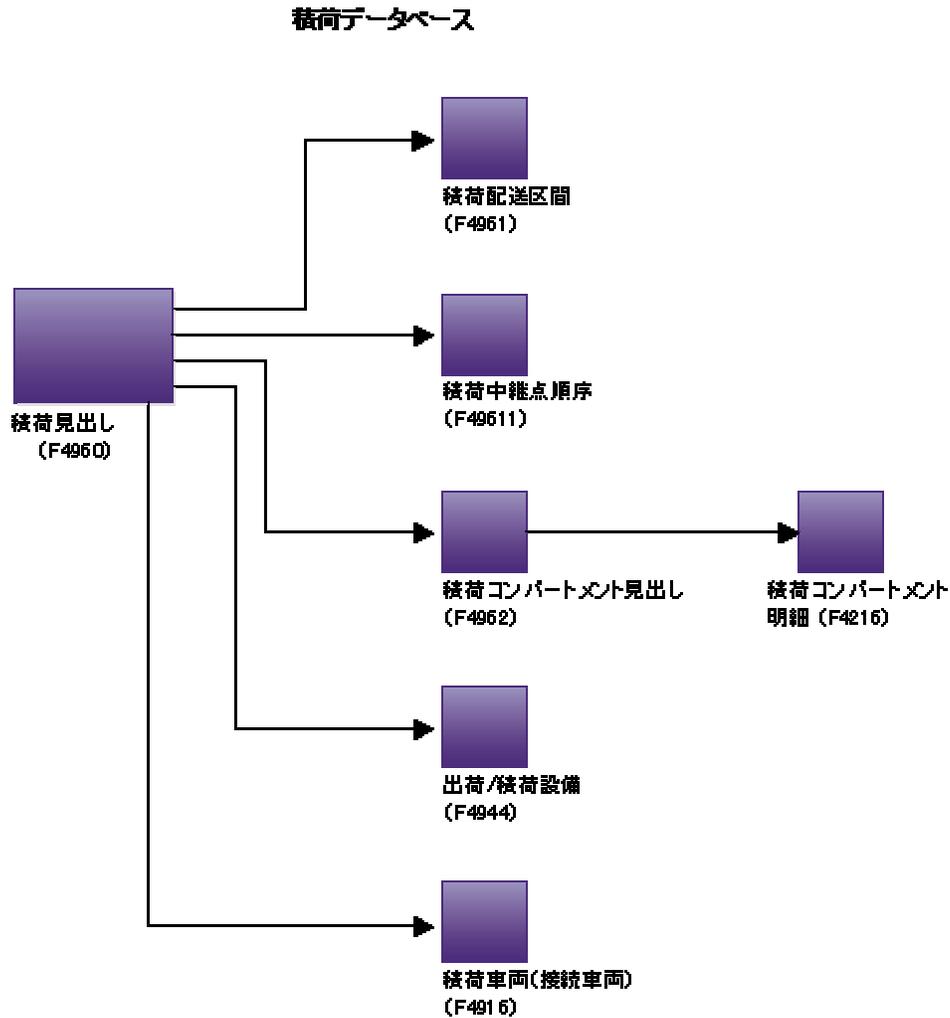
積荷を使用して、物流センターに送る出荷品目の集中配送を手配することができます。集中配送では、中間出荷先として積荷の出荷先を定義します。積荷が検証され、集中配送の積荷が車両と他の積荷製品の混載に適していることが確認されます。

積送中の在庫は積荷ごとにトラッキングすることができます。積送中の在庫のトラッキングは通常、目的地渡し(FOB)の出荷、または転送用の出荷に限って必要になります。出荷品目をまとめて積荷にする場合に、積荷確認と配送確認を別々に行うことで、この2つの確認処理で、製品の数量を(在庫管理システムと一般会計システムの両方で)記録することができます。

出荷品目をまとめて積荷にする他に、次のことができます。

- 積荷のレートを設定する
- 積荷を異なる配送先へ配送する
- 積荷に必要なオプションや設備を変更する
- コンパートメントに製品を割り当てる
- 積荷メモまたは積荷生成レポートを印刷する
- すべての出荷が積荷されていることを確認する
- 積荷されているすべての出荷の配送伝票を印刷する

次の図では、積荷情報を入力したときに更新されるテーブルを表しています。



積荷の作成

積荷の作成を使用して、複数の出荷を1台の車両にまとめることができます。当日の終わりまで待ってから、作成するすべての積荷を最終的に承認することができます。これにより、積荷が積載量上限にまで積載されるため、最も効率的な輸送が可能になります。

積荷を作成する場合は、積荷の属性を定義してください。積荷の作成では、事業所、積荷日付(積載日)、シフト、車両、または車両タイプ、輸送モード、その他の情報を指定します。自動採番機能を使用して各積荷に特定の番号を割り当てます。

積荷の作成には、積荷が作成されるデポと最終配送先を含むことができます。積荷の起点をあるデポに指定して、別のデポで実際の積載を行うこともできます。同様に、積荷の最終配送先と車両の戻り先を別々に指定することもできます。

〈出荷の処理〉フォームで出荷を選択して、積荷に出荷品目を追加します。積荷見出しと、車両または車両タイプの基準に合う場合にのみ、出荷品目を積荷に追加できます。たとえばパッケージ製品の出荷は、バルク製品用コンパート車両を使用する積荷には追加できません。この場合、システムにより製品が共存可能であるかどうかを確認されます。積荷に出荷品目を追加すると、この追加順に従って、各出荷に中継点順序が割り当てられます。積荷の最終地点が最終目的地となります。

積荷に対しては、オプションおよび設備情報を割り当てることができます。オプションおよび設備は積荷レベルでは割り当てられますが、出荷レベルでは割り当てることができません。たとえば、ある積荷で特定の担当者の署名や料金の回収が必要な場合は、その情報を積荷に割り当ててはできませんが、個々の出荷に割り当ててはできません。

〈積荷の処理〉フォームからは、別のフォームにアクセスしたり、より具体的な情報を入力したりできます。たとえば、特定のコンパートメント割当ての入力、積荷費用の検討、または積荷に適用する料金を入力できます。

最終的な出荷先が1つの積荷や、計画外配送を含め複数の出荷先を持つ積荷を作成できます。計画外配送を含む積荷を作成するには、トラックに積み込む架空のオーダーを設定する必要があります。この架空のオーダーは、ダミー・オーダーまたは疑似オーダーと呼ばれており、トラックに積載する場合に使われます。その後、配送確認を完了すると、配送顧客、配送数量および製品を入力します。

▶ 積荷を作成するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷作成〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈積荷見出しの改訂〉の見出しで、次のフィールドに値を入力します。
 - 計画デポ
 - 参照
 - シフト・コード
 - 積荷タイプ
3. [車両]タブをクリックして、次のフィールドに値を入力します。
 - 基本車両 ID
 - 車両タイプ
4. 次のいずれかのフィールドに情報を入力します。
 - 表示順序 No.
 - 輸送モード
 - 運送業者 No.
 - 経路コード
 - 配送区域 No.

5. 次のうち必要なオプションを選択します。
 - 輸送モード変更
 - 運送業者変更
6. [出荷元/出荷先]タブをクリックして、次のフィールドに値を入力します。
 - 出荷デポ
 - 出荷元 No.
 - 出荷先デポ
 - 出荷先住所 No.
 - 中間出荷先

いずれかのフィールドを空白のままにしておくと、出荷品目を積荷に追加する時点でデフォルト値が入力されます。

7. [追加]タブをクリックして、次のフィールドに値を入力し、[OK]をクリックします。
 - 配送手配グループ
 - 配送手配タイプ
 - 処分
 - 積込ライン No.
 - 重量計量単位
 - バルク容量計量単位
 - 容積計量単位
 - 接続車両
8. 〈積荷明細 - 出荷〉で、[フォーム]メニューから[出荷選択]を選びます。
9. 〈出荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
10. 作成する積荷に適用する出荷を選びます。
11. [ロー]メニューから、[積荷]-[出荷の選択]を選びます。
12. [閉じる]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
計画デポ	トリップの開始地点となるデポ。トリップデポとトリップ番号フィールドで、車両、登録番号、積荷日付、シフトの固有の組合せを識別します。
参照	相互参照番号または 2 次参照番号として使用する英数値です。通常は、得意先番号、仕入先番号、または作業番号になります。

シフト・コード	<p>日次作業のシフトを識別するユーザー定義コード(00/SH)。給与計算システムでは、シフト・コードを使用すると、パーセントまたは金額がタイムカードの時給に追加されます。</p> <p>給与計算と時間入力の場合： シフト・レート差異が適用できるシフトで従業員が作業する場合、[従業員マスター]レコードシフト・コードを入力します。[従業員マスター]レコードにシフト・コードを入力する場合、時間を入力する際にタイムカードにコードを入力する必要はありません。従業員がデフォルトとは異なるシフトで作業する場合は、各タイムカード上に正しいシフト・コードを入力します。</p>
積荷タイプ	<p>積荷作成および確認処理で積荷がどのように取り扱われるかを制御するコード。</p> <p>積荷タイプは、積荷タイプテーブルで定義されます。</p>
基本車両 ID	<p>接続車両中の基本車両番号か、単一車両の番号を示します。</p>
車両タイプ	<p>品目の輸送に使用する車両のタイプ。</p> <p>車両タイプにより、輸送モードが識別され、配送手配グループに割り当てられます。</p>
輸送モード	<p>得意先への商品運送に使用する運送業者の種類(鉄道や陸送など)をあらわすユーザー定義コード(00/TM)</p>
運送業者 No.	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。</p> <p>たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに"*JDEDWARDS"と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。</p>
経路コード	<p>経路フィールドは、得意先までの配送経路を表すユーザー定義コード(42/RT)です。このフィールドは、運賃の集計に使用されるフィールドの1つで、オーダーに含まれる予定の運賃を計算します。</p> <p>ピッキングでは、経路コードを中継点コードと区域コードとともに使用して、経路が指定された配送車両に積載するすべての品目をグループにまとめます。</p> <p>これらのフィールドの各デフォルト値は〈得意先請求指示〉で設定します。</p>

配送区域 No.	得意先の所在地である配送区域を表すユーザー定義コード(40/ZN)。このフィールドは運賃の集計に使用されるフィールドの1つで、オーダーに含まれる予定の運賃を計算します。
	ピッキングでは、経路コードを中継点コードと区域コードとともに使用して、経路が指定されている配送車両に積載するすべての品目をグループにまとめます。
	これらのフィールドの各デフォルト値は〈得意先請求指示〉で設定します。
輸送モード変更	輸送モードの入力が手作業で行われたことを示すフラグ。このフラグがついている場合、輸送モードの自動割当は行われません。
運送業者変更	運送業者の入力が手作業で行われたことを示すフラグ。このフラグがついている場合、運送業者の自動割当は行われません。
出荷デポ	出荷または積荷の出荷元デポを識別します。
出荷元 No.	出荷元の住所番号。事業所、仕入先、ハブまたは物流センターなどの住所番号です。
出荷先デポ	積荷の出荷先デポを識別します。
出荷先住所 No.	ハブまたは物流センターの住所番号。 ハブ番号は積荷に対して入力され、集中配送出荷を示します。
中間出荷先	中間出荷先の住所番号。中間出荷先は積荷に対して入力され、積荷のすべてがハブに送られることを示します。
配送手配グループ	配送手配グループを識別するユーザー定義コード。配送手配グループは製品の保管と輸送の際に重要となる製品の物理的な特質にしたがって製品をグループ化したものです。
	トリップ作成処理の際に、品目に対して正しい配送グループと車両が使用されているかどうかシステムによりチェックされます。正しい配送グループに属する製品のみが車両に割り当てられます。
配送手配タイプ	この車両がコンパートメントへの製品の積荷を制御および測定する際に、重量 または容量デバイスのどちらを使用するかを指示します。
	有効な値は次のとおりです。
	<ul style="list-style-type: none"> V 容量による測定方法を指示 W 重量による測定方法を指示 T 測定方法はトランザクションに基づく(ONEWORLDのみ) S 標準容量による測定方法を指示。バルク積荷および配送確認中またはバルク積荷および配送確認が1つのステップで実行される際に使用されます。
	バルク車両に対しては、“V”または“W”の配送手配タイプを入力することができます。パッケージ車両には、“W”の配送手配タイプのみを入力することができます。

処分	オーダーの残存分の処分方法を示すコード。有効な値は次のとおりです。
	<p>B = バックオーダー C = 取消し S = 出荷可能状態にしておく K = バックオーダー分も含め全残存量を取消</p>
積込ライン No.	コンパートメントに積み込む数量を検証するのに、バルクコンパートメント内の2つの使用可能積荷ラインのうちどちらを使用するかを示します。
重量計量単位	個別品目の重量を示すために使用される単位。代表的な重量の単位は次のとおりです。
	<p>GM グラム OZ オンス LB ポンド KG キログラム CW 100 ポンド TN トン</p>
	重量単位に対するユーザー定義コード設定時に、ユーザー定義コードの特殊取扱コードに、“W”を指定してください。
バルク容量計量単位	在庫品目の容量の計量単位を示します。代表的な容量単位は次のとおりです。
	<p>ML ミリリットル CF 立方フィート CY 立方ヤード CM 立方メートル PT パイント LY リットル</p>
	容量単位ユーザー定義コード設定時に、ユーザー定義コードの特殊取扱コードを“V”と指定してください。
容積計量単位	この品目の容量に使用される計量単位を識別するユーザー定義コード(00/UM)。容量基準としては立方センチ、リットル、ガロンなどを指定できます。品目にこの計量単位を使用することも、個別の品目またはコンテナに対して計量単位を一時変更することもできます。
接続車両	車両が接続車両であるかどうかを示すフラグ。
	<p>Y 車両 ID は接続車両のものである N 車両 ID は接続車両のものではない</p>
	Y の代わりに“1”を、N の代わりに“0”を入力することもできます。

出荷品目の手入力による追加

受注オーダーを介して販売されていない品目を出荷する場合は、受注オーダーを入力せずに、出荷品目を手入力できます。〈出荷の改訂〉フォームでは、出荷元、出荷先、住所番号、重量、容量など、出荷の設定に必要な情報をすべて入力します。情報をすべて入力した後に、[配送経路オプション]を選んで、受注オーダーを通じて実際の出荷を作成した場合と同じように、請求する運賃の見積りを表示することができます。

この機能を使用して、顧客に請求する運賃を見積もることもできます。受注オーダーを入力せずに出荷の運賃を確定する場合は、まず出荷を作成し、システムには出荷情報を記録しないようにします。顧客に向けた見積りを作成した後、受注管理システムでオーダーを作成することができます。

参照

- 見積オーダーから受注オーダーを作成する方法については『受注管理』ガイドの「提案書の生成」

▶ 出荷品目を手入力で積荷に追加するには

〈出荷および積荷〉(G4911)から〈出荷の処理〉を選びます。

1. 〈出荷の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈出荷の改訂〉で、[出荷の改訂]タブのいずれかのフィールドに値を入力します。

出荷デボ

- 状況
 - 出荷元
 - 販売先
 - 出荷先
 - 市
 - 都道府県
 - 郵便番号
 - 国
 - 出荷重量
 - 計画容量
3. [日付/時間]タブをクリックして、次のフィールドに値を入力します。
 - 出荷予定日/時刻
 - 納入約束日/時刻
 4. [その他]タブをクリックして、次のフィールドに値を入力します。
 - 輸送モード

- 運送業者 No.
 - 貨物/運賃取扱コード
 - 個数
 - コンテナ数
 - バルク/パッケージ区分
5. [フォーム]メニューから[追加情報]を選びます。
 6. 〈その他出荷の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 長さ
 - 幅
 - 高さ
 - 周囲寸法
 - コンテナ容積
 - 距離
 - 合計価格
 - 合計金額

出荷には、個数、明細、およびオプションと設備の情報を追加することができます。

7. 〈出荷の改訂〉で、[フォーム]メニューから[配送経路オプション]を選んで、運賃コストを検討することができます。
8. 〈配送経路オプション〉で、見積運賃として[請求料金]フィールドの値を使用できます。[キャンセル]をクリックします。
9. 〈出荷の改訂〉で、[OK]をクリックします。

積荷へのオプションおよび設備の割当て

標準操作の他にも、必要に応じてオプションと設備を割り当てることができます。オプションおよび設備は出荷または積荷、あるいはその両方に割り当てることができます。オプションと設備は、積荷の出荷が割り当てられていなくても、積荷に割り当てることができます。たとえば、ある積荷で配送時に署名が必要になる場合は、このオプションを積荷に割り当てます。オプションまたは設備を割り当てる際、積荷、配送、または行のどのレベルで適用するかを選ぶことができます。

参照

- 積荷の配送経路の設定については、『輸送管理』ガイドの「配送経路の設定」
- 積荷のレート設定については、『輸送管理』ガイドの「レートと定義のセットアップ」

▶ 積荷にオプションおよび設備を割り当てるには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷作成〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、次のフィールドのいずれかに値を入力し、[検索]をクリックします。
 - 予定開始
 - ~
 - 計画デポ
 - 輸送モード
 - 運送業者 No.
 - 積荷状況
 - ~
2. 積荷を選んで[選択]をクリックします。

積荷にオプションおよび設備を割り当てるには、積荷が許可された状況範囲内である必要があります。その範囲を超えていると、変更を加えることはできません。
3. 〈積荷明細 - 出荷〉で、[フォーム]メニューから[積荷オプション/設備]を選びます。
4. 〈出荷/積荷オプションおよび設備の改訂〉で、次のフィールドに値を入力し、[OK]をクリックします。
 - オプション/設備

積荷の中継点順序の検討

積荷の出荷品目をどのように割り当てるかによって、デフォルトの停止順序が作成されます。積荷に適用する全体の距離、および各停車地点間の距離を指定することができます。最適化の機能を使って、この停止順序を再編成することもできます。また、停車地点ごとに予定された積荷、出荷日付、および配送日時を管理することもできます。サードパーティ(他社)の中継点最適化プログラムを組み込めば、さらに効率的な積荷の中継点順序を設定できます。

注:

J.D. Edwards では距離の計算や最適化プログラムは提供していません。これらのプログラムは個別に開発するか、購入する必要があります。J.D. Edwards ソフトウェアからそれらの計算プログラムにリンクさせることができます。

▶ 積荷の中継点順序を検討するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷作成〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 積荷の中継点順序を検討する積荷を選んで、[選択]をクリックします。
3. 〈積荷明細 - 出荷〉で、[フォーム]メニューから[中継点順序]を選びます。
4. 〈積荷中継点順序〉で、[フォーム]メニューから[距離の取込み]を選びます。

積荷の合計距離がインポートされ、走行距離計算プログラムから積荷の各停車地点までの距離が取り込まれます。

5. 〈積荷中継点順序〉で、[フォーム]メニューから[最適化]を選びます。
走行距離計算プログラムに基づいて、積荷の中継点順序をより効率的な順番に変更します。
6. [中継点順序]フィールドの番号を変更することにより、積荷の中継点順序を手入力でも変更することもできます。
 - 中継点順序
7. 積荷のすべての中継点を設定したら、[OK]をクリックします。

トラブルシューティング

積荷順序を最適化または変更しにくい場合があります。次に、変更しにくい場合とその原因を説明します。

距離が積荷の中継点順序に対してインポートされない 〈輸送管理固定情報の改訂〉で、事業所またはデポには走行距離計算プログラムの数字に対応する値が[距離ソース]フィールドに入力されている必要があります。

積荷中継点順序が使用できない 中継点を変更するには、保護されていない積荷を選ぶ必要があります。

集中配送の作成

集中配送とは、地域の流通センターに向けた積荷に各出荷品目をまとめることをいいます。集中配送は、積荷の作成と同じフォームを使用して作成します。

流通の効率を改善するために、各出荷をそれぞれの最終目的地に配送する前に、流通センターに出荷をまとめておきます。この方法は、運送業者が全国規模で区域別に出荷を配送する場合に、最も効果的です。複数の出荷をまとめて積荷を満載することにより、運賃コストを抑えることができます。この場合、積荷を最終的な目的地へ配送する前に、流通センターなどの中間出荷先を設定しておく必要があります。

たとえば、ある事業所でセーターを製造しているとします。そして全国の店舗でセーターを販売しています。全国の店舗に個別の出荷を配送するのではなく、セーターの出荷を1つの積荷にまとめます。積荷の出荷先は、複数の店舗への配送を担当する流通センターとなります。この流通センターから地域の店舗に出荷が配送され、販売されます。

集中配送を作成するには、通常の積荷を作成して、〈積荷見出しの改訂〉フォームの[出荷元/出荷先]タブで中間出荷先を指定します。中間出荷先は、個々の出荷の各ローに入力する住所番号です。積荷の作成時にこの積荷を集中配送に適用することがわかっている場合は、積荷見出しに中間出荷先の住所を指定することができます。中間出荷先を指定すると、出荷を追加するごとにこの情報が自動的に適用されます。

▶ 集中配送を作成するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷作成〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[車両]タブで見出し領域のフィールドに値を入力します。
2. [積荷見出しの改訂]で[出荷元/出荷先]タブをクリックして、次のフィールドに値を入力して出荷元を識別します。
 - 出荷デポ
 - 出荷元 No.
3. 次のフィールドに値を入力し、流通センターを識別して、[OK]をクリックします。
 - 中間出荷先

コンパートメントへの積荷の割当て

積荷には、さらに別の出荷を追加することにより、車両の最大積載量にまで積載することができます。バルク品積荷を車両の特定のコンパートメントに割り当てることもできます。

▶ 積荷をコンパートメントに割り当てるには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷作成〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. コンパートメントを割り当てる変更可能な積荷を選んで、[選択]をクリックします。
3. 〈積荷明細 - 出荷〉で、[フォーム]メニューから[コンパートメント]を選びます。
4. 〈積荷明細 - コンパートメント〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 出荷デポ
 - 出荷元 No.

このフォームから別のフォームにアクセスして、残存製品を割り当てたり、積荷の中継点順序を変更したりできます。また、使用する車両の各コンパートメントに製品を割り当てたり、削除したりするフォームにアクセスすることもできます。

積荷の検討

積荷を検討するときに、中継点順序を変更したり、積荷の情報(積荷に必要な車両登録やコンパートメントなど)を追加したりできます。これらの明細情報には、〈積荷明細 - 出荷〉フォームからアクセスします。具体的な情報を定義することにより、実際のビジネス・ニーズに応じて積荷を調整することができます。

積荷を検討するときには、支払運賃も決めることができます。支払運賃は、出荷の運賃を見積もる場合と同様に、〈配送経路オプションの処理〉フォームで計算されます。積荷の配送を依頼できる運送業者のリストが、各運送業者のコストとともに表示されます。

セルフサービス・モードを設定すると、配送サービスを提供する仕入先が出荷を検討することができます。このセルフサービス・モードを使用すると、保留中または承認された出荷の情報をトラッキングできます。コミュニケーションが促進されることで、仕入先との関係もよくなります。仕入先セルフサービス・モードのアウトバウンド運送業者レート表を使用すると Web 上で出荷を検討できます。処理オプションでアウトバウンド運送業者レート表を使用可能にすると、仕入先が自社に割り当てられた出荷を照会することができます。仕入先または運送業者は、積荷情報を改訂できませんが、積荷が配送のどの段階にあるかを表示することができます。

▶ 積荷を検討するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷作成〉を選びます。

または、セルフサービスで、〈仕入先セルフサービス〉メニュー(G43S11)を選び、〈アウトバウンド運送業者積荷情報〉を選択することができます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 検討する積荷を選択して、[選択]をクリックします。
3. 〈積荷明細 - 出荷〉で、[フォーム]メニューから[見出し改訂]を選びます。
4. 〈積荷見出しの改訂〉で、その情報を検討します。

参照

- 積荷の出荷を検討する方法については『輸送管理』ガイドの「集荷情報の改訂」

積荷の承認

積荷は顧客へ出荷する前に承認される必要があります。積荷を承認すると、出荷とオーダー行の状況が次に進められます。出荷は承認されると、保護状況に変わります。承認された積荷の情報は保護されており、変更することはできません。別の方法として「承認済み」の積荷状況を「保留」に変更することができます。

積荷の作成方法に応じて次の条件が適用されます。

有効な承認経路	割り当てられたすべての承認経路は、有効な状態で設定されている必要があります。
コンパートメントが割り当てられた積荷	積荷にコンパートメントを割り当てる場合は、積荷を承認する前に、すべてコンパートメントが割り当てられている必要があります。
集中積荷または中間配送地点	積荷に対して中間出荷先を指定すると、積荷の各出荷に対して経路ステップが追加されず。
倉庫管理	倉庫管理システムを使用している場合、積荷が承認された時点で倉庫要求が生成されます。状況を保留に戻して積荷を再承認しても、倉庫要求は生成されません。

はじめる前に

- 出荷状況(41/SS)で出荷の各状況が、承認済み、未承認、一時保留の各状況に定義されていることを確認してください。ユーザー定義コードの設定については『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コードのカスタマイズ」を参照してください。
- 輸送管理固定情報で出荷状況を設定します。『輸送管理ガイド』の「輸送管理固定情報の設定」を参照してください。

▶ 積荷を承認するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷作成〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 承認する出荷を選び、[選択]をクリックします。
3. 〈積荷明細 - 出荷〉で、[フォーム]メニューから[承認]を選びます。

参照

- 積荷の出荷を承認する方法については『輸送管理』ガイドの「出荷承認」
- 積荷の承認状況を変更する場合は、『輸送管理』ガイドの「積荷の未承認への状況の変更」

積荷の未承認への状況変更

承認済みの積荷を変更する場合があります。この場合は、次のステップに従って作業してください。積荷を却下すると、関連する出荷がすべて未承認になります。

オーダー明細行と積荷状況が一時保留の状況に更新されます。保留中の積荷情報は変更できません。たとえば、積荷に出荷を追加したり、削除したりできます。

変更する場合は、積荷承認ステップに従って承認してください。

▶ 積荷の状況を未承認に変更するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷作成〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 承認済みの積荷を選びます。

3. [選択]をクリックします。
4. 〈積荷明細 - 出荷〉で、[フォーム]メニューから[却下]を選びます。
積荷状況が一時保留に更新されます。
5. [キャンセル]をクリックします。

処理オプション: 積荷処分(P4960)

デフォルト・タブ

これらの処理オプションでは、積荷の処理プログラム(P4960)に関連するフォームで表示される積荷タイプなどのデフォルト値を指定できます。

デフォルト値は一時変更することができます。情報が表示されていなかったりアクセスできない場合は、処理オプションまたはマスター・テーブルで設定したデフォルト情報に基づいて積荷が処理されます。

1. 計画デポ

トリップの起点となるデポを指定します。

事業所を有効な値として使用する場合は、〈輸送固定情報〉プログラム(P49002)で事業所をデポとして最初に設定しておく必要があります。これはデフォルト値です。〈輸送固定情報〉プログラムでデポとして設定された事業所がすべて有効な値となります。

2. 出荷日付

出荷に使用する日付を指定します。これは、予定終了日付のデフォルト値です。

3. 輸送モード

得意先の商品の配送を担当する運送業者が使う輸送モード(鉄道や道路など)を指定します。

これはデフォルト値です。有効な値はユーザー定義コード・テーブル 00/TM(輸送モード)で定義されています。

4. 開始積荷状況

開始積荷状況のデフォルト値を指定します。有効な値はユーザー定義コード・テーブル 49/SL(積荷状況)で定義されています。

5. 終了積荷状況

終了積荷状況のデフォルト値を指定します。有効な値はユーザー定義コード・テーブル 49/SL(積荷状況)で定義されています。

6. シフト・コード

デフォルトのシフト・コードを指定します。シフト・コードにより、ある時間に積荷の出荷を担当している従業員を指定します。出荷日付が同じである積荷に異なるシフトを組み込むことができます。有効な値はユーザー定義コード・テーブル 06/SH(シフト・コード)で定義されています。

7. 積荷作成用処理コード

オーダーのうち出荷または積荷にならなかった残りの製品に対するデフォルトのアクションを指示します。有効な値はユーザー定義コード・テーブル 49/DH(処分コード)で定義されています。

- B バックオーダー
- C 取消し
- K バックオーダー分も含めた残品の取消し
- S 出荷可能状態にしておく

8. 積荷タイプ

デフォルトの積荷タイプコードを指定します。積荷タイプコードにより、積荷作成および確認方法が制御されます。有効な値は、〈積荷タイプの処理〉プログラム(P49003)で設定された積荷タイプ固定情報テーブルで定義された積荷タイプです。

9. 中継点順序フォームの距離単位

積荷が輸送される距離の計量単位を指定します。有効な値は次のとおりです。

- MI マイル
- KM キロメートル

出荷承認タブ

これらの処理オプションを使用すると、積荷を追加した後に出荷の承認プロセスが開始されます。

1. 受注オーダーを含む出荷承認時のオーダーの「次の状況」更新

blank = オーダー「次の状況」更新を実行する

1 = オーダー「次の状況」更新を実行しない

オーダーの状況更新をバイパスするかどうかを指定します。この処理をバイパスすると、オーダーは「次の状況」に更新されません。有効な値は次のとおりです。

blank = オーダーを「次の状況」に更新する

1 = バイパスする

2. 承認済み受注オーダーを含む出荷に使用する一時変更用オーダー「次の状況」を入力してください。blankの場合、「次の状況」の確定には〈オーダー処理順序定義〉が使用されます。

受注オーダーのある出荷の承認時に使用される一時変更用「次のオーダー状況」を指定します。

この状況は、有効な「次の状況」あるいはその他の使用可能「次の状況」である必要があります。有効な値は、〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)で使用する伝票タイプに対して定義されたオーダー処理順序定義です。blankの場合、オーダー処理順序定義を使用して「次の状況」が確定されます。

3. アウトバウンド受注オーダーを含む出荷に対して倉庫要求処理モードを入力してください。

blank = ピッキング要求なし

1 = 要求を生成するのみ

2 = 要求を生成して、サブシステムで処理する

アウトバウンド受注オーダーのある出荷に使用します。倉庫管理システムからピッキング要求を生成する必要があるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 生成しない

1 = 要求のみを生成する

2 = 要求を生成しサブシステムで処理する

4. ピッキング要求処理(R46171)のバージョン

サブシステムで、倉庫管理システムのピッキング要求を生成します。

バージョンを指定して、サブシステムでの処理用に設定された<ピッキング要求の印刷>プログラム(P46171)のバージョンを指定してください。

5. 承認済み出荷に使用する一時変更用承認済み出荷状況を入力してください。空白の場合、<輸送固定情報>からの承認状況が使用されます。

出荷承認時に使用する一時変更用出荷状況を指定します。有効な値は、<輸送固定情報>にある状況コードです。空白の場合、<輸送固定情報>からの承認状況が使用されます。

6. 積荷が承認されなかった時に使用する出荷状況を入力してください。(必須)

承認されていない積荷の出荷状況を指定します。これは必須フィールドです。有効な値はユーザー定義コード 49/SL(積荷状況)にあります。

7. 受注オーダーを含む出荷が承認されなかった時に使用する一時変更用オーダー「次の状況」を入力してください。

受注オーダーを含む出荷の承認時に使用される一時変更用オーダー「次の状況」を入力するのに使用します。これは必須フィールドです。

有効な値は、<オーダー処理順序定義>プログラム(P40204)で定義されたオーダー処理順序定義です。

8.

1 = インバウンド出荷を承認する前に返品オーダーに有効返品承認が必要である場合

2 = 購買オーダーに有効返品承認返品承認が必要である場合

3 = 返品オーダーと購買オーダーの両方について有効返品承認が必要である場合

9. 購買オーダーを含む出荷の承認時にオーダー「次の状況」の更新を行わないようにするには“1”を入力してください。

10. 購買オーダーを含む出荷が承認された時に使用する一時変更用オーダー「次の状況」を入力してください。空白の場合、「次の状況」の確定には<オーダー処理順序定義>が使用されます。

11. 購買オーダーを含む出荷が承認されなかった時に使用する一時変更用オーダー「次の状況」を入力してください。

バージョン・タブ

次の処理オプションは、〈積荷の処理〉フォームで関連付けられたローまたはフォーム・エグジットを選択すると使用されるバージョンを決定します。ブランクにした場合は、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

バージョンごとにプログラムの情報の表示方法が異なります。このため、プログラムを業務目的に合わせるには、特定のバージョンに対して処理オプションを設定する必要があります。

1.出荷の処理 (P4915)

〈出荷処理〉プログラム(P4915)のバージョンを指定します。この オプションをブランクにする場合、ZJDE0001 バージョンが使用され ます。

2.出荷の選択 (P4915)

〈出荷の選択〉プログラム(P4915)のバージョンを指定します。こ のオプションをブランクにする場合、ZJDE0001 バージョンが使用され ます。

3.伝票印刷 (P49590) - 指定したバージョンは伝票制御処理オプションを取り込むのに使用され ます。

〈伝票印刷(オンライン)〉プログラム(P49590)のバージョンを指定します。このオプションをブラン クにする場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

4.積荷確認 (P49640)

〈輸送積荷確認〉プログラム(P49640)のバージョンを指定します。
このオプションをブランクにする場合、ZJDE0001 バージョンが使用 されます。

5.配送確認 (P49650)

〈配送確認〉プログラム(P49650)のバージョンを指定します。このオプションをブランクにする場 合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

6.積荷処分 (P49660)

〈積荷処分〉プログラム(P49660)のバージョンを指定します。このオプションをブランクにする場 合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

7.積荷生成 (P4918)

〈積荷生成履歴〉プログラム(P4918)のバージョンを指定します。
このオプションを空白にする場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

8. 積荷メモ (R49120)

〈積荷メモ〉プログラム(P49120)のバージョンを指定します。このオプションを空白にする場合、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

9. 優先プロファイル (R40400)

優先情報の選択フォームで設定した優先情報に基づいたオーダーの処理に使用される優先プロファイル・プログラム(P42520)のバージョンを指定します。空白にした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

処理タブ

この処理オプションでは、〈積荷の処理〉プログラムによる次の処理を指定します。

- 積荷の開始状況を有効にする。
- 積荷の保留状況を有効にする。
- 積荷の保護状況を有効にする。
- 分割された出荷により作成された出荷可能なラインの、次の状況を一時変更できるようにする。
- 分割出荷のバックオーダーを有効にする。
- カスタマー・セルフサービスまたは運送業者セルフサービスのセルフサービス・モードを有効にする。

1. 開始積荷状況

積荷の開始状況を指定します。有効な値は、〈輸送固定情報〉プログラム(P49002)で定義され、ユーザー定義コード 49/SL(積荷状況)に保管されます。

2. 一時保留積荷状況

現行の積荷状況を指定します。有効な値は、〈輸送固定情報〉プログラム(P49002)で定義され、ユーザー定義コード 49/SL(積荷状況)に保管されます。

3. 保護積荷状況

この状況コードは、コード番号が輸送固定情報の承認済み積荷状況コードよりも小さい場合のみ、保護状況コードとして使用されます。

保護された積荷状況を指定します。有効な値は、〈輸送固定情報〉

プログラム(P49002)で定義され、ユーザー定義コード 49/SL(積荷状況)に保管されます。

4.分割により作成された出荷可能行の一時変更用「次の状況」を入力してください。ブランクの場合は、当初行の「次の状況」が使用されます。

出荷分割により作成された出荷可能行の一時変更用「次の状況」を指定します。有効な値は、〈輸送固定情報〉プログラム(P49002)で定義されます。ブランクの場合、受注オーダーの当初行状況が使用されます。

5.分割により作成されたバックオーダー行の「次の状況」を入力してください。

出荷分割により作成されたバックオーダー行の一時変更用「次の状況」コードを指定します。「次の状況」コードは、伝票タイプのオーダー処理順序定義と対応している必要があります。オーダー処理順序定義は、〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)で指定します。有効な値はユーザー定義コード・テーブル 40/AT(処理順序/状況コード)に定義されています。

6. カスタマー・セルフサービス・モード

フォームをカスタマー・セルフサービス・モード(WEB モード)と標準モードのどちらで表示するかを指定します。カスタマー・セルフサービス・モードを使用する場合、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)でオーダーを作成する前に複数のアプリケーションから品目を選択できます。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 標準モード

1 = カスタマー・セルフサービス・モード

2 = 運送業者セルフサービス・モード

積荷生成履歴の処理

〈積荷生成履歴〉プログラム(P4918)で積荷を作成して、一般の運送業者に提示します。これに対して、運送業者は積荷を受け入れるか、または却下するかを回答します。また、積荷生成履歴を検討して、積荷を依頼した各運送業者に関する情報を確認することもできます。

参照

- 積荷生成に一時的な料金を入力する方法については、『輸送管理』ガイドの「一時的な料金設定の処理」

▶ 積荷を生成するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷生成履歴〉を選びます。

1. 〈積荷生成履歴の処理〉で、[追加]をクリックします。

2. 〈積荷生成入力[積荷生成履歴]〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 運送業者 No.
- 積荷 No.
- 計画デポ
- 生成日付
- 生成時刻
- 失効日付
- 失効時刻

フィールド記述

記述	用語解説
生成日付	積荷が生成され、運送業者に提供された日付。
生成時刻	生成時間とは、運送業者に対して積荷を生成した時刻を記録するためのものです。
失効日付	積荷生成レコードが失効する日付。
失効時刻	積荷生成レコードが失効する時刻。

▶ 生成された積荷を受け入れるには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷生成履歴〉を選びます。

1. 〈積荷生成履歴の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 受け入れる積荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[受入れ]を選びます。
4. 〈積荷生成入力 - 受入れ[積荷生成履歴]〉で、情報を検討して[OK]をクリックします。

▶ 生成された積荷を却下するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷生成履歴〉を選びます。

1. 〈積荷生成履歴の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 却下する積荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[却下]を選びます。
4. 〈積荷生成入力 - 却下[積荷生成履歴]〉で、情報を検討して[OK]をクリックします。

処理オプション:積荷生成履歴(P4918)

積荷状況

1. 積荷が生成された時の積荷状況を入力してください。
2. 積荷生成が却下された時の積荷状況を入力してください。
3. 積荷生成が承認された時の積荷状況を入力してください。
4. 開始積荷状況のデフォルトを入力してください。
5. 終了積荷状況のデフォルトを入力してください。

処理

1. 積荷が却下される際に積荷を自動的に経路を再度割り当てるには“1”を入力してください。
2. <配送経路発生履歴の入力>ウィンドウから積荷生成レポート(R49120)を呼び出すには、“1”を入力してください。
3. 積荷生成レポート(R49120)のバージョンを入力してください。ブランクの場合のデフォルト値はZJDE0002です。

一時的な料金設定の処理

運送業者から1回だけの見積りをもらっている場合、一時的な料金を設定する機能を使用することがあります。この機能は暫定見積と呼ばれます。永続的な料金情報を設定する必要がない場合は、暫定見積を使用します。暫定見積は積荷を生成する場合に使用されます。

▶ 積荷の暫定見積を行うには

<出荷および積荷>メニュー(G4911)から<積荷作成>を選びます。

1. <積荷の処理>で、[検索]をクリックします。
2. 暫定見積を作成する積荷を選択して、[選択]をクリックします。
3. <積荷明細 - 出荷>で、[ロー]メニューから[出荷料金]を選択します。
4. <出荷/積荷料金の改訂>で、[ロー]メニューから[暫定見積]を選択します。
5. <暫定見積の改訂>で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 運賃レート
 - 通貨コード

フィールド記述

記述	用語解説
運賃レート	運賃の単位料金または均一料金。
通貨コード	取引通貨を識別するコード。

▶ 積荷の暫定見積を削除するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷作成〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 削除する暫定見積のある積荷を選んで、[選択]をクリックします。
3. 〈積荷明細 - 出荷〉で、[ロー]メニューから[出荷料金]を選択します。
4. 〈出荷/積荷料金の改訂〉で、レコードを選び、[ロー]メニューから[暫定見積の削除]を選択します。
5. 〈削除の確認〉で、[OK]をクリックして暫定見積を削除します。

配送処理

配送処理によって、出荷と積荷が確実に管理される上に、製品所有権の譲渡がスムーズに実行され、そのトランザクションが正確に記録されます。

積荷を確認してから配送が完了するまでの間、在庫をトラッキングできます。これは、配送完了まで製品の所有権を自社で保持する場合や、総勘定元帳で積送中の在庫のトラッキングが必要な場合に有効です。積送中の在庫を持つ出荷ごとに個別のトラッキング機能を使用できます。

配送処理に関連した次のような用語と概念を理解しておく必要があります。

出荷確認

出荷の確認とは、出荷に関するすべてのオーダー行を確認するプロセスのことをいいます。出荷を確認する際には、出荷に関する計画または発注済みのすべての品目が出荷されたかどうかを確認します。出荷に含まれる製品が出荷されていない場合は、その行は確認済みとはならず、後日の出荷で対象となります。

積荷確認

積荷の確認は出荷の確認と似ていますが、オーダー行を確認するのではなく、積荷に割り当てられた各出荷を確認します。コンパートメント・レベルまたはオーダー行レベルで積荷を確認することもできます。

配送確認

配送の確認とは、出荷に対する配送証明(POD)情報を記録するプロセスのことです。積送中の在庫をトラッキングする積荷については、配送確認を使用して、実際に配送された製品の数量を記録します。

計画外配送

計画外配送機能により、受注オーダーによって開始されたのではない配送を記録できます。たとえば、計画外配送として、本来予定された顧客に配送できなかった製品を、デポや出荷元に返品せずに、予定外の別の顧客に配送する場合があります。車両が戻った時点で、受注オーダーを入力します。

積荷の処分

積荷の処分を記録しておくことにより、配送がすべて完了した時点で、車両に残っていた製品がどう処理されたのかを記録することができます。通常は積送中の在庫をトラッキングして、積荷の処分を記録します。次のような製品の処分を記録します。

- 在庫に返品された製品
- 次回の積荷に組み込む積置き製品
- 破損品、数漏れ(追加)在庫などの製品の増減

出荷に添付する配送伝票を印刷することができます。配送伝票には、製品の所有権が顧客に移ったことが記録され、各機関に提出する書類用の輸送情報が記載されます。出荷または積荷が承認された後、印刷する伝票を選択または修正できます。これらの伝票は、出荷または積荷が発する前に印刷したり、確認中に伝票を自動印刷するように設定できます。

配送処理

製品をトラッキングするには、特定の積荷と配送の処理を実行する必要があります。これらの処理では、実際のニーズに応じて、製品の出荷と配送の状況を記録することができます。

送信出荷の確認を行うと、配送に向けての出荷に組み込まれる処理へと製品が移行することが示されます。出荷トラッキング番号を入力して、特定の運送業者別に出荷をトラッキングしたり、配送情報を要求したりできます。

購買オーダーや返品オーダーなどの受信トランザクションの場合は、集荷のための積荷および配送処理を実行できます。配送品目の確認に使用するプロセスと同じプロセスで返品を確認します。

出荷と積荷の両方について配送伝票を印刷することができます。システムには、船荷証券、積荷目録、請求書、出荷ラベルなどの標準的な配送伝票が用意されています。

積荷の確認は、出荷の確認に似ています。個々の処理で、出荷や積荷に含まれる品目を検証します。配送の完了を確認するときは、積荷が最終的な出荷先に到着したことを確認します。積荷がコンパートメント化されている場合や、積送中の在庫をトラッキングしている場合では、積荷の確認処理が異なります。積荷の積送中の在庫をトラッキングする場合は、計画外配送を記録することができます。

配送が終わった後、車両に製品が積置きになって戻ってきた場合は、商品の処分方法を記録することができます。バルク製品やパッケージ製品の処分を記録できます。

出荷の確認

出荷を確認する際に、出荷する製品の実際数量が自動的に記録されます。積荷に含まれる出荷を確認する必要はありません。出荷の確認を行うと、出荷の状況が「次の状況」に更新され、この出荷に割り当てられた個別の受注オーダーを出荷することが確認されます。

対話形式の出荷確認

出荷は対話形式または一括して確認できます。

インバウンド出荷の場合は、作成された購買オーダーごとに出荷情報が入力されます。実際の輸送および運送業者モードによって出荷を対話形式で確認することができます。処理オプションを使用して、出荷確認処理の一部として〈運賃の更新〉レポート(R4981)を実行するかどうかを指定できます。また、出荷確認時に実行する〈入荷確認〉プログラム(P4312)のバージョンを指定できます。

▶ 出荷を対話形式で確認するには

〈出荷および積荷〉(G4911)から〈出荷確認〉を選びます。

1. 〈出荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 確認する出荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[確認]-[出荷確認]を選びます。
4. 〈輸送出荷確認〉で、次のいずれかのフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 実際出荷日付
 - 時刻
 - 配送日付
 - 実際重量の一時変更
 - 車両登録
 - 時刻

処理オプション:〈輸送出荷確認〉プログラム(P49645)

処理タブ

配送伝票、受注オーダー状況コード、および出荷の次の状況コードの一時変更など、表示する情報のタイプを指定します。

1. 確認後活動フォームの表示

blank = 表示しない

1 = 表示する

オーダー確認の後に確認後活動フォームを表示するかどうかを指定します。

このフォームを使用すると、一時変更出荷重量の入力、および配送経路オプション、出荷個数、参照番号へのアクセスが可能になります。

有効な値は次のとおりです。

blank = 確認後活動フォームを表示しない

1 = 確認後活動フォームを表示する

2. 配送伝票の印刷

blank = 印刷しない

1 = 印刷する

移動伝票を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 配送伝票を印刷しない

1 = 配送伝票を印刷する

3. 配送伝票の選択の表示

blank = 表示しない

1 = 表示する

配送伝票選択フォームを表示します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 表示しない

1 = 表示する

4. 確認済みの行に対する受注オーダー状況(必須)

確認済みの行の受注オーダー状況を入力します。

出荷に関連するすべての受注オーダー行の次の状況は、確認する出荷のオーダーのこの状況よりも大きくなければなりません。〈オーダー処理順序定義〉で定義された伝票タイプの状況コードすべてが有効な値となります。

5. 確認済みの行に対する返品オーダー状況(必須)

確認済み行の返品オーダー状況を指定します。

出荷に関連するすべての返品オーダー行の次の状況は、確認する出荷のオーダーのこの状況よりも大きくなければなりません。〈オーダー処理順序定義〉で定義された伝票タイプの状況コードすべてが有効な値となります。

6. 確認済みの行に対する購買オーダー状況(必須)

確認済み行の購買オーダー状況を指定します。

〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)の伝票タイプに定義された状況コードが有効な値となります。

7. 出荷の一時変更用「次の状況」の入力

確認済み出荷の一時変更の次の状況を入力します。

blankの場合、〈輸送固定情報〉からのデフォルト値が設定されます。

8. 出荷確認中の運賃の更新(R4981)の実行

ブランク = 実行しない

1 = 実行する

出荷確認中に〈運賃の更新〉プログラム(R4981)を実行します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 〈運賃の更新〉を実行しない

1 = 〈運賃の更新〉を実行する

9. 上級出荷通知(ASN) の抽出(R47032)の起動

ブランク = 起動しない

1 = 起動する

将来使用。

輸送出荷確認中、事前出荷通知(ASN)抽出(R47032)を起動します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 起動しない

1 = 起動する

10. カートンの「次の状況」

ブランク = カートンの状況は更新されない

将来使用。

出荷/積荷確認が問題なく完了したすべてのカートンの次の状況を指定します。有効な値は、カートン状況(46/CS)のユーザー定義コードから選択されます。この処理オプションをブランクにすると、カートン状況は、更新されません。

11. カートン料金の受注オーダー行の作成

ブランク = 可能にしない

1 = 可能にする

将来使用。

カートン料金の受注オーダー行を作成できるようにするかどうか指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 作成できない

1 = 作成できる

バージョン・タブ

流通のさまざまなプログラムのバージョンを指定します。

1. 〈配送伝票印刷〉プログラム(P49590)のバージョン

blank = ZJDE0001

配送伝票印刷(P49590)のバージョンを指定します。

blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

2. 〈出荷確認〉プログラム(P4205)のバージョン

blank = 受注オーダーを含む出荷確認時に〈受注オーダーの出荷確認〉を呼び出さない

出荷確認(P4205)のバージョンを指定します。

blankの場合、どのバージョンも使用されません。

3. 入荷確認(P4312)のバージョン

blank = 購買オーダーを含む出荷確認時に、入荷確認を呼び出さない

入荷確認 (P4312)のバージョンを指定します。

blankの場合、どのバージョンも使用されません。

4. UCC128 出荷の編集(R42071)のバージョン

blank = 呼び出さない

UCC128 出荷編集(R42071)のバージョンを指定します。

blankの場合、どのバージョンも使用されません。

5. 運賃の更新(R4981)のバージョン

blank = ZJDE0001

インバウンド購買オーダー出荷に使用される〈運賃の更新〉プログラム(R4981)のバージョンを指定します。

blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

6. 事前出荷通知(ASN) の抽出 (R47032)

ブランク = XJDE0001

将来使用。

顧客に対して上級優先情報の設定がない場合に使用される EDI 事前出荷通知抽出レポート (R47032) のバージョンを指定します。上級優先情報は、処理オプションのよりも優先されます。ブランクの場合、バージョン XJDE0001 が使用されます。

7. カートン数量に基づいたカートン料金用受注オーダー入力 (P4210) のバージョン

ブランク = ZJDE0019

将来使用。

カートン数量に基づいたカートン料金に対する受注オーダー行の書き込みに使用される (受注オーダー入力) プログラム (P4210) のバージョンを指定します。

カートン料金がカートンに基づいている場合、このバージョンは在庫をリリースする受注オーダーを 1 行作成し、カートン料金を保持します。

在庫は売上更新の際に、リリースされます。

ブランクにした場合、デフォルトのバージョン ZJDE0019 が使用されます。

8. カートン料金が品目数量に基づいている場合の売上更新時のカートン在庫リリース用受注オーダー入力 (P4210) のバージョン

ブランク = ZJDE0020

将来使用。

カートン料金が品目数量に基づいている場合、売上更新の際の在庫リリースに対する受注オーダー行の書き込みに使用される (受注オーダー入力) プログラム (P4210) のバージョンを指定します。

ブランクにした場合、デフォルトのバージョン ZJDE0020 が使用されます。

9. 品目数量に基づいたカートン料金用受注オーダー入力 (P4210) のバージョン

ブランク = ZJDE0021

将来使用。

品目数量に基づいたカートン料金に対する受注オーダー行の書き込みに使用される (受注オーダー入力) プログラム (P4210) のバージョンを指定します。

この行は在庫リリースに使用されませんが、カートン料金を反映します。

デフォルトのバージョンは ZJDE0021 です。

バッチ別出荷の確認

〈出荷および積荷〉(G4911)から〈出荷のバッチ確認〉を選びます。

〈バッチ輸送出荷〉レポート(R49500)を使用して、出荷が積荷に割り当てられていない場合にバッチ別に輸送出荷を確認できます。出荷中の製品の実際数量は自動的に記録され、出荷が次の状況に更新され、出荷に割り当てられている個々の受注オーダーの出荷確認を実行できます。

バッチ輸送出荷確認(R49500)の処理オプション

処理タブ

バッチ別出荷確認の処理方法を指定します。

1. 受注オーダー次の状況 - 確認済み行(必須)

確認済み行の受注オーダー状況を入力します。

出荷に関連するすべての受注オーダー行の次の状況は、確認する出荷のオーダーのこの状況よりも大きくなければなりません。〈オーダー処理順序定義〉で定義された伝票タイプの状況コードすべてが有効な値となります。

2. 出荷の次の状況の一時変更を入力します。

ブランク = 70

確認済み出荷の一時変更の次の状況を入力します。

ブランクの場合、〈輸送固定情報〉からのデフォルト値が設定されます。

3. 印刷制御デポ(P4205)。

印刷制御の出荷見出しデポを一時変更します。

ブランクにすると、出荷見出しデポが使用されます。

4. 実行モード

ブランク = テスト・モード

1 = 最終モード

最終/テスト・モードのどちらで処理するかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = テスト・モード

1 = 最終モード

5. 確認レポートの作成

ブランク = 作成しない

1 = 作成する

確認済み受注オーダーの確認レポートを印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

6. 配送伝票の印刷

ブランク = 印刷しない

1 = 印刷する

移動伝票を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 配送伝票を印刷しない

1 = 配送伝票を印刷する

7. 上級出荷通知の起動

ブランク = 起動しない

1 = 起動する

将来使用。

輸送出荷確認中、事前出荷通知(ASN)抽出(R47032)を起動します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 起動しない

1 = 起動する

8. カートンの次の状況

ブランク = カートンの状況は更新されない

将来使用。

出荷/積荷確認が問題なく完了したすべてのカートンの次の状況を指定します。有効な値は、カートン状況(46/CS)のユーザー定義コードから選択されます。この処理オプションをブランクにすると、カートン状況は、更新されません。

9. カートン料金の受注オーダー行の作成

blank = 可能しない

1 = 可能にする

将来使用。

カートン料金の受注オーダー行を作成できるようにするかどうか指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 作成できない

1 = 作成できる

バージョン・タブ

次のプログラムに使用するバージョンを指定します。

- 伝票印刷(オンライン)(P49590)
- バッチ出荷編集(R42071)
- EDI 出荷通知の抽出(R47032)
- 受注オーダー入力(P4210)

blankにした場合は、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

1. 配送伝票印刷(P49590)

blank = ZJDE0001

配送伝票印刷(P49590)のバージョンを指定します。

blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

2. 受信トランザクション処理(P47500)

blank = ZJDE0003

〈受信トランザクションのバッチ処理〉プログラム(R47500)のバージョンを指定します。

blank = バージョン ZJDE0003

3. UCC128 出荷編集 (R42071).

blank = 実行されない

UCG128 出荷編集(R42071)のバージョンを指定します。
ブランクの場合、どのバージョンも使用されません。

4. 事前出荷通知(ASN) の抽出 (R47032)

ブランク = XJDE0001

将来使用。

顧客に対して上級優先情報の設定がない場合に使用される EDI 事前出荷通知抽出レポート (R47032)のバージョンを指定します。上級優先情報は、処理オプションのよりも優先されます。ブランクの場合、バージョン XJDE0001 が使用されます。

5. カートン数量に基づいたカートン料金用受注オーダー入力 (P4210)のバージョン

ブランク = ZJDE0019

将来使用。

カートン数量に基づいたカートン料金に対する受注オーダー行の書き込みに使用される(受注オーダー入力)プログラム (P4210) のバージョンを指定します。

カートン料金がカートンに基づいている場合、このバージョンは在庫をリリースする受注オーダーを 1 行作成し、カートン料金を保持します。在庫は売上更新の際に、リリースされます。

ブランクにした場合、デフォルトのバージョン ZJDE0019 が使用されます。

7. 品目数量に基づいたカートン料金用受注オーダー入力 (P4210)のバージョン

ブランク = ZJDE0021

将来使用。

品目数量に基づいたカートン料金に対する受注オーダー行の書き込みに使用される(受注オーダー入力)プログラム (P4210) のバージョンを指定します。この行は在庫リリースに使用されませんが、カートン料金を反映します。

デフォルトのバージョンは ZJDE0021 です。

参照

- 出荷の確認の処理オプションについては『輸送管理』ガイドの「出荷の処理の処理オプション」
- UCG 128 規格に準拠した、オーダーおよび出荷詳細情報の送信方法については『受注管理』ガイドの「出荷の処理」

トラッキング番号の入力

出荷や積荷を効率的にトラッキングするには、トラッキング番号または参照番号を入力します。トラッキング番号を使用して、運送業者の出荷状況や、出荷または積荷の配送経路情報を確認できます。トラッキング番号は、各種のソースを基に生成することができます。会社に適した任意の番号を入力することもできます。また、配送伝票の印刷時にトラッキング番号を自動的に割り当てることもできます。

▶ トラッキング番号を入力するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈出荷状況の処理〉を選びます。

1. 〈出荷のトラッキング〉で、[検索]をクリックします。
2. トラッキング番号を入力する出荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[参照 No.の改訂]を選びます。
4. 〈出荷参照番号の改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 参照 No.修飾子
 - 参照 No.

[順序 No.]フィールドの値は自動的に付けられます。[伝票 No.]、[伝票タイプ]、[伝票キー会社]の各フィールドには、配送伝票を印刷して参照番号が生成される際に割り当てられた伝票番号が表示されます。

フィールド記述

記述	用語解説
参照 No.修飾子	参照番号を修飾するコードです。EDI X12 データ・エレメント 128 に準拠する値を使用してください。
参照 No.	特定の EDIトランザクション・セットに対して定義されたか、または参照番号修飾子によって指定された参照番号または識別番号になります。

配送伝票の印刷

配送伝票には通常、出荷または積荷に適用する配送指示が記載され、配送する製品と数量が指定されます。配送伝票には、製品の所有権が顧客に移ったことが記録され、各機関に提出する書類用の輸送情報が提供されます。

次のように配送伝票を印刷することができます。

- 出荷別または積荷別
- 1 件の出荷または積荷ごとに、あるいは複数の出荷または積荷をまとめて
- 積荷と出荷の確認前、確認中、または確認後
- 出荷、積荷、伝票タイプ、販売先住所、出荷先住所、または運送業者別

事前に採番されたフォームを使用して、伝票を印刷できます。印刷制御機能を有効にしてある場合は、伝票がすべて正しく印刷されたことを確認してから、〈伝票印刷の確認〉フォームで[はい]をクリックします。いずれかの伝票が正しく印刷されない場合は、〈伝票の再開〉フォームで古いバッチ番号を無効にする必要があります。

サーバー環境で印刷する場合は、伝票が正しく印刷されることを確認してから[はい]をクリックしてください。

事前に採番されたフォームを使用しない場合、または印刷制御機能を有効にしていない場合は、伝票がすぐにサーバーに送信されます。

要求された配送伝票を検討するには、次の照会プログラムを使用します。

- 伝票照会(バッチ) - まだ完了していない伝票バッチを検討する
- 伝票登録照会 - 完了した伝票を検討する

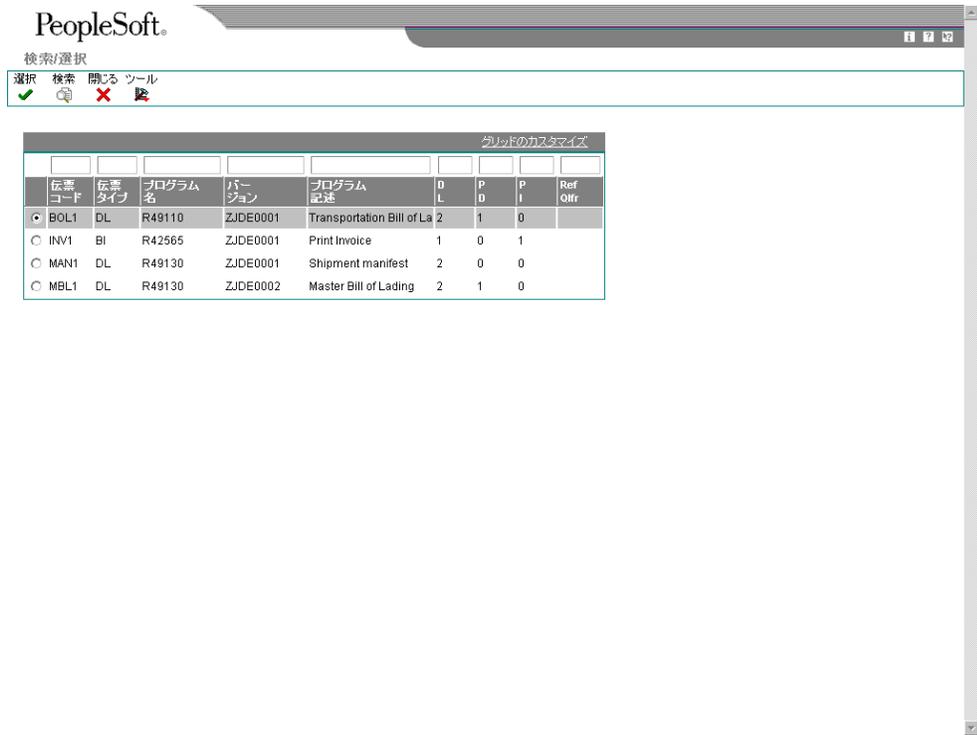
出荷別配送伝票の印刷

出荷ごとに配送伝票を印刷するときは、特定の出荷について印刷するのか、1度に複数の出荷について印刷するのかに応じて伝票を個々に印刷することも、複数の伝票をまとめて印刷することもできます。

▶ 出荷別に配送伝票を印刷するには

〈出荷および積荷〉(G4911)から〈出荷の処理〉を選びます。

1. 〈出荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 配送伝票を印刷する出荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[配送伝票]を選びます。
4. 〈配送伝票の選択〉で、この出荷に関して印刷するように設定された配送伝票をすべて印刷するには、次のオプションをクリックして[OK]をクリックします。
 - すべての伝票コードの印刷
5. この出荷について伝票を1件だけ印刷するには、該当のオプションを選び、次のフィールドのビジュアル・アシストをクリックします。
 - 単一伝票コードの印刷



6. <検索および選択>で、印刷する伝票を選び[選択]をクリックします。



7. 〈配送伝票の選択〉で、[OK]をクリックして選択した伝票を印刷します。
8. この出荷について設定した伝票のうち複数(すべてではない)を印刷するには、グリッドの次のフィールドのビジュアル・アシストをクリックして、選択します。
 - 伝票コード
9. 〈配送伝票の選択〉で、[OK]をクリックして選択した伝票を印刷します。

▶ 積荷別に配送伝票を印刷するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷作成〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 配送伝票を印刷する積荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[配送伝票]を選びます。
4. 〈配送伝票の選択〉で、積荷の印刷に設定した伝票を検討します。
5. この出荷に関して印刷するように設定された配送伝票をすべて印刷するには、次のオプションを選択して、[OK]をクリックします。
 - すべての伝票コードの印刷
6. 出荷について伝票を1件だけ印刷するには、次のオプションを選び、[伝票コード]フィールドのビジュアル・アシストをクリックします。
 - 単一伝票コードの印刷
7. 〈検索および選択〉で、印刷する伝票を選び[OK]をクリックします。
8. 〈配送伝票の選択〉で、[OK]をクリックして選択した伝票を印刷します。
9. この出荷について設定した伝票のうち複数(すべてではない)を印刷するには、次のフィールドのビジュアル・アシストを選んで、[OK]をクリックします。
 - 伝票コード
10. 〈配送伝票の選択〉で、[OK]をクリックして選択した伝票を印刷します。

複数の出荷または積荷の配送伝票の印刷

各出荷の配送伝票を印刷するには、〈出荷伝票〉メニュー(G4912)から〈出荷伝票の印刷(出荷)〉を選びます。

各積荷の配送伝票を印刷するには、〈出荷伝票〉メニュー(G4912)から〈出荷伝票の印刷(積荷)〉を選びます。

配送伝票は、メニュー選択からバッチ・ジョブとして印刷することができます。配送伝票を出荷別に印刷するか、積荷別に印刷するかを選択できます。配送伝票をバッチ・ジョブとして印刷する場合は、選択基準に一致し、該当する状況を持つすべての伝票が印刷されます。ほとんどの会社で、これらの印刷プログラムにさまざまなバージョンを設定しています。各バージョンで異なるデータ選択を行い、特定のタイプの出荷または積荷について伝票を印刷できます。

処理オプション:バッチ配送伝票 - 出荷(R49549)

印刷制御
伝票コード
印刷制御デポ(伝票コードが入力されていた場合には必須)

使用する<配送伝票の印刷>プログラム(P49590)のバージョンを入力してください。

処理オプション:バッチ配送伝票 - 積荷(R49548)

印刷制御
伝票コード
印刷制御デポ(伝票コードが入力されている場合には必須)

使用する<配送伝票の印刷>プログラム(P49590)のバージョンを入力してください。

伝票バッチの検討

<伝票照会(バッチ)>プログラム(P49590)により、伝票リストに戻ってバッチを印刷することができます。印刷バッチは、保留状況のままにできます。後で<伝票リスト>フォームから保留中のバッチを復元して、バッチの印刷を再開することができます。このプログラムを使用して、バッチの印刷に失敗した場合に印刷を再開できます。バッチが正しく印刷されると、このバッチは削除されます。

▶ 伝票バッチを検討するには

<出荷伝票>メニュー(G4912)から<伝票照会(バッチ)>を選びます。

1. <印刷バッチの処理>で、[検索]をクリックします。
2. バッチに関する状況およびその他の状況を検討します。
3. このフォームから印刷するには、バッチを選択して印刷します。

処理オプション:伝票印刷(オンライン)(P49590)

バージョン

実行する<運賃>のバージョンを入力してください。バージョンを入力しない場合、運賃処理は呼び出されません。(任意)

印刷制御
伝票が印刷される場所を確定するプリンタ参照番号を入力してください。

出荷伝票の印刷ジョブを投入したユーザー以外に伝票メッセージが送られる場合、そのメッセージを受け取るための住所番号を入力してください。

伝票登録の検討

〈伝票登録照会〉プログラム(P49695)を使用して、印刷するすべての伝票を表示することができます。これには、各伝票に関する次の情報が含まれます。

- 伝票番号
- 顧客
- 伝票日付
- 金額

〈伝票登録照会〉は参照用のフォームです。このフォームを使用して、印刷する伝票に含まれる情報を検討できます。

▶ 伝票登録を検討するには

〈出荷伝票〉メニュー(G4912)から〈伝票登録照会〉を選びます。

1. 〈伝票登録の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 情報を検討して[閉じる]をクリックします。

配送証明の記録

〈配送確認〉プログラム(P49650)を使用して、配達証明の情報を記録できます。この情報は、実際の配送日付と時刻、および配送を受け取る担当で構成されます。システムには、出荷に伴う配送証明の情報が保存され、出荷状況レコードが書き込まれます。

はじめる前に

- 出荷の配送確認を許可するように処理オプションと状況を指定します。
- 配送証明に関する処理オプションを表示するには、『輸送管理』ガイドの「出荷の処理の処理オプション」を参照してください。

▶ 配送証明を記録するには

〈出荷および積荷〉(G4911)から〈出荷の処理〉を選びます。

1. 〈出荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 配送証明を記録する出荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[確認]-[配送確認]を選びます。
4. 〈出荷の配送確認〉で、次のフィールドに値を入力して [OK]をクリックします。
 - 配送日付
 - 配送時刻
 - 入荷担当者

積荷の確認

積荷は、1つまたは複数の出荷で構成されます。積荷を確認することにより、出荷した製品の実際数量を記録します。積荷の確認方法は、積荷がコンパートメントに割り当てられているか、または積送中の在庫をトラッキングするかどうかによって異なります。

積荷がコンパートメントに割り当てられていない場合は、出荷レベルまたはオーダー行レベルで積荷を確認します。積荷がコンパートメントに割り当てられている場合は、製品レベルまたはコンパートメント・レベルで積荷を確認します。

積荷が積送中の在庫をトラッキングするように定義されている場合、在庫は事業所の在庫残高から積送中積荷の残高へ移動され、システムにより総勘定元帳の仕訳が作成されて、棚卸資産が積送中の棚卸資産残高に移されます。積送中積荷元帳テーブル(F49631)で積送中在庫の移動がトラッキングされます。また、積送中積荷テーブル(F4963)に積送中在庫残高が記録されます。

コンパートメントに割り当てられた積荷を積送中在庫として確認する場合、「スケジュールどおり」として確認するか、積荷された実際数量を使用して確認することができます。積荷を「スケジュールどおり」として確認すると、積荷に予定された数量に従って在庫がリリースされます。積載された実際数量によって積荷を確認すると、その実際数量に基づいて在庫がリリースされます。バルク製品を確認する場合は、「スケジュール通り」オプションを使用します。「実績数量」オプションを使用して積荷を確認する場合は、積荷数量が予定の数量に一致しない場合、受注オーダーを積荷時に調整するかどうかを指定することもできます。通常は、請求書を印刷して製品に添付しない限り、配送が確認されるまで受注オーダーの数量は調整しません。

積送中の在庫をトラッキングしない積荷の在庫は、オーダー入カプログラムの出荷確認オプションの設定によって、積荷確認時にリリースされるかどうか異なります。コンパートメントに割り当てられていて、積送中在庫をトラッキングする積荷の場合は、積置きになっている製品がトラッキングされます。積置きになっている製品は事前ロード済み数量であると考えられ、一部の製品がすでに車両に積載されていると表示されます。

積荷を確認すると、積荷日付と時刻について実際の出荷日付と時刻が取り込まれます。必要に応じて、実際の配送日付と時刻を更新することができます。

積荷確認時に台秤情報情報を使用してコンパートメント内の製品の重量が計算されます。次に、計算されたデータが〈積荷確認〉フォームに表示されます。気温の変動によって影響を受けるバルク製品の場合は、密度または温度、あるいはその両方の差異も計算されます。

参照

- 積送中在庫のトラッキング、スケジュール通りの積荷の設定、確認時の受注オーダーの実績の調整については『輸送管理』ガイドの「積荷タイプの設定」
- 台秤情報の使用方法については『バルク在庫管理』ガイドの「台秤情報からの容量の計算」

▶ 積荷を確認するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷確認〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 確認する積荷を選んで、[ロー]メニューから[積荷確認]を選びます。

PeopleSoft.

積荷確認

OK キャンセル フォーム ロー ツール

計画デポ 30 積荷No. 4 Load Approved
 車両タイプ S1000 運送業者 8563 Intermountain Truckload
 車両ID

計画出荷日付 05/06/15 時刻 0
 出荷デポ 30 シフト
 積荷タイプ ST Standard Load

実際日付および時刻
 積荷確認 03/10/02 162050
 実際出荷日付
 実際配送

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	出荷先 名称	出荷先 市	出荷先 郡	出荷 状況	約束配送 日付	約束 配送時刻	重量 合計	重量 単位	バルク 容量
<input checked="" type="checkbox"/>	Capital System	Atlanta	GA	Approved	05/06/16		10.0000	LB	
<input checked="" type="checkbox"/>	Capital System	Atlanta	GA	Approved	05/06/16		10.0000	LB	
<input checked="" type="checkbox"/>	Capital System	Atlanta	GA	Approved	05/06/16		10.0000	LB	
<input checked="" type="checkbox"/>	Capital System	Atlanta	GA	Approved	05/06/16		10.0000	LB	
<input checked="" type="checkbox"/>	Capital System	Atlanta	GA	Approved	05/06/16		23000.0000	LB	

3. <積荷確認>で、次のフィールドに値を入力します。

- 積荷確認
- 実際出荷日付
- 実際配送

4. 封印番号を記録するには、[フォーム]メニューから[封印]を選びます。

PeopleSoft

封印改訂

OK 削除 キャンセル フォーム ツール

計画番号
 積荷No.
 出荷No.
 出荷元No.
 実際出荷日付
 基本庫荷ID

グリッドのカスタマイズ

封印 No.	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="text"/>

5. 〈封印改訂〉で、各封印に関する行を入力して[OK]をクリックします。
 - 封印 No.
6. 〈積荷確認〉で、コンパートメントに割り当てられていない積荷の個々の出荷を確認する場合は、[ロー]メニューから[出荷確認]を選びます。
7. 〈出荷確認〉で、数量を改訂して[OK]をクリックします。
出荷をすべて確認すると、積荷の状況は次に進みます。
8. 〈積荷確認〉で、すべての情報が記録されていて正しく確認されたら、[OK]をクリックします。

処理オプション: 積荷確認(P49640)

処理タブ

次の処理オプションを使用すると、積荷確認中にシステムが情報をどのように処理するかをさまざまな方法で制御できます。

1. 配送伝票の印刷

ブランク = 配送伝票を印刷しない

1 = 配送伝票を印刷する

移動伝票を印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 配送伝票を印刷しない

1 = 配送伝票を印刷する

2. 配送伝票選択肢フォームの表示

blank = 表示しない

1 = 表示する

〈配送伝票の選択〉フォームを表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 表示しない

1 = 表示する

3. 確認済み行の受注オーダー状況(必須)

確認済み行の受注オーダー状況を指定します。

この状況は、〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)で定義された現行伝票タイプに対して有効な「次の状況」あるいはその他の使用可能な「次の状況」である必要があります。

4. 積送中品目がトラッキングされている一時変更用受注オーダーの「次の状況」(必須)

積送中在庫をトラッキングする受注オーダーの一時変更用「次の状況」を指定します。

この状況は、〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)で定義された現行伝票タイプに対して有効な「次の状況」である必要があります。

5. 積送中品目がトラッキングされていない一時変更用受注オーダーの「次の状況」(必須)

積送中在庫をトラッキングしない受注オーダーの一時変更用「次の状況」を指定します。この状況は、〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)で定義された現行伝票タイプに対して有効な「次の状況」である必要があります。

6. 確認済み行の返品オーダー状況

確認済み行の返品オーダー状況を指定します。〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)で定義された現行伝票タイプの状況コードすべてが有効な値となります。

7. 積送中品目がトラッキングされている一時変更用返品オーダーの「次の状況」

積送中在庫をトラッキングする返品オーダーの一時変更用「次の状況」を指定します。

現行伝票タイプに対して〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)で定義された「次の状況」を入力してください。これは必須フィールドです。

8. 積送中品目がトラッキングされていない一時変更用返品オーダーの「次の状況」(必須)

積送中在庫をトラッキングしない返品オーダーの「次の状況」を指定します。

現行伝票タイプに対して〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)で定義された状況コードが有効な値となります。

9. 受信済み行の購買オーダー状況(必須)

確認済み行の購買オーダー状況を指定します。

〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)で定義された現行の伝票タイプの状況コードが有効な値となります。

10. 積送中品目がトラッキングされている出荷の「次の状況」(必須)

積送中在庫をトラッキングする出荷の一時変更用「次の状況」を指定します。

11. 積送中品目がトラッキングされていない出荷の「次の状況」(必須)

積送中在庫をトラッキングしない出荷の一時変更用「次の状況」(UDC 49/SL)を指定します。

12. 積送中品目がトラッキングされている積荷の「次の状況」(必須)

積送中在庫をトラッキングする積荷の「次の状況」(UDC 49/SL)を指定します。

13. 積送中品目がトラッキングされていない積荷の「次の状況」(必須)

積送中在庫をトラッキングしない積荷の「次の状況」(UDC 49/SL)を指定します。

14. 部分的に確認済みの積荷の「次の状況」

ブランク = 状況は更新されない

部分完了積荷の積荷状況(UDC 49/SL)を指定します。

積荷状況を指定することで、確認済みの出荷を最低1つ持つ積荷が却下されるのを防ぎます。ブランクにすると、状況は更新されません。

15. 出荷状況範囲-開始

出荷状況(41/SS)の範囲内での最も低い値を指定します。

〈輸送固定情報〉プログラム(P49002)ですでに定義されているすべての出荷状況を使用できます。

出荷状況範囲-終了

出荷状況(41/SS)の範囲内での最も高い値を指定します。

〈輸送固定情報〉プログラム(P49002)ですでに定義されているすべての値を使用できます。

16. 処理する積荷状況範囲-開始

積荷状況 (49/SL)の範囲内の最も低い値を指定します。

〈輸送固定情報〉プログラム(P49002)ですでに定義されているすべての値を使用できます。

処理する積荷状況範囲-終了

積荷状況 (49/SL)の範囲内の最も高い値を指定します。

〈輸送固定情報〉プログラム(P49002)ですでに定義されているすべての値を使用できます。

17.. 前の積荷が完了したことを示す状況

前の積荷が完了したことを示す状況を指定します。有効な値は、〈輸送固定情報〉プログラム(P49002)で定義され、ユーザー定義コード 49/SL(積荷状況)に保管されます。これは通常 80 と定義されます。

18. 積送中品目をトラッキングする際に使用する伝票タイプ。

blank = CT

積送中在庫をトラッキングする際に使用する伝票タイプ(00/DT)を指定します。

〈オーダー処理順序定義〉プログラム(P40204)ですでに定義されているすべての値が使用できます。

blank = CT 伝票タイプ(輸送確認)

19. 積送中在庫バルク品目のマイナス数量

blank = マイナス数量を許可しない

1 = マイナス値を許可する

バルク製品の積送中在庫にマイナス数量を許可するかどうかを指定します。

blank = マイナスの数量を許可しない

1 = マイナスの数量を許可する

20. 積送中在庫パッケージ品目のマイナス数量

blank = マイナス数量を許可しない

1 = マイナス数量を許可する

パッケージ製品の積送中在庫にマイナス数量を許可するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = マイナスの数量を許可しない

1 = マイナスの数量を許可する

21. バルク品目-上限値

積荷数量の最大許容範囲を表すパーセントを指定します。

22. パッケージ品目-上限値

積荷数量の最大許容範囲を表すパーセントを指定します。

23. バルク品目 - 下限値

積荷数量の最低許容範囲を表すパーセントを指定します。

24. パッケージ品目-下限値

積荷数量の最低許容範囲を表すパーセントを指定します。

25. オーダー行実績調整

ブランク = <実績調整>フォームを表示して手入力で調整

1 = 自動調整

この処理オプションでは、計画数量と積荷数量の差異についてシステムがそれを自動調整するか、それとも差異を手入力で調整し積荷を再割当てする[実績調整]フォームを表示するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = [実績調整]フォームを表示する

1 = 自動的に差異を調整する

26. 車両の封印が必要かどうかのチェック

ブランク = チェックする

1 = チェックしない

車両に封印が必要かどうかのチェックについて指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 封印が必要かどうかをチェックする

1 = 封印が必要かどうかをチェックしない

27. バルク製品コンパートメント・フィールドの保護

blank = 保護しない

1 = 保護する

常温、標準、重量数量に対してバルク製品ハッチフィールドを保護するかどうかを指定します。
ただし、バルク製品ハッチフィールドを保護しても、温度、密度情報は変更できます。

有効な値は次のとおりです。

blank = 保護しない

1 = 保護する

契約タブ

次のオプションを使用すると、契約に使用するデフォルト情報を指定できます。この情報を使用して、契約を使用する際のデフォルト値が自動的に割り当てられます。

1. 契約割当てオプション

blank = 失効日付が最も早い契約を割り当てる

1 = 契約が1つしか検索されなかった場合のみ割り当てる

2 = ユーザーが契約を選択する必要がある

契約の割当て方法を指定します。

このオプションをblankにすると、最も早い日付の契約が自動的に割り当てられます。

有効な値は次のとおりです。

1 = 契約が1件だけ検索された場合、その契約を割り当てる

2 = ユーザーが契約を選択する

3 = 最も早い日付の契約を自動的に割り当てる

2. 契約検索プログラムで出荷先として使用する事業所

<契約選択ウィンドウ>プログラム(P38200W)で出荷先として使用される事業所を指定します。

3. または、

1 = 'ANY'を使用する

2 = デフォルトの事業所を使用する

〈契約選択ウィンドウ〉プログラム(P38200W)で出荷目的地として使用される事業所を指定します。

有効な値は次のとおりです。

1 = *(ワイルドカード/すべての事業所)

2 = ユーザーのデフォルト事業所

バージョン・タブ

次の処理オプションは、積荷確認の見出しまたは詳細のフォームで関連付けられたローまたはフォーム・エグジットを選択すると使用されるバージョンを決定します。空白にした場合は、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

バージョンごとにプログラムの情報の表示方法が異なります。このため、バージョンをニーズに合わせるには、処理オプションを設定する必要があります。

1. 積荷確認のカートン状況

空白 = カートン状況は検証されない

積送中在庫をトラッキングしない積荷に使用される〈入荷確認〉プログラム(P4312)のバージョンを指定します。

空白の場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

2. 出荷明細とカートン明細の調整

空白 = 調整しない

1 = 調整する

積送中在庫をトラッキングする積荷に使用される〈入荷確認〉プログラム(P4312)のバージョンを指定します。

このオプションを空白にすると、積送中在庫をトラッキングしないバージョンが前の処理オプションから使用されます。

3. カートンの「次の状況」

空白 = カートン状況は更新されない

配送伝票印刷(P49590)のバージョンを指定します。

空白の場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

4. カートン料金の受注オーダー行作成

blank = 可能にしない

1 = 可能にする

出荷確認(P4205)のバージョンを指定します。

blankの場合、どのバージョンも使用されず、受注オーダー状況は処理されません。

5. <UCC128 出荷編集>プログラム (R42071)のバージョン

blank = ZJDE0001

<UCC 128 出荷編集(バッチ)>プログラム(R42071)のバージョンを指定します。

blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

6. <試験結果の改訂>プログラム (P3711)のバージョン (コンパートメント・レベル)

blank = ZJDE0003

品質がコンパートメント・レベルで指定されていることが積荷タイプで示されている場合に実行する<試験結果の改訂>プログラム(P3711)のバージョンを指定します。

blankにした場合、デフォルトのバージョン ZJDE0003 が使用されます。

7. <試験結果の改訂>プログラム (P3711)のバージョン (顧客レベル)

blank = ZJDE0001

品質チェックが顧客/品目レベルで指定されていることを積荷タイプが示す場合に使用される<テスト結果改訂>プログラム(P3711)のバージョンを指定します。

blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

8. カートン数量に基づいたカートン料金用受注オーダー入力 (P4210)のバージョン

blank = ZJDE0019

将来使用。

カートン数量に基づいたカートン料金に対する受注オーダー行の書き込みに使用される<受注オーダー入力>プログラム (P4210) のバージョンを指定します。

カートン料金がカートンに基づいている場合、このバージョンは在庫をリリースする受注オーダーを 1 行作成し、カートン料金を保持します。

在庫は売上更新の際に、リリースされます。

blankにした場合、デフォルトのバージョン ZJDE0019 が使用されます。

9. カートン料金が品目数量に基づいている場合の、売上更新時のカートン在庫リリース用受注

オーダー入力 (P4210)のバージョン

blank = ZJDE0020

将来使用。

カートン料金が品目数量に基づいている場合、売上更新の際の在庫リリースに対する受注オーダー行の書き込みに使用される<受注オーダー入力>プログラム (P4210) のバージョンを指定します。

blankにした場合、デフォルトのバージョン ZJDE0020 が使用されます。

10. 品目数量に基づいたカートン料金用受注オーダー入力 (P4210)のバージョン

blank = ZJDE0021

将来使用。

品目数量に基づいたカートン料金に対する受注オーダー行の書き込みに使用される<受注オーダー入力>プログラム (P4210) のバージョンを指定します。

この行は在庫リリースに使用されませんが、カートン料金を反映します。

デフォルトのバージョンは ZJDE0021 です。

カートン・タブ

カートンの処理方法を指定します。

1. 積荷確認の Karton 状況

blank = Karton 状況は検証されない

将来使用。

出荷と積荷の Karton 状況を指定します。すべての Karton は確認されるためこの状況にある必要があります。有効な値は、Karton 状況 (46/CS) のユーザー定義コードから選択されます。この処理オプションを blank にすると、Karton 状況は、検証されません。

2. 出荷明細と Karton 明細の調整

blank = 調整しない

1 = 調整する

将来使用。

出荷明細と対応させてカートン明細を調整するかどうか指定します。
有効な値は次のとおりです。

ブランク = 調整しない
1 = 調整する

3. カートンの「次の状況」

ブランク = カートン状況は更新されない

将来使用。

出荷/積荷確認が問題なく完了したすべてのカートンの次の状況を指定します。有効な値は、カートン状況(46/CS)のユーザー定義コードから選択されます。この処理オプションをブランクにすると、カートン状況は、更新されません。

参照

- 積荷確認の処理オプションの設定については『輸送管理』ガイドの「積荷の処理(P4960)の処理オプション」

封印の処理

出荷に対して封印を使用する場合は、積荷、製品、および出荷を封印番号別に検索することが必要になる場合があります。〈封印〉プログラム(P49380)を使用して、割り当てられた封印の情報を変更したり、新しい封印番号を追加することができます。

▶ 封印を処理するには

〈輸送照会〉メニュー(G4914)から〈封印処理〉を選びます。

1. 既存の封印を検索するには、〈封印処理〉で次のフィールドのいずれかに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 計画デポ
 - 出荷デポ
 - 積荷 No.
 - 出荷元
2. 封印を記録するには、[追加]をクリックします。

3. 〈封印改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 計画デポ
- 出荷デポ
- 積荷 No.
- 出荷元 No.
- 基本車両 ID
- 実際出荷日付
- 封印数
- 封印 No.

配送の確認

積荷に組み込む出荷ごとに製品の配送を確認して、配送された実際数量と積荷になった数量を照合できます。この処理は、積荷で積送中の在庫をトラッキングする場合に限り実行するようにしてください。たとえば、品目相互参照を使用して、満載のコンテナと対応する空のコンテナを関連付けることで、空のコンテナが戻ったことを確認できます。空のコンテナの戻りを表すために新しい受注オーダー行が作成されます。

積荷の出荷配送と、積送中の在庫は次の方法のどちらかを使用して確認できます。

- 出荷の1つまたは複数のオーダー行の配送数量が、スケジュールどおりの数量と一致しない場合は、個々のオーダー行の数量を確認します。
- 「スケジュールどおり」として確認して、出荷のすべての行の数量が予定の配送数量と一致していることを示します。

配送できない場合には、次の処理を行うこともできます。

- 出荷のオーダー行がいずれも配送できず、オーダー行をキャンセルする場合は、取り消します。
- 出荷のオーダー行が一部またはすべて配送できず、このオーダー行を別の積荷に適用する場合は、出荷可能としておきます。

インバウンドの出荷の配送確認を使用して、積送中在庫がトラッキングされている製品の実績配送数量を確認できます。積荷の積送中在庫をトラッキングしていない場合は、数量ではなく配送日付と時刻を更新する配送証明が作成されます。インバウンドの出荷の配送を確認する手順は、アウトバウンドの出荷の場合と同様です。

▶ 配送を確認するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷の配送確認〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 配送を確認する出荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[配送確認]を選択します。

PeopleSoft

積荷配送確認

OK キャンセル フォーム ロー ツール

計画番号 積荷No. *In-Transit*
 車両タイプ 運送業者 No.
 車両 ID

配送日付 配送時刻

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	出荷先No.	出荷先名称	出荷先市	出荷先番道府県	実際配送日付	実際配送時刻	入荷担当者	約束配送日
<input checked="" type="checkbox"/>	4245	Cloud Nine Inc.	Arvada	CO	03/09/23			
<input type="checkbox"/>	4247	Coastal Services	San Francisco	CA	03/09/23			

4. 〈積荷配送確認〉で、出荷を選んで[ロー]メニューからこの出荷に適用する方法に対応したオプションを選びます。
5. 〈アプリケーション〉フォームで、[Yes]をクリックして、[OK]をクリックします。
6. 〈出荷の配送確認〉で、次のフィールドのいずれかに値を入力して、[OK]をクリックします。
 - 配送日付
 - 配送時刻
 - 処分コード
 - 入荷担当者
7. 〈積荷配送確認〉で、グリッドの情報を検討/改訂して [OK]をクリックします。

計画外配送の作成

出荷処理の始点である受注オーダーがない場合でも、顧客への製品の配送を記録することができます。このような配送を計画外配送と呼びます。計画外配送は、積送中在庫としてトラッキングする積荷についてのみ適用されます。たとえば、すべての製品を計画した顧客に配送せず、別の顧客に配送してしまった場合に計画外配送を使用します。このような配送は巡回配達と呼ぶことがあります。

〈計画外配送〉フォームには、〈積荷配送確認〉フォームまたは〈積荷処分〉フォームのどちらからでもアクセスできます。車両に積載する積荷のオーダーを作成して、計画外積荷を設定します。積荷を作成すると、オーダーに出荷が追加されます。配送を確認すると、実際に配送されなかった出荷は取り消されます。この後で、実際に配送された出荷に関する情報を入力できます。

計画外配送を既存のオーダーに記録することも、新しいオーダーを作成して記録することもできます。計画外配送の記録に必要な情報には、顧客の出荷先住所番号、配送品目、および配送数量があります。計画外配送を確認する既存のオーダーを検索することも、新しいオーダーを作成することもできます。新しいオーダーを作成する場合は、オーダー番号を手入力することも、自動的に割り当てることもできます。

場合によっては、顧客が製品を製造業者または流通業者に返品しなければならないことがあります。顧客からは通常、返金が求められるので、返品された製品の処分を指定する必要があります。このような場合には、インバウンドの計画外配送を作成できます。返品された製品の計画外配送を確認する既存のオーダーを検索することも、新しいオーダーを作成することもできます。製品を積送中在庫と指定して、処分時に返品を処理することができます。

注:

返品オーダーの一部である品目など、品目の選択には計画外配送を使用できます。返品品目は新しい受注オーダー行を追加して表示されます。オーダー明細行にはマイナス(返品)の数量が記載されます。

▶ 計画外配送を作成するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷処分〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 計画外配送を作成する積荷を選んで、[ロー]メニューから[配送確認]を選びます。
積荷は、確認済みの積送中積荷として設定されている必要があります。
3. 〈積荷配送確認〉で、[フォーム]メニューから[計画外]を選びます。
4. 〈計画外配送〉で、グリッドの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 出荷先 No.
 - 品目 No.
 - 出荷数量
 - 単位
 - オーダーNo.
 - オーダータイプ

処分の記録

積送中在庫のトラックを行う製品を配送すると、配送が終わった後で車両に製品が積置きになっていることがあります。この状況は、バルク製品の場合に起こり、たとえば顧客のタンクが満杯になって、これ以上製品を受け入れられないといった場合があります。また、パッケージ製品では、顧客に十分な在庫スペースがない場合も考えられます。残った製品をどのように処分するかを記録する必要があります。

製品の処分を記録するときに、次の操作を行うことができます。

- 残品をデポのタンクか、特定の在庫保管場所に返品するように指定する。
- 残品を車両に積置きして、次回の積荷に転用するように指定する。
- 配送中に起きた製品の増減(たとえば、漏れや蒸発など)を記録する。

注:

増減の記録は、バルク製品に限ったオプションです。パッケージ製品の場合は、システムに直接、増減を記録することはできません。紛失や損傷のあったパッケージ製品は、そのまま在庫に返品して通常の在庫機能を使って、仕損扱いにすることも償却することもできます。

積荷の処分を記録する場合は、積荷が次の条件を満たしている必要があります。

- 積荷が積送中在庫としてトラッキングされること。
- 積荷の状況が「配送済み」以降の段階に進めること。
- 製品を次回の積荷に備えて積置きにする場合は、コンパートメントに割り当てられる積荷タイプであること。
- 輸送モード固定情報の積荷タイプに対して「積置貨物の処分を可能にする」オプションが有効になっていること。

積荷の処分が決まった時点で、処分方法に応じて次の3つのテーブルが更新されます。

- 残品を在庫に戻すと、品目元帳(F4111)が更新される。
- 製品が積置きされている場合、積置き積送中積荷(F49632)が更新される。
- 積荷の増減が記録されると、増減トランザクション(F41512)が更新される。

参照

- 製品の積置きができる積荷タイプの設定方法については『輸送管理』ガイドの「積荷タイプの設定」
- 積荷処分の設定の処理オプションについては、『輸送管理』ガイドの「積荷の処理(P4960)の処理オプション」

▶ 処分を記録するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈積荷処分〉を選びます。

1. 〈積荷の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 処分を記録する積荷を選択して、[ロー]メニューから[処分]を選びます。
3. 〈積荷の処分〉で、一覧のすべての品目の配送が完了した場合は[OK]をクリックします。
4. 製品を在庫に戻すには、次のフィールドに値を入力します。
 - 返品数量
在庫に戻された数量を入力します。
 - 返品保管場所

基本保管場所に基づいて保管場所を入力するか、または保管場所を自動的に割り当てることができます。

- 返品ロット
一般に、在庫は出荷時と同じロットに戻します。
5. 製品が積置きにされていることを示すには、次のフィールドに値を入力してトラック内の数量とコンパートメントを特定します。
 - 積置数量
 - コンパートメント No.
 6. 複数の場所またはコンパートメントに対して製品処分を記録するには、[ロー]メニューから[複数処分]を選びます。
 7. 〈複数積荷の処分〉で、各保管場所またはコンパートメントの行を入力して[OK]をクリックします。

積送中在庫情報の検討

会社は、アウトバウンド在庫の所有権を顧客に配送されるまで保持することがあります。また、インバウンド在庫の所有権を出荷業者のドックを離れた時点で取得することもあります。そのような場合は、積送中在庫を表示する必要があります。積荷中の出荷の確認、配送の確認または処分の記録が完了した段階で、品目元帳にトランザクション・レコード情報が書き込まれます。

品目別ではなくデポ別に情報を検討するには元帳を使用します。バルク製品とパッケージ製品の両方について、この情報が記録されます。

▶ 品目別に在庫積送中情報を検討するには

〈輸送照会〉メニュー(G4914)から〈積送中在庫の処理〉を選びます。

1. 〈アウトバウンド積送中貨物の処理〉で、見出し域の次のうち必要なフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
2. 積送中積荷元帳を検討するには、品目を選んで[ロー]メニューから[積送中積荷元帳]を選びます。
3. 処分を記録するには、品目を選んで[ロー]メニューから[処分]を選びます。
4. 運送業者側に積置きされた数量を記録するには、品目を選んで[ロー]メニューから[積置き]を選びます。

▶ 積送中積荷元帳を検討するには

〈輸送照会〉メニュー(G4914)から〈積送中積荷元帳の処理〉を選びます。

1. 〈積送中積荷元帳の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 情報を検討して[閉じる]をクリックします。

出荷トラッキング

出荷をトラッキングすることにより、現在、出荷が物理的に存在する場所やシステムでの出荷状況を把握することができます。この情報を使って製品が顧客に移動するまでの状況を確認できます。次の機能により、出荷のトラッキングが可能になります。

**受注残および完了
オーダー照会** <受注オーダー入力>(P4210)プログラムの<受注残および完了オーダー照会>フォームでオーダー情報を確認する際、出荷状況にアクセスできます。

出荷参照番号 出荷に対応する配送伝票番号を使用できます。

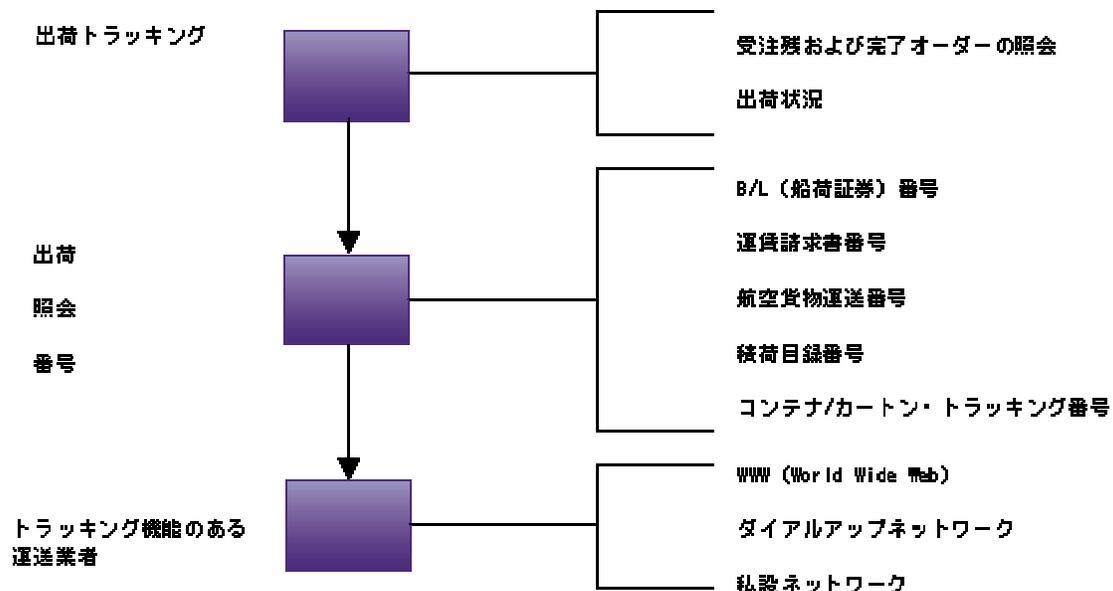
**運送業者による
トラッキング
サービス** インターネット、電話番号に加え、運送業者が提供するサービスによって出荷をトラッキングできます。たとえば、Web サイトを持った小荷物運送業者に依頼して、製品を送ることもできます。トラッキング番号を使用して、インターネットから該当する Web サイトにリンクすれば、自社の出荷をトラッキングすることができます。

出荷トラッキングを使うと次のことができます。

- 出荷および貨物の状況と配送経路情報
- 出荷参照番号テーブルの保管または編集
- 出荷状況コードの保管または編集
- さまざまなトラッキング機能

次の図は、出荷状況の確認方法を示しています。

出荷状況照会



出荷のトラッキング

出荷をトラッキングすることにより、積送中の出荷に関する詳しい情報を収集することができます。トラッキングできる情報には、出荷の状況や配送経路に関する内容があります。出荷トラッキングによって、出荷プロセス全体を効果的に管理できるようになります。また出荷トラッキング機能を使用することにより、現在、出荷を輸送している運送業者の輸送状況を検索することもできます。この運送業者のトラッキングは、インターネットや電話以外に担当の運送業者が利用している手段を使用して実施できます。

次の図は、受注管理システムと輸送管理システムの間で統合されたオーダー・フローを示しています。さらに、運送業者の提供する情報によって、出荷状況を検討する際に積送中の情報を取り込むことができます。

出荷に参照番号を追加した場合、その番号を出荷トラッキングに使用します。この場合、運送業者から提供される参照番号を使用することも、自社の参照番号を生成することもできます。たとえば、参照番号には船荷証券や、運送業者が提供する任意の番号などが使用できます。

参照

- 『輸送管理』ガイドの「トラッキング番号の入力」

出荷状況の検討

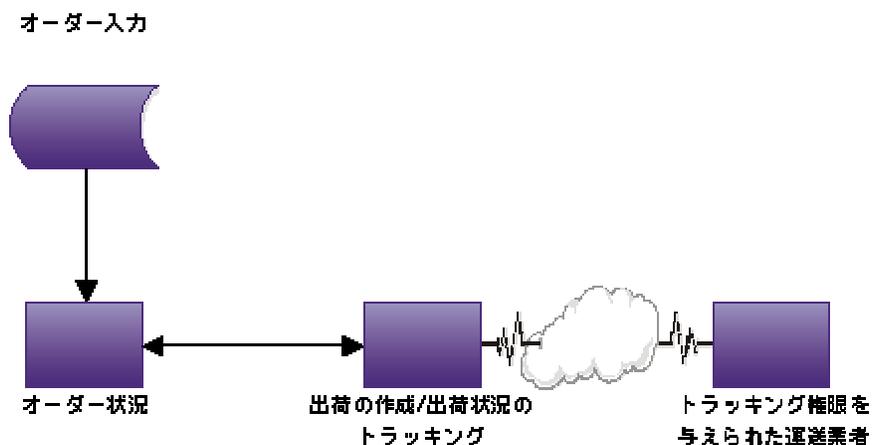
次のような出荷状況に関連する情報を検討することができます。

- 予定および実際の出荷日付と時刻
- 予定および実際の配送日付と時刻
- モード
- 運送業者
- 請求可能運賃合計
- 出荷トラッキング番号

出荷状況を検討することにより、出荷の確認後や積送中の出荷に関する情報を確認できます。

〈出荷トラッキング〉プログラム(P4947)の[処理]タブで[カスタマー・セルフサービス・モード]処理オプションを設定する際、顧客がサインオンして作成済みの顧客へのお荷物の状況を確認できます。出荷状況を検討することによって、顧客は出荷と配送プロセスに簡単にアクセスすることができます。このプログラムを実行すると、出荷の遅れや問題などを早めに知ることができます。

出荷のトラッキング



▶ 出荷状況を検討するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈出荷状況の処理〉を選びます。

または、カスタマー・セルフサービス(G42314)から〈出荷のトラッキング〉を選ぶこともできます。

1. 〈出荷のトラッキング〉で、[検索]をクリックします。
2. 出荷情報を検討する出荷を選んで、[選択]をクリックします。

PeopleSoft

出荷状況

キャンセル フォーム ツール

✖ □ 監

事業所

出荷 No.

出荷状況 Pending

販売先 Capital System

出荷先 Capital System

運送者

輸送モード

前の状況コード

参照No.

日付時刻

要求日付

約束出荷日付 実際出荷日付

約束配達日付 配達日付

顧客運賃

3. 〈出荷状況〉で、出荷情報を検討しをクリックします。

出荷トラッキング

出荷を作成して、運送業者または車両を割り当てた後は、輸送プロセス全体を通じてトラッキングできます。また出荷中の個々の品目をトラッキングすることもできます。出荷トラッキングを使って、輸送プロセス中の出荷の状況を確認することにより、顧客へのサービスを向上させることができます。

出荷レベルのトラッキングでは、すべての品目を含めた出荷全体の状況が照会されます。貨物レベルでのトラッキングでは、出荷内の貨物が照会されます。

注:

運送業者のトラッキング機能で出荷や貨物をトラッキングするには、運送業者のトラッキング機能と連動するビジネス関数が必要です。J.D. Edwards では、Web 上で出荷トラッキング機能を提供する運送業者用の標準ビジネス関数を用意しています。

はじめる前に

- 出荷貨物をトラッキングするには、有効な品目情報を入力する必要があります。出荷貨物の品目情報を入力するには、〈出荷の処理〉フォームのメニューから[改訂]-[貨物]を選択して、有効な品目情報を入力してください。『輸送管理』ガイドの「出荷貨物の定義」を参照してください。

▶ 貨物をトラッキングするには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈出荷状況の処理〉を選びます。

1. 〈出荷のトラッキング〉で、[検索]をクリックします。
2. トラッキングする出荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[出荷貨物トラッキング]を選びます。

出荷には、システムに入力済みの有効な参照番号が必要です。[ロー]メニューから[参照 No.の改訂]を選んで、〈出荷参照番号の改訂〉で参照番号を入力できます。

4. 出荷に関する情報を検討します。

▶ 出荷をトラッキングするには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈出荷状況の処理〉を選びます。

1. 〈出荷のトラッキング〉で、[検索]をクリックします。
2. 貨物をトラッキングする出荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[出荷トラッキング]を選びます。
4. 〈出荷貨物〉で、[検索]をクリックしてトラッキングする出荷貨物を選びます。
5. [選択]をクリックし、[出荷状況]フォームで情報を表示します。

出荷状況の記録

出荷を記録した状況コードを表示することができます。出荷状況コードは、出荷状況コード・テーブル(F4947)に追加または削除できます。複数品目で構成した出荷のうち1つの品目だけに状況コードが適用される場合は、トラッキング番号と出荷状況コードを対応させることができます。

▶ 出荷状況を記録するには

〈出荷および積荷〉メニュー(G4911)から〈出荷状況の処理〉を選びます。

1. 〈出荷のトラッキング〉で、[検索]をクリックします。
2. 状況を記録する出荷を選びます。
3. [ロー]メニューから[状況コードの改訂]を選びます。
4. 〈出荷状況コードの改訂〉で、グリッドの次のフィールドに値を入力します。
 - 状況コード
 - 状況日付
 - 状況時間
 - 状況理由

- 記述
- 参照 No.
- 参照修飾子

処理オプション: 出荷のトラッキング(P4947)

表示

選択する出荷状況コードの範囲を入力してください。

開始出荷状況

終了出荷状況

各出荷の最初の配送経路ステップのみを表示するには、“1”を入力してください。

はい/いいえ - 1

処理

カスタマー・セルフサービス・モードに対して有効な値は次のとおりです。

ブランク = カスタマー・セルフサービス機能を使用しない

1 = JAVA/HTML でカスタマー・セルフサービス・モードを使用する

1. カスタマー・セルフサービス・モード

運賃の更新

運賃の更新とは、勘定科目に運賃を書き込むプロセスをいいます。出荷と積荷の両方の運賃を更新することができます。更新は、出荷または積荷の確認と配送が終わった後、あるいは積荷の処分を記録した後に行います。

〈運賃の更新〉レポート(R4981)を使用して、必要に応じて運賃にかかる税金を含んだ請求運賃を受注管理システムの各オーダーに移行したり、運送業者から請求される支払運賃を買掛管理システムや総勘定元帳に未払運賃として計上したりできます。運賃を更新すると、総勘定元帳に仕訳が作成され、運送業者マスター(P4906)で自動支払として設定された運送業者に対して買掛管理システムに支払項目が記入されます。

運賃の更新

運賃を更新すると、出荷と積荷に対する最終的な支払運賃と請求運賃(必要なに応じて運賃にかかる税金を含む)のレコードが作成されます。仕訳入力を介して総勘定元帳に支払運賃が計上され、支払項目によって自動支払運送業者への買掛金に記入されます。顧客の運賃優先情報に従って、出荷または積荷のオーダーに請求運賃が追加されます。

出荷元デポ別または所有事業所別で〈運賃の更新〉レポート(R4981)を実行します。処理オプションとシステム・セットアップの値に基づいて、運送業者別の請求書と請求書日付が作成されます。元帳日付、システム日付、または運賃の更新を実行する日として入力する日付を使用できます。

運賃は集計することができます。次のリストでは運賃集計の方法を示しています。

- 運送業者を設定して支払い可能な運賃を集計できます。
- 顧客運賃の優先情報を設定して請求可能な運賃を集計できます。
- 料金コード別の運賃を受注オーダーの 1 行に集計することができます。
- 伝票を印刷するときに運賃を集計することができます。
- さらにシステムでは、総勘定元帳および買掛管理システムの特定の勘定科目コード内または伝票内で運賃を集計できます。

参照

- 支払運賃を計算するための運送業者の設定については、『輸送管理』ガイドの「運送業者マスター情報の設定」
- 受注オーダー行の料金コード別の運賃計算については、『輸送管理』ガイドの「レートと定義のセットアップ」
- 伝票印刷時の運賃の計算については、『輸送管理』ガイドの「伝票印刷プログラムの設定」

運賃の更新

〈更新〉メニュー(G49112)から〈運賃の更新〉を選びます。

売上更新(R42800)を実行する前に、〈運賃の更新〉レポート(R4981)を実行する必要があります。次のデータ選択に従って運賃を更新できます。

- 実際の出荷日
- システム日付
- 週間隔日付
- 運送業者

注:

〈運賃の更新〉は、特定の順序で実行してください。順序は変更できません。異なるデータ順序設定を作成する場合は、順序が無視されます。

多くの会社では、このプログラムに対してテスト・モードと最終モードを設定しています。テスト・モードを実行した後は、金額をチェックして必要な修正を行った上で、最終モードで実行します。最終モードでは、総勘定元帳が更新されます。テストか最終モードかは、処理オプションで設定します。

出荷関連の情報は、出荷見出しテーブル(F4215)と出荷経路ステップ・テーブル(F4941)に保存されます。運賃の情報はすべて、出荷料金テーブル(F4945)に保存されます。運賃を更新すると、運賃監査履歴テーブル(F4981)に情報が書き込まれます。テーブルには運賃にかかる税金の情報も含まれます。請求運賃と支払運賃のレコードが、出荷料金テーブル(F4945)から削除され、出荷経路ステップ・テーブルの情報が更新されます。

支払運賃は、総勘定元帳の取引明細テーブル(F0911)に書き込まれます。自動支払フラグをオンにしておくと、買掛管理システムの買掛金元帳テーブル(F0411)にも書き込まれます。テーブルの情報が更新されます。請求側では、受注明細テーブル(F4211)の運賃が更新されます。

〈顧客売上更新〉を実行すると、受注明細行から総勘定元帳と売掛管理システムに収益仕訳が書き込まれます。非在庫の受注明細行に対する請求運賃がある場合は、それも書き込まれます。

インバウンド出荷では、最後に更新を行うと、回収料金の支払レコードが作成されます。インバウンド出荷の運賃を割り当てることもできます。

アウトバウンドの品目別の運賃割当て

〈運賃の更新〉レポート(R4981)を実行すると、次の AAI に基づいて総勘定元帳に仕訳が書き込まれます。

運賃(4920)	支払運賃
収益(4230)	請求運賃

運賃の更新時に、料金コード・レベルで未払金や運賃などに対応する仕訳が作成されます。買掛管理システムと総勘定元帳にある元帳クラス・コードに基づいて、〈レート設定〉の料金が定義されます。元帳クラス・コードに基づく仕訳には、複数の料金タイプを使用できます。たとえば、運賃 AAI では各種の料金について、路線やその他の料金など、各種の仕訳を設定できます。

運送業者マスター(P4906)で自動支払フラグをオンにしておくと、総勘定元帳の未払仕訳と伝票の買掛金仕訳が作成されます。自動支払フラグをオフにすると、総勘定元帳の仕訳だけが作成されます。

注:

出荷運賃を出荷全体に占める重量と容量に応じて配分するには、料金に割り当てる料金コードに対応した運賃割当てがオンになっている必要があります。

運賃の割当てに使用する料金コードを定義すると、支払運賃が総勘定元帳に直接書き込まれます。総勘定元帳には、出荷の受注明細行ごとに複数の運賃仕訳が書き込まれます。請求運賃は、出荷の受注オーダーごとに集計され、非在庫行(行タイプ F)として書き込まれます。

〈顧客売上更新〉レポート(R42800)を実行すると、受注明細行から総勘定元帳と売掛管理システムに収益仕訳が書き込まれます。受注オーダーに割り当てられた運賃は、当初オーダーの明細行に追加されます。

収益配賦 AAI (4231)を使用することにより、受注明細 - タグ・テーブル(F49211)と受注明細テーブル(F4211)が配賦入力されます。

例: 品目別運賃の割当て

次の表では、受注オーダーでの 3 つの行を説明しています。

行番号	品目/数量	行タイプ	元帳クラス	料金
1.0	品目 A/20	S	IN30	200.00
2.0	品目 B/30	S	IN30	300.00
3.0	品目 C/50	S	IN31	500.00

この例では簡単に説明するために、すべての品目を同じ重さと仮定しています。

〈運賃の更新〉レポート(R4981)を実行すると、この受注オーダーに料金が運賃(F)の行タイプとして書き込まれます。次の表では次の内容を説明しています。

- すべての運賃は、オーダーの各品目に割り当てられます。
- 運賃 S は、全体のオーダーに変更されています。

行番号	品目/数量	行タイプ	元帳クラス	料金	割当運賃
1.0	品目 A/20	S	IN30	200.00	2.00
2.0	品目 B/30	S	IN30	300.00	3.00

3.0	品目 C/50	S	IN31	500.00	5.00
4.0	すべての運賃	F	FT10	10.00	
5.0	運賃 S	F	FT20	7.50	
	合計			1017.50	10.00

運賃を各品目に割り当てるために、次の計算が完了されます。

- 各行の比率を決定します。
上の計算では、行 1 ではオーダーの 20%を占めるので、割り当てられた運賃は 2.00 または行 4 の 20%となります。行 2 はオーダー数量の 30%を占め、3.00 または行 4 の 30%となります。行 3 はオーダー数量の 50%を占め、5.00 または行 4 の 50%となります。
- その行の割当運賃をオーダーされた品目数で割ります。
上の例では、各品目の運賃割当ては .10 です。

売上更新(R42800)時に、売掛管理システムと総勘定元帳に収益の仕訳が作成されます。

品目別の運賃割当て

インバウンド運賃は、品目の原価として含むことができます。運賃は総重量のパーセントまたは出荷量に割り当てられます。インバウンド運賃原価を品目レベルで割り当てる場合、運賃品目原価テーブル(F4105)と品目元帳テーブル(F4111)が、インバウンド出荷に割り当てられた運賃で更新されます。運賃条件が正しい場合または購買オーダーを受け取った後にのみ、インバウンド出荷 Y に対して品目別に運賃原価を割り当てることができます。品目別にインバウンド運賃原価を割り当てるには、処理オプションを設定します。

例: 品目別インバウンド運賃の割当て

次の表では、品目別にインバウンド運賃を割り当てる方法を説明しています。

品目 No.	数量/重量	総重量の%合計	品目別金額
品目 A	100 / 50	25	3.13 (12.50 の 25%)
品目 B	50 / 60	30	3.75 (12.50 の 30%)
品目 C	10 / 90	45	5.62 (12.50 の 45%)
合計	200		12.50

上に示したように、運賃は品目別に総重量で割り当てられます。次に、それぞれが運賃原価に対応する比率で割り当てられます。上の表の各要素は、次の運賃原価で割り当てられます。

- 品目 A = .0313 (3.13 / 100 個)
- 品目 B = .075 (3.74 / 50 個)
- 品目 C = .562 (5.62 / 10 個)

参照

- 運賃を更新した後で売上を更新する方法については『受注管理』ガイドの「売上情報の更新」

処理オプション: 運賃の更新レポート(R4981)

更新タブ

使用するモードおよび状況を更新するかどうかを指定します。

1. 実行モード

blank = テスト・モード

1 = 最終モード

最終モードで実行するか、テスト・モードで実行するかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = テスト・モードで実行

1 = 最終モードで実行

2. 支払/請求運賃の更新

blank = 支払/請求運賃両方を更新

1 = 支払運賃のみを更新

2 = 請求運賃のみを更新

支払運賃または請求運賃、またはその両方を実行するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 支払運賃と請求運賃の両方を実行

1 = 支払運賃の更新のみ実行

2 = 請求運賃の更新のみ実行

3. 出荷状況の更新

blank = 更新しない

出荷状況を更新します。blankの場合、出荷状況は更新されません。

デフォルト・タブ

使用するデフォルトを指定します。

1. 請求書日付

- 1 = 実際出荷日付を使用する
- 2 = システム日付を使用する

実際の出荷日付を使用するか、システム日付を使用するかを指定します。
有効な値は次のとおりです。

- 1 = 実際の出荷日付を使用
- 2 = システム日付を使用

2. 元帳日付

- 1 = 実際出荷日付を使用する
- 2 = システム日付を使用する

元帳日付として実際の出荷日付を使用するか、システム日付を使用するかを指定します。
有効な値は次のとおりです。

- 1 = 実際の出荷日付を使用
- 2 = システム日付を使用

3. 買掛金ビジネスユニット:

買掛金伝票に出荷元デポを使用するには“1”を入力してください。ブランクの場合は、出荷見出しテーブル(F4215)の自社事業所が使用されます。これは〈支払更新〉レポートに印刷される事業所になります。

所有事業所または元帳仕訳の当初デポのどちらを使用するかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 出荷見出しテーブル(F4215)の所有事業所を使用
この値は、買掛金更新レポートに印刷される事業所になります。

- 1 = 当初デポを使用
-

4. 総勘定元帳ビジネスユニット:

元帳項目に出荷元デポを使用するには“1”を入力してください。ブランクは出荷見出しテーブル(F4215)からの自社事業所が使用されます。

所有事業所または元帳仕訳の当初デポのどちらを使用するかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 出荷見出しテーブル(F4215)の所有事業所を使用

1 = 当初デポを使用

5. 買掛伝票タイプ(運送業者自動支払がオンの場合)

ブランク = FT

運送業者自動支払がオンの際の伝票タイプを指定します。

ブランクの場合は、デフォルト値として FT が使用されます。

6. 元帳仕訳伝票タイプ(運送業者自動支払がオフの場合)

ブランク = FT

運送業者自動支払がオフである際の元帳仕訳の伝票タイプを指定します。

ブランクの場合は、デフォルト値として FT が使用されます。

7. 略式品目番号の運賃原価勘定補助元帳への書き込み

ブランク = 書き込まない

1 = 書き込む

略式品目番号を運賃勘定科目補助元帳に書き込むかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 品目別に運賃を割り当てる際に略式品目番号を運賃勘定科目補助元帳に書き込まない

1 = 品目別に運賃を割り当てる際に略式品目番号を運賃勘定科目補助元帳に書き込む

処理タブ

任意勘定科目を処理するか、総勘定元帳と買掛金元帳の仕訳を計算するか、品目原価を更新するかどうかを指定します。

1. 任意勘定科目の使用

blank = 使用しない

1 = 使用する

任意勘定科目を使用するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 任意勘定科目を使用しない

1 = 任意勘定科目を使用する

2. 仕訳の集計

blank = 集計しない

1 = 伝票番号で仕訳を集計する

仕訳の形式を指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 明細形式

1 = 集計形式

3. 買掛仕訳の集計

blank = 集計しない

1 = 伝票番号で集計する

買掛仕訳の集計形式を指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 明細形式

1 = 集計形式

4. インバウンド出荷の品目原価の更新

blank = 更新しない

1 = 更新する

インバウンド出荷の品目原価を更新するかどうかを指定します。

これは、品目レベルの割当てがオンの変更に対してのみ行われます。

有効な値は次のとおりです。

blank = インバウンド出荷の品目原価を更新しない

1 = インバウンド出荷の品目原価を更新する

アウトバウンド SO タブ

使用する行タイプと次の状況、および次の状況を回避するか一時変更するかを指定します。

1. 追加された運賃行の行タイプ

blank = 品目事業所ファイルからの行タイプを使用する

追加した受注オーダーの運賃行の行タイプを識別します。

blank の場合、事業所品目テーブル(F4102)からの行タイプの値が使用されます。

2. 追加した運賃行の「次の状況」

blank = オーダー活動規則のデフォルトを使用する

受注オーダーの次の状況を一時変更します。

blank の場合、値設定にオーダー処理順序定義が使用されます。

3. 受注オーダーの「次の状況」更新の回避

blank = 回避しない

1 = 回避する

受注オーダーの次の状況の更新を回避します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 受注オーダー次の状況を更新する

1 = オーダーの次の状況の更新を回避

4. 受注オーダー「次の状況」の一時変更

blank = オーダー活動規則を使用する

受注オーダーの次の状況を一時変更します。

blank の場合、値設定にオーダー処理順序定義が使用されます。

積荷タブ

支払運賃の更新を処理するかどうかを指定します。

1. 最小積荷状況を入力

blank = 支払運賃更新処理を回避する

積載中の出荷の支払運賃を処理する最小積荷状況を指定します。
この積荷状況の前の積載中の出荷は、支払運賃更新の対象になりません。
blankの場合、支払運賃更新は処理されません。

バージョン・タブ

総勘定元帳 MBF 処理オプション(P0900049)、買掛管理 MBF 処理オプション(P0400047)、および受注 MBF(P4210)プログラムのバージョンを指定します。blankにした場合は、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

1. 総勘定元帳バージョン(P0900049)(必須)

〈仕訳書入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P0900049)のバージョンを指定します。このオプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

2. 買掛管理バージョン(P0400047)(必須)

〈伝票入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P0400047)のバージョンを指定します。
このオプションをblankにすると、ZJDE0001 バージョンが使用されます。

3. 受注 MBF バージョン(P4210)

blank = ZJDE0001

受注オーダー(P4210)のバージョンを指定します。
blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

印刷タブ

レポートを印刷するかどうかを指定します。

1. 支払更新レポートの印刷

ブランク = 印刷する

1 = 印刷しない

支払更新レポートを印刷するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = レポートを印刷する

1 = レポートを印刷しない

運賃請求書の突合せ

運送業者から請求された運賃は会社が支払います。自社の運送部門を使用する会社では、会社内でその運賃が請求されることがあります。運送業者を自動支払に設定していない場合は、請求された運賃と一致させる必要があります。支払運賃と一致した場合、請求金額を出荷に対して計算された金額と比較します。次に請求金額を承認した買掛伝票を作成します。運賃の請求書を突き合せたら、〈貨物監査履歴の処理〉プログラム(P4981)の〈運賃監査履歴の改訂〉フォームで情報を調整できます。

注:

運送業者を設定するときに自動支払オプションをチェックしている場合は、このタスクを行う必要はありません。

はじめる前に

- 処理オプションを設定すると、伝票を突合せ、〈伝票突合せ〉プログラム(P4314)の適切なバージョンを指定できます。

参照

- 支払伝票の処理については、『調達管理』ガイドの「伝票の作成」
- 自動支払オプションの設定については、『輸送管理』ガイドの「運送業者マスター情報の設定」

▶ 運賃請求書を突き合わせるには

〈更新〉メニュー(G49112)から〈未決済運賃/伝票突合せ〉を選びます。

1. 〈仕入先元帳照会〉で、[追加]をクリックします。

2. 〈伝票突合せ〉で、次のうち必要なフィールドに値を入力して、レコード情報を入力します。

- 仕入先 No.
- 事業所
- 請求書 No.
- 会社
- 請求書日付

元帳日付

3. [フォーム]メニューから[運賃突合せ]を選びます。
4. 〈運賃監査履歴の処理〉で、検索を絞り込むには、次のフィールドに値を入力して、[検索]をクリックします。
5. 伝票を突き合わせる運賃を選び、[選択]をクリックします。
6. 〈伝票突合せ〉で、グリッドの情報を検討および改訂して、[OK]をクリックします。

処理オプション:伝票入力(P0411)

表示タブ

伝票データの表示方法を指定します。

1. 定期伝票

ブランク = デフォルトなし

1 = 定期伝票のみ表示

定期伝票をデフォルトの伝票タイプとして指定します。

ブランク = すべての伝票を表示

1 = 定期伝票のみ表示

“1”を入力すると、〈仕入先元帳照会〉フォームの[定期伝票]オプションが自動的にオンになります。

2. 集計伝票

ブランク = デフォルトなし

1 = 集計伝票のみ表示

複数の支払項目がある伝票を 1 行に表示するかどうかを指定します。

blank = すべての伝票と支払項目をグリッドに表示する
1 = 支払項目を集計して1件の伝票を1行に表示する

“1”を入力すると、〈仕入先元帳照会〉フォームの[集計]オプションが自動的にオンになります。

通貨タブ

仮定通貨と基準日を指定します。

1. 仮定通貨

blank = 仮定通貨をグリッドに表示しない
または仮定通貨として使用する通貨コードを入力してください。

国内通貨または外貨をテーブルに保存されている通貨以外で表示します。仮定通貨を表示する場合の通貨コードを指定してください。たとえば、米ドル建ての金額をユーロで表示するにはEURと指定します。

この処理オプションがblankの場合、フォームの見出しの[仮定通貨]フィールドおよびグリッドの[仮定金額]、[仮定未決済金額]フィールドは表示されません。

注: 仮定通貨建ての金額は一時メモリに保存され、テーブルには書き込まれません。

2. 基準日

blank = 終了日付
または日付を入力してください。

仮定通貨の基準日を指定します。この元帳日付を使用して為替レート・テーブル(F0015)から為替レートが取り込まれます。

[仮定通貨]処理オプションで通貨コードを指定し、この処理オプションをblankにした場合、システム日付が使用されます。

注: 国内通貨/外貨と仮定通貨との為替レート(基準日時点)が為替レート・テーブル(F0015)に保存されている必要があります。

支払タブ

手入力の支払処理方法を指定します。

1. 支払作成

ブランク = 支払情報を表示しない

1 = 支払レコードを作成する

自動支払処理は行わずに手入力で支払を作成するよう指定します。このオプションは伝票照合なしの支払処理にのみ有効で、複数伝票モードや複数会社モードでは使用できません。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 支払情報を表示しない

1 = 手入力で支払を作成する(伝票照合なし)

注: "1"を入力した場合、〈仕入先元帳照会〉で[追加]をクリックしてください。次に〈伝票入力 - 支払情報〉フォームで伝票を入力して[OK]をクリックします。〈支払情報〉フォームに入力して支払処理を完了してください。

2. 重複する支払

ブランク = エラー

1 = 警告

重複する支払番号が入力された場合に表示するメッセージを指定します。[手入力による支払作成]オプションで"1"を入力した場合のみこの処理オプションを設定してください。既に同じ支払番号があることをメッセージで示します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = エラー・メッセージ

1 = 警告メッセージ

3. 自動支払番号の割当て

ブランク = 支払番号を手入力する

1 = 自動採番する

支払番号を自動採番するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 手入力で割り当てる(デフォルト)

1 = 自動採番

購買タブ

伝票削除の処理方法を指定します。

1. 伝票削除

blank = 検証しない

1 = 警告

2 = エラー

購買オーダー情報を含む買掛伝票を削除しようとした場合に表示するメッセージを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 編集を許可しない(デフォルト)

1 = 警告メッセージ

2 = エラーメッセージ

この処理オプションと伝票入力 MBF 処理オプションの[伝票メッセージ]オプションの設定が矛盾する場合は、ここで設定した値が有効になります。

伝票突合せタブ

伝票照合に使用するプログラムとバージョンを指定します。

1. 照合処理

blank = 標準伝票入力(P0411)を実行

1 = 伝票照合(P4314)を実行

デフォルトの買掛伝票タイプを標準伝票から照合伝票に変更します。伝票突合せプログラムを実行する場合、2 方向突合せと 3 方向突合せのいずれかの方法を選択できます。

有効な値は次のとおりです。

blank = 伝票入力(P0411)を実行する

1 = 調達管理システムの伝票突合せ(P4314)を実行する

または、〈非在庫購買オーダー処理〉メニュー(G43B11)で次のいずれかを選択してください。

・入荷確認/伝票突合せ

・伝票突合せ

〈伝票突合せ〉プログラム(P4314)は、MBF 処理オプション(P0400047)の設定には影響されません。

伝票を作成した後で返品した場合など、伝票の取消を行う場合があります。伝票が転記済みの場合は逆仕訳が作成されます。未転記の場合は、その伝票が削除されます。

注: 調達管理システムで作成した伝票は、買掛管理システムでは削除しないでください。

2. 伝票照合バージョン

ブランク = ZJDE0001 (デフォルト)
または特定のバージョンを指定してください。

調達管理システムでデフォルトの伝票突合せバージョンを受け入れるか、
<伝票突合せ>プログラム(P4314)のバージョン番号を入力します。
[実行する突合せ処理]オプションで“1”を入力した場合にこの処理
オプションを設定する必要があります。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = バージョン ZJDE0001 を使用する
または特定のバージョン番号を入力してください。

複数会社タブ

複数会社の処理方法を指定します。

1. 複数会社の単一仕入先

ブランク = 標準伝票入力
1 = 複数会社 - 単一仕入先伝票入力

複数の会社の費用となる伝票を処理するかどうか指定します。同じ仕入先に対して複数の会社で発生した費用を、それぞれの会社の費用勘定と銀行勘定に計上します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 標準の伝票入力を使用する
1 = 複数会社 - 単一仕入先の伝票入力を使用する

注: このタイプの伝票処理では手入力による支払処理はできません。

<その他の伝票入力方式>メニュー(G04111)の<複数会社 - 単一仕入先>からこの処理オプションにアクセスすることもできます。

複数伝票タブ

複数伝票の処理方法を指定します。

1. 複数伝票

ブランク = 標準伝票入力

1 = 複数伝票 - 単一仕入先伝票入力

2 = 複数伝票 - 複数仕入先伝票入力

この処理オプションを設定すると、仕入先に対する複数の伝票をスピーディに入力できます。2ステップ必要な標準の伝票入力とは異なり、複数伝票入力は1つのステップで済みます。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 標準の伝票入力を使用する

1 = 1つの仕入先に対する複数の伝票を入力する

2 = 複数の仕入先に対する複数の伝票を入力する

注: 複数伝票入力では伝票の追加のみ行うことができます。伝票を変更、削除、または無効にするには、標準の伝票入力を使用してください。また、このタイプの伝票処理では手入力による支払処理はできません。複数伝票入力のその他の制約、追加情報についてはマニュアルまたはオンラインヘルプを参照してください。

〈その他の伝票入力方式〉メニュー(G04111)の〈複数伝票 - 単一仕入先〉または〈複数伝票 - 複数仕入先〉からこの処理オプションにアクセスすることもできます。

仮伝票タブ

標準伝票または仮伝票のどちらを使用するか、および使用する元帳日付を指定します。

1. 仮伝票入力

ブランク = 標準伝票入力

1 = 仮伝票入力

仮伝票を入力できるようにするかどうかを指定します。この処理オプションを設定すると、計上する費用勘定がわからない場合でも伝票を入力して、後で適切な勘定科目に振り替えることができます。

仮伝票入力時に計上する費用仮勘定またはそれ以外のデフォルト勘定科目を指定できます。AAI項目PP(費用仮勘定)とPQ(買掛金仮勘定)を設定してください。PQを設定するには、〈会社名および番号〉プログラム(P0010)で[一時仮勘定の使用]オプションをオンにする必要があります。〈組織構造と勘定科目の設定〉メニュー(G09411)から〈会社名および番号〉を選択してください。

有効な値は次のとおりです。

- blank = 標準の伝票入力を使用する(デフォルト)
- 1 = 仮伝票入力を使用する

この処理オプションで“1”を入力すると、〈仕入先元帳照会〉フォームに[仮伝票]オプションが表示され、[前払]オプションの設定は無視されます。

〈その他の伝票入力方式〉メニュー(G04111)の〈仮伝票入力〉を選択してこの処理オプションにアクセスすることもできます。

注:この処理オプションは、伝票入力 MBF(P0400047)の処理オプションの[仮伝票]オプションと連動して機能します。仮伝票を処理するには、両方のオプションに“1”を入力する必要があります。〈伝票入力〉プログラムと伝票入力 MBF の両方の処理オプションで仮伝票が設定されている場合、〈伝票入力〉プログラムの処理オプションの[前払]タブの設定は無視されます。

2. 元帳日付

- blank = 手入力
- 1 = システム日付をデフォルトで自動的に入力

仮伝票のデフォルトの元帳日付にシステム日付を使用するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

- blank = 仮伝票入力時に手入力する
- 1 = システム日付をデフォルトの元帳日付とする

注:この処理オプションに“1”を入力すると、システム日付を上書きすることはできません。

前払タブ

支払データの処理方法を指定します。

1. 元帳クラス

買掛金勘定を決定する AAI 項目 PCyyyy の元帳クラスを指定します。たとえば、次のように元帳クラスを割り当てることができます。

- blank または 4110 - 買掛金
- RETN または 4120 - 未払金
- OTHR または 4230 - その他の買掛金勘定 (APC を参照)
- PREP または 4111 - 前払勘定

前払を計上する勘定科目を決定するための元帳クラスを入力してください。前払支払項目を自動的に作成するには、この処理オプションを設定する必要があります。ブランク(デフォルト)の場合、〈伝票入力〉プログラムが使用されます。

注: WorldSoftware と OneWorld の共存環境では、コード 9999 は使用しないでください。WorldSoftware では、コード 9999 は相手勘定を作成しないように転記プログラムで定義されています。

2. 勘定科目

前払支払項目の作成に使用される勘定科目を指定します。

勘定科目コードは次のいずれかの形式で入力できます。

- ・標準勘定科目コード(ビジネスユニット,主科目,補助科目)
- ・第 3 勘定科目コード(25 桁)
- ・略式 ID(8 桁)
- ・スピード・コード

勘定科目の最初の文字は勘定科目コードの形式を示します。勘定科目コード形式は〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)で定義してください。

注: [元帳クラス]オプションに正しい値を入力した場合のみ、この処理オプションを設定してください。

3. 支払状況コード

前払のデフォルト支払状況コードを入力します。支払状況コードは、伝票の現在の支払状況を示すユーザー定義コード(00/PS)です。

有効な値は次のとおりです。

- P 全額支払済み
- A 支払承認済みでまだ支払っていない
- H 承認保留
- R 保留
- % 源泉徴収税
- ? その他のコード(その他のコードは支払が保留になっている理由を示します)

注:

- ・適切な支払状況コードではない場合、支払を印刷することができません。
- ・[元帳クラス]オプションで正しい値を入力した場合のみこの処理オプションを設定してください。
- ・WorldSoftware と OneWorld の共存環境でこの処理オプションをブランクにすると、マイナスの前払支払項目のデフォルト値は H になります。

4. 日数

マイナスの前払項目の支払期日に追加する日数を入力します。この処理オプションは、WorldSoftware と OneWorld の共存環境でのみ有効です。

5. 税域フィールド

ブランク = 表示しない

1 = 表示する

〈前払税〉フォームを表示するように設定します。このフォームを使用して、マイナスの支払項目にプラスの支払項目とは異なる税コードを割り当てます。たとえば、プラスとマイナスの支払項目の税法上の扱いが異なる場合にこの設定が必要です。この処理オプションを設定しない場合、マイナスの支払項目にはプラスの支払項目と同じ税域と税目コードが割り当てられます。

〈前払税〉フォームで税域と税目コードを指定すると、プラスの支払項目の税域と税目コードが上書きされて新しいコードが表示されます。たとえば、いくつかのプラスの支払項目があり、それぞれに異なる税域と税目を指定している場合でも、〈前払税〉フォームで指定した特定の税域と税目コードがすべてのマイナスの支払項目に割り当てられます。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 前払税フォームを表示しない

1 = 前払税フォームを表示する

注: [元帳クラス] で正しい値を入力した場合のみこの処理オプションを設定してください。

6. 前払税域コード

共通の税率と税勘定の税域または地域を示すデフォルトのコードを入力します。このコードにより自動的に正しい税額が計算されます。税率/税域は納税先(都道府県や市町村など)を含むように設定してください。税率/税域テーブル(F4008)にある値を設定する必要があります。

注: [税域] オプションに "1" を入力した場合のみこの処理オプションを設定してください。

7. 前払税目コード

特定の仕入先との取引に使用するデフォルトの税目コードを設定します。この税目コードは、課税方法と収益および費用への配賦方法を指定するユーザー定義コード(00/EX)です。

注: [税域] オプションに "1" を入力した場合のみこの処理オプションを設定してください。

バージョン・タブ

伝票 MBF 処理オプション(P0400047)と仕訳入力 MBF 処理オプション(P0900049)プログラムのバージョンを指定します。空白にした場合は、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

1. 伝票 MBF バージョン

空白 = ZJDE0001 (デフォルト)
または特定のバージョンを指定してください。

伝票入力 MBF 処理オプション(P0400047)のバージョン ZJDE0001 を一時変更する場合のバージョン番号を指定します。

注: このバージョン番号の変更はシステム管理者が行うようにしてください。

2. 仕訳入力 MBF バージョン

空白 = ZJDE0001 (デフォルト)
または特定のバージョンを指定してください。

仕訳入力 MBF 処理オプション(P0900049)のバージョン ZJDE0001 を一時変更する場合のバージョン番号を指定します。

注: このバージョン番号の変更はシステム管理者が行うようにしてください。

処理タブ

伝票を処理するモードを指定します。

1. 伝票入力モード

空白 = 選択した伝票の変更可
1 = 選択した伝票の変更不可

〈仕入先元帳照会〉フォームで選択した伝票を変更できるようにするかどうかを指定します。空白の場合、既存の伝票を変更することができます。“1”を入力すると、〈仕入先元帳照会〉フォームでは既存の伝票は照会することしかできません。

有効な値は次のとおりです。

空白 = 伝票の変更可
1 = 伝票の変更不可

2. 仕入先セルフサービス・モード

blank = 仕入先に情報を表示しない

1 = 仕入先に伝票と支払情報を表示する

Java/HTML 版 OneWorld でのセルフサービス機能を使用するかどうかを指定します。この処理オプションを設定すると、仕入先がインターネットを使って伝票と支払の照会を行うことができます。

有効な値は次のとおりです。

blank = セルフサービス機能を使用しない

1 = セルフサービス機能を使用する

編集タブ

固定資産 ID を必須にするかどうかを指定します。

1. 固定資産 ID

blank = 固定資産 ID を必須にしない

1 = 固定資産 ID の入力を必須にする

仕訳入力で固定資産 AAI の勘定科目範囲にある勘定科目を入力した場合に、固定資産 ID を必須とするかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

blank = 必須にしない

1 = 必須にする

運賃更新の検討

運賃を更新したら、〈バッチ〉プログラム(P0011)の2つのメニュー・オプションを使用して更新された情報を確認できます。

〈運賃仕訳の検討〉メニュー・オプションを使用すると、総勘定元帳のすべての支払諸掛運賃を表示できます。総勘定元帳の運賃仕訳には、運賃費用、および自動支払が設定されていない運送業者に対する見越し運賃が含まれます。

〈支払運賃仕訳の検討〉メニュー・オプションを使用して、総勘定元帳で作成した仕訳を検討することができます。

参照

- バッチの表示については『一般会計』ガイドの「バッチ見出しの処理」

▶ 運賃仕訳を検討するには

〈更新〉メニュー(G49112)から〈運賃仕訳の検討〉を選びます。

1. 〈バッチの処理〉で、次のいずれかのオプションを選び、[検索]をクリックします。
 - 未転記バッチ
 - 転記済みバッチ
 - すべてのバッチ
2. グリッドの情報を検討して、[閉じる]をクリックします。

▶ 支払運賃仕訳を検討するには

〈更新〉メニュー(G49112)から〈支払運賃仕訳の検討〉を選びます。

1. 〈バッチの処理〉で、次のいずれかのオプションを選び、[検索]をクリックします。
 - すべてのバッチ
 - 転記済みバッチ
 - 未転記バッチ
2. グリッドの情報を検討して、[閉じる]をクリックします。

運賃監査履歴テーブルの調整

運賃請求書の突合せを行った後、運賃監査履歴テーブル(F4981)の伝票を検査することができます。このテーブルには税情報と同様に、出荷または積荷の請求運賃と支払運賃のレコードが保管されます。運賃を更新すると、このテーブルにレコードが追加されます。運賃の請求書を監査するには、運賃監査履歴テーブルのレコードを検査します。アウトバンドとインバウンド出荷の両方に対して運賃請求書の履歴を検査できます。運送業者の税情報も一時変更できます。

▶ 運賃監査履歴を調整するには

〈輸送照会〉メニュー(G4914)から〈貨物監査履歴の処理〉を選びます。

1. 〈運賃監査履歴の処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 検討する運賃レコードを選びます。
3. [ロー]メニューから[調整]を選びます。
4. 〈運賃監査履歴の改訂〉で、次のうち必要なフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 総額
 - 正味金額
 - 調整理由